



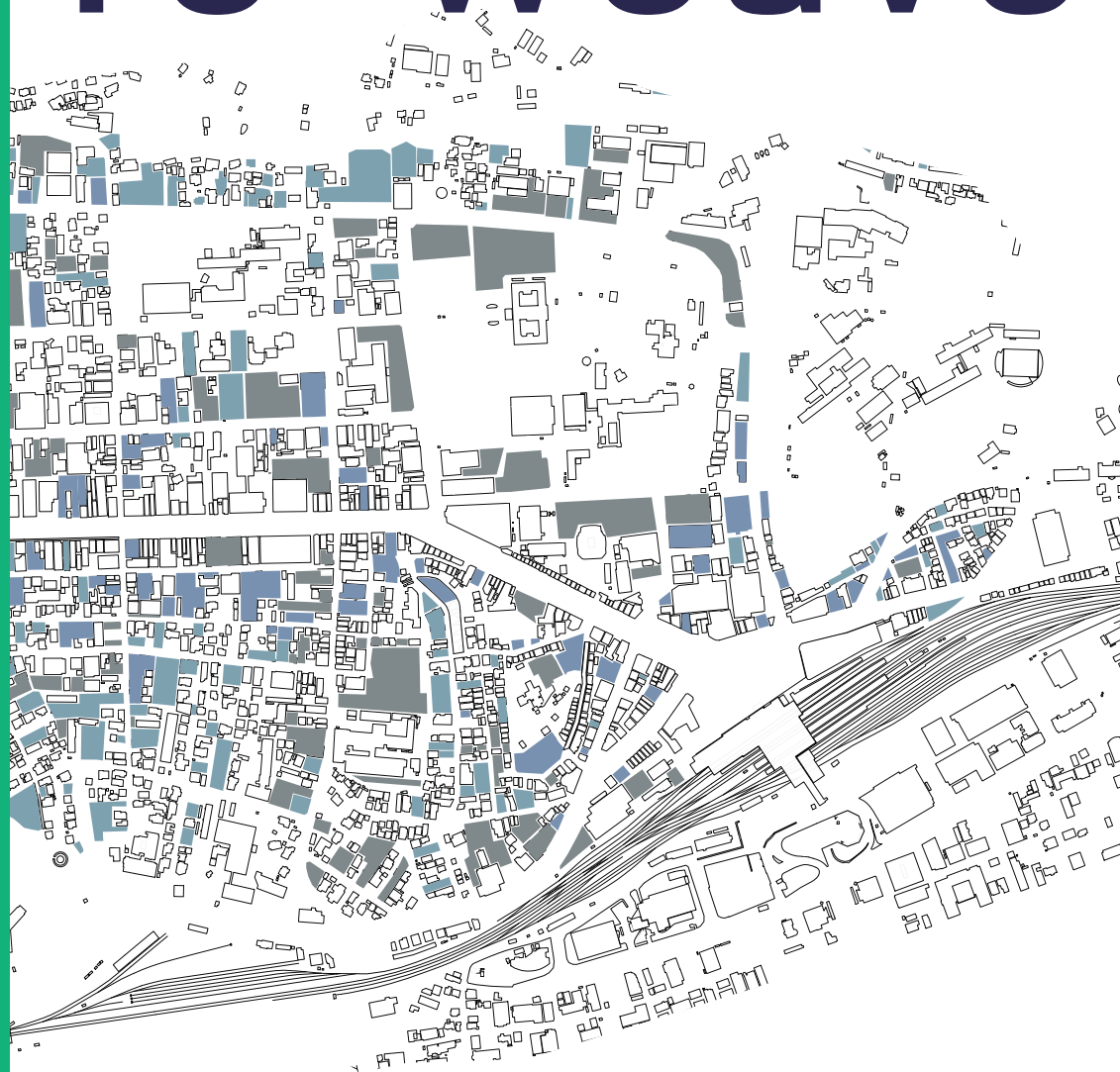
水戸芸術館
ART TOWER MITO

re-weave

続・水戸空間診断

水戸芸術館

re-weave



dead or alive から re-weave へ

続・水戸空間診断

記録集

『続・水戸空間診断 re-weave』

水戸芸術館現代美術センター

展覧会資料第 125 号

著作・編集：続・水戸空間診断 re-weave プロジェクトチーム、
井関悠、畑井恵、中川佳洋（水戸芸術館現代美術センター）

デザイン：続・水戸空間診断 re-weave プロジェクトチーム、
石井一十三（水戸芸術館現代美術センター）、小西百恵、上原尚登、
加藤雄大、角太陽、坂本萌乃、北村冬馬、小林和奏、小平千尋、
中山晴登、根本陽愛、安郁泉、飯島昂也、菅美星、鈴木大斗

撮影：山田協太（pp.112-116）、根本譲（pp.117-125）、仲田絵美（p.110）

特別協力：水戸商工会議所

印刷：株式会社グラフィック

発行日：2025年3月28日

発行：水戸芸術館現代美術センター

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 1-6-8

All rights reserved ©2025

目次

続・水戸空間診断 re-weave プロジェクトチーム	002
続・水戸空間診断総括 貝島桃代	003
続・水戸空間診断 dead or alive から re-weave へ	004
水戸空間ガイドマップ 2023	006
水戸空間ガイド 2023	008
都市空間のトランスフォーメーション 1830-2023	056
水戸コンテンツレポート 2023	058
水戸パーキングスタディーズ	071
“歴史を踏まえたまちづくり”を考える 平戸正英	098
未来のモビリティと駐車場 平田輝満	098
デジタル水戸プロジェクト	111
展示風景	117
参考文献・参照地図	126

プロジェクトメンバー：

- 一ノ瀬彩（茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学専攻）
- 久野靖広（茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学専攻）
- 稲用隆一（茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学専攻）
- 山田協太（筑波大学芸術系）
- 加藤研（筑波大学芸術系）
- 索米亜（筑波大学芸術系）

アドバイザー：平井政俊（平井政俊建築設計事務所）

学生メンバー：

- 安藤聡汰、上原尚登、海野純香、遠藤環、加藤雄大、小西百恵、
 - 角太陽、鶴志人、中山晴登、古川正晴、田中勝一郎、梯大紀、勝俣良太、
 - 草野諒、小平千尋、中川誉也、中津拓巳、二本松景人、根本陽愛、
 - 増澤立旭、安郁泉、山谷紘生、米山鈴薫、殿岡フィアン、飯島昂也、
 - 飯島雄太、井原沢登、上野真果、内田悠斗、金澤紗弥、坂本萌乃、
 - 鈴木大斗、高村美涼、山本明香里、押切成実、佐藤匠、齊藤凪緒、
 - 菅美星、田村光里、増田美紅、村上由衣、吉田香純、扇谷匠、
 - 佐久間栄己、佐藤天彦、谷村星哉、津守慶、村澤昌樹、鎌田吉紀
- （以上、茨城大学工学部都市システム工学科・同大学院理工学研究科都市システム工学専攻
建築デザインプログラム）
- 洪浩麟、Tsehelna Anastasiia、ZHAO ZONGYU、曾兆宇、
 - Shameen Randika Dharmasena、何靖、WU YI、
 - BAHARINIA Zahra、安東尚、張澤鋸、野口翔矢、吉田雅登、
 - Hretska Marya、蛭名祐一、高橋龍星、松本亜香里、吉田実紀、
 - 若山新太郎、ZHANG LEYI、ZHANG YAOYUN
- （以上、筑波大学大学院人間総合科学学術院デザイン学学位プログラム）

展示計画：

- 一ノ瀬彩、扇谷匠、飯島昂也、坂本萌乃、高村美涼、津守慶
- （茨城大学一ノ瀬研究室）

続・水戸空間診断総括

貝島桃代（アトリエ・ワン、スイス連邦工科大学チューリッヒ校建築振る舞い学講座教授）

歴史のあるまちの調査は難しい。2003年「水戸空間診断」では、最初に、学生たちがまちの変容について、地域の方々から話を聞きはじめたが、複雑で深い地域の関係性に、短時間ですべてを解きほぐし、歴史として整理することはむずかしいと判断した。そこでとった方法が、自分たちの建築学を専門とすることに立ち返って、客観的に物理的に違いが把握できる「建築」「空間」を道具立てとし、実際のまちの観察、図化を通して分析、専門家だけでなく、多くの人と共有できる情報のプラットフォームとなるガイドブックだった。それ以前に行った東京の調査¹⁾では、調査の発端となった展覧会²⁾が歴史に関するものだったため、他の出展者との距離を測って、あえて歴史を語ることをしなかった。が、水戸では、現代における水戸のくらしを個々の建築や空間事例の特徴をカタログ化することと並行し、歴史文献の比較参照により水戸のまちの変容の地図化と建築・空間の系譜づくりを試みた。江戸から明治、大正、昭和、戦前／戦後、高度成長期、バブル崩壊、車社会による中心市街地の空洞化が進む2003までを外観し、政治、経済、社会が目まぐるしく変化する激流での生き残りをかけたまちの奮闘記を作成することが、水戸のまちの応援歌にならないかとの仮説を持ったからである。

それから20年たった2023年。水戸では超高齢化と世代交代が進んでいる。情報化が進み、インターネットでいろいろなものが手に入るようになり、大量消費に飽きた人々がショッピングモールから離れ始めた機運をバネに、中心市街地の増加する空き地や空き家をもとに、政治、経済が動き、かつてのまちにはなかった大規模の建物や公共空間が作られはじめた。その波及効果によって、加速する空洞化やまちに微かにうまれつつある現象を捉え、2003年の記録との比較から、位置付けたのが、今回の「続・水戸空間診断」である。アトリエ・ワン、筑波大学貝島研究室OBOG、筑波大学、茨城大学の複数の研究室が世代を超えて、結集し、共同した。記録方法も以前の図化だけでなく、3Dスキャン技術を取り入れたインターネット上の仮想空間制作や、積極的なまちへの提案も行われている。それらが展示された展覧会では、両大学の教員、学生による熱のこもった公開の発表会や意見交換なども行われた。今回の成果が本となることで、今後の水戸のまちづくりのプラットフォームとなることを願う。そして、この経験を活かし、20年後の水戸のまちについて、私たちも一緒に考えていきたい。

註： 1) 貝島桃代、黒田潤三、塚本由晴：メイド・イン・トーキョー、鹿島出版会、2001
2) 磯崎新監修：磯崎新の革命遊戯、TOTO出版、1996年

続・水戸空間診断

dead or aliveからre-weaveへ

水戸の中心市街地の空間や風景を構成する建物や空き地、駐車場などの外観には、馬の背台地の地形的特徴を有した城下町の都市構造を基盤として、明治以降それぞれの時代背景や社会の要請による多様な都市活動に呼応した場所の固有性が現れている。筑波大学貝島研究室とアトリエ・ワンは、水戸芸術館で2004年に開催した「カフェ・イン・水戸2004」展において、水戸の中心市街地の現状について調査し、その結果を小冊子『dead or alive 水戸空間診断』にまとめている。

同書では、dead or alive（生きるか死ぬか）＝その場所が使われているか否か、そして特定の主体による場所の領有の仕方が現れる建物の客観的外観に着目し、水戸の中心市街地の空間を6つの様態に色分けした「health check map 健康診断地図」として、まちのサーモグラフを作成。さらに特徴的な物件を図解し「mito spatial map 水戸空間図」に示した。当時すでに顕在化していた経済低迷や人口減少に直面する「縮みゆく日本の空間の問題」に対し、水戸のまちの空間の持続可能性が真剣に問われる状況を提示した。こうしたまちの具体的な場所を定点観察と空間の解読によって、固有性の解釈を更新していくことは、水戸のまちの空間特性の一端を捉えなおしながら、これからのまちの潜在可能性を検討する上で有用な試みであるといえよう。

それから18年を経た2022年より、貝島桃代（アトリエ・ワン、ETHZ）、一ノ瀬彩・久野靖広・稲用隆一（茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学専攻）、山田協太・加藤研・索米亜（筑波大学芸術系）、平井政俊（平井政俊建築設計事務所）および茨城大学工学部都市システム工学科・同大学院理工学研究科都市システム工学専攻の建築デザインプログラム、筑波大学大学院人間総合科学学術院デザイン学学位プログラムの学生有志らで追調査を開始、2023年に水戸芸術館現代美術ギャラリーで開催した「アートセンターをひらくー地域をあそぶ」展において、次の4つのプロジェクトを展開した。

【水戸空間ガイド2023】

『dead or alive 水戸空間診断』の「水戸空間ガイド」に掲載された“物件”を追調査し、既存の建物や敷地の経過観察を通して水戸のまちの変化を捉える

【デジタル水戸プロジェクト】

水戸芸術館と市街の特徴的街区を対象に、この時代の技術によって水戸の街並みを3次元デジタルモデルとしてアーカイブする

【パーキング スタディーズ】

変容し続ける水戸中心市街地の駐車場調査から、その特徴を捉える多様な視点を提案し、供用空間としての駐車場の可能性を検討する

【水戸コンテンツレポート2023】

市内に存在するさまざまな“コンテンツ”のその後から、街中の大小の空地に着目して新たな土地利用の可能性を検討する

『dead or alive 水戸空間診断』ではおもに水戸のまちを“健康診断”し、その“状態”を把握するとともに“症状”を分類、その症状から導き出される未来のまちの姿を描くことを試みた。約20年後となる今、ふたたび水戸のまちの健康状態を“診断”し「水戸空間ガイド2023」としてまとめた。そこでは、20年前から変わらず生きてきた物件、新たな都市計画とともに、もしくはその役割を終え、あるいはコロナ禍の影響を受け廃業した／姿を消した物件、建物が取り壊され駐車場や空地となった物件が数多く見受けられる一方、高層マンションなどの集合住宅やホテルが建ち、若い人たちが物件をリノベーションし新たな店舗を開業、水戸城跡では大手門・二の丸角櫓・土塀が復元され、2023年には水戸芸術館の南側に新たな市民会館が開館するなど、水戸のまちは変わりつつある。その状況を“診断書”＝「水戸空間ガイド2023」「水戸コンテンツレポート2023」として提示し、3Dスキャンとメタバースという新たな技術を用いて現在の水戸のまちを「デジタル水戸プロジェクト」として記録した。その上で“処方箋”＝「パーキングスタディーズ」を提示し、水戸のまちの未来に向けて提言を行なっている。本書はその成果をまとめたものである。『dead or alive 水戸空間診断』の刊行から約20年を経て『続・水戸空間診断 re-weave』は編まれることとなった。本書の刊行を機に、多くの市民が、水戸のまちの過去を振り返り、現状を分析し、そして未来の創造へと紡いでいくことを望んでいる。

空間の様態

- 生き返り建築 — リノベーションや改装、復元によって形や用途が変化し、再び人々に使用されている空間
- 生きている建築 — 形や用途は変化していないが、人々に使われ続けている空間
- 廃業・跡地 — 廃業によって店舗など建物の一部が空家や更地となっている空間
- 廃墟 — 廃業によって空家・空きビルになったもののうち、人々に使われていない空間
- 駐車場 — 建築は存在しないが駐車場として人々に使われている空間
- 空地 — 建築が存在しない空間のうち、駐車場にもならず更地となっている空間

参考：dead or alive 水戸空間診断（筑波大学員島研究室＋アトリエ・ワン）

駐車場・空地

- コインパーキング
- 月極駐車場
- 専用駐車場
- 空地



0 250 500m

水戸空間ガイドマップ2023

水戸空間ガイド2023

2004年に開催された「カフェ・イン・水戸」展では、水戸の中心市街地で建築と都市のフィールド調査を行い、その結果を表現する作品「水戸空間ガイド」を制作した。都市空間の構成要素である土地と建築物を観察した結果、その様態は<生きている建築><廃業・跡地><廃墟><駐車場><空地><生き返り建築>の6種類に分類することができた。「水戸空間ガイド」は、それぞれの類型の特徴をよく表す48物件をアイソメ図で表現したものである。また、作品展示に併せて『dead or alive 水戸空間診断』と名づけた小冊子を発行し、水戸の街の活性している状況(alive)と空洞化している状況(dead)を診断することを試みた。

あれから約20年、2023年に水戸の中心市街地を再調査することになった。あの48物件は東日本大震災とコロナ禍を経てどのように変化しただろうか？ 茨城大学と筑波大学の学生が再び水戸のまちを歩きまわりフィールド調査を敢行した。本プロジェクト「水戸空間ガイド2023」はその記録であり、「水戸空間ガイド」のアップデート版であり、水戸市街地の20年間の変化を表すものである。

作品の見方

ページには図が上下に並んでいる。上が2004年の観察記録、下が2023年の観察記録である。

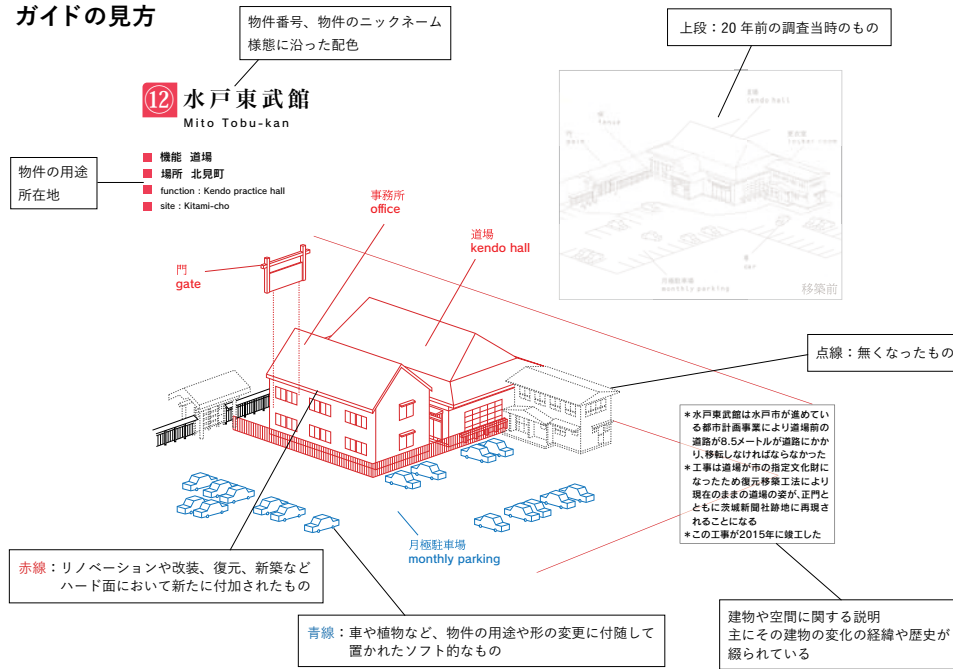
2004年「水戸空間ガイド」では、48物件が＜生きている建築＞＜廃業・跡地＞＜廃墟＞＜駐車場＞＜空地＞＜生き返り建築＞の6種類に分類され色分けされた。そして、その分類順に1～48の通し番号が付された。本作品「水戸空間ガイド2023」では、この通し番号を踏襲し、番号順に物件を並べている。なお、番号47「ウラミト」は、広域にわたる物件であり、20年間の変化を記述することが困難であったため、「水戸空間ガイド2023」の対象から除外した。

上図の番号の色は、2004年に色分けされた6種類の類型を示している。すなわち、＜生きている建築：黄色＞＜廃業・跡地：薄緑＞＜廃墟：水色＞＜駐車場：灰＞＜空地：薄灰＞＜生き返り建築：橙＞である。

下図の番号の色は、2022年から2023年にかけて観察された「変化」の類型を示している。すなわち、＜建替・新築：赤＞＜用途拡大：ピンク＞＜変化なし：灰＞＜用途縮小：水色＞＜駐車場化：青＞＜空地化：藍＞である。

現在の水戸の空間や風景を構成する大小の建物や空所、駐車場などの外観の観察から得られた特徴的な建物、都市空間を47物件取り上げて解説する。各物件はニックネーム、建物の特徴を引き出し線によって明記したダイアグラム、その建物や都市空間の用途、エリア、そして解説文によって表現される。今回調査対象とする物件は、2004年に発表された『dead or alive 水戸空間診断』の都市リサーチによって分類された6つの様態を特徴づける事例であり、それぞれの事例の様態の変化と現状を示している。

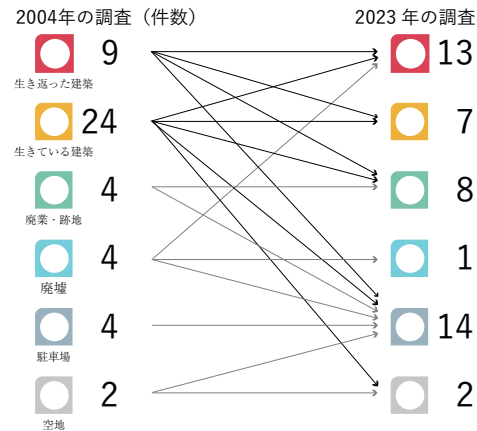
ガイドの見方



空間サーモグラフ 6種類の空間を1を赤色、6を灰色とするグラデーションで色分けし、まちの体温を表す



空間の様態の変化 2004→2023



- ・全ての様態において、駐車場に変化した空間がみられる
- ・生きている建築の数が大幅に減少した
- ・廃墟が生き返り建築や駐車場となったことで1件だけとなった
- ・新築をみると、その多くは商業施設ではなく戸建てやマンションなどの住宅である。
- ・20年前は生きている建築は黄門さん通りに、廃業した建築は駅から遠ざかった所に多く分布していたが、現在は各様態の分布に偏りがなくなり、それぞれの様態がまち全体に分布している
- ・駐車場の空間が増えたため、これまでは通りと街区から成り立っていたまちが、駐車場が奥へと展開することによって複数の通りと接続した新たな街区の特徴を形成し始めている

参考：『dead or alive 水戸空間診断』（筑波大学貝島研究室+アトリエ・ワン）

① 駄菓子屋コーナービル

Plum & Chips Building

- 機能 駄菓子屋+住宅
- 場所 大工町3丁目
- Function : Confectionery + Residence
- Site : Daiku-machi

水平連続窓
ribbon window

屋上
rooftop

看板
billboard

菓子台
snack stand

店舗
shop

* 黄門さん通りから偕楽園へ向かう角地に建つ駄菓子屋
* かつては市電の公園口駅前
* 納豆や梅など水戸ならではの土産も買える
* 様々な駄菓子屋が集められた袋売りが楽しい
* アールのついた水平連続窓で角地の立地をうまく取り入れている

① 元駄菓子屋コーナービル

Former Plum & Chips Building

- 機能 住宅
- 場所 大工町3丁目
- Function : Residence
- Site : Daiku-machi

住宅
residence

貼り紙
sticker

ファサード材料変化
facade material changed

植物
plants

* 黄門さん通りから偕楽園へ向かう角地に建つ三階建住宅
* かつて一階は駄菓子屋
* 一階の店舗は閉店
* 三階の窓にかわいい張り紙

用途縮小

② ライオンスタンド

Lion Gas Station

- 機能 アート作品+ガソリンスタンド
- 場所 大工町2丁目
- Function : Sculpture + Gas Station
- Site : Daiku-machi

ガソリンスタンド
gas station

のぼり
banner

花壇
flower bed

ライオン
lion

* 大工町交差点に面するガソリンスタンドに建つライオンの石像
* 水戸の活性化を託しアーティスト蔡國強が風水占いの結果に従い制作
* 石油会社会長で水戸芸術館現代美術センターディレクターの協力により実現

② ライオンスタンド

Lion Gas Station

- 機能 アート作品+ガソリンスタンド
- 場所 大工町2丁目
- Function : Sculpture + Gas Station
- Site : Daiku-machi

ガソリンスタンド
gas station

植物
plants

タイヤ売り場
tire shop

のぼり
banner

花壇
flower bed

ライオン
lion

* 機能は今もガソリンスタンドであり、空間の大きな変化も見受けられない
* アート作品のライオンもそのままおいてある
* タイヤ販売のボックスとプランターが新たに追加されていた

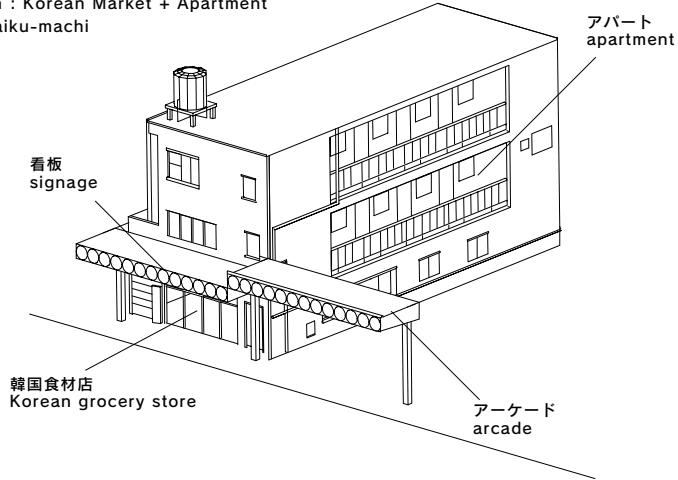
変化なし

③ コリアンカルチャーセンター

Korean Cultural Center

- 機能 韓国食材店+アパート
- 場所 大工町2丁目
- Function : Korean Market + Apartment
- Site : Daiku-machi

* 韓国の食材店・ビデオレンタル・アパートが複合
* 水戸の韓国文化の交流センター



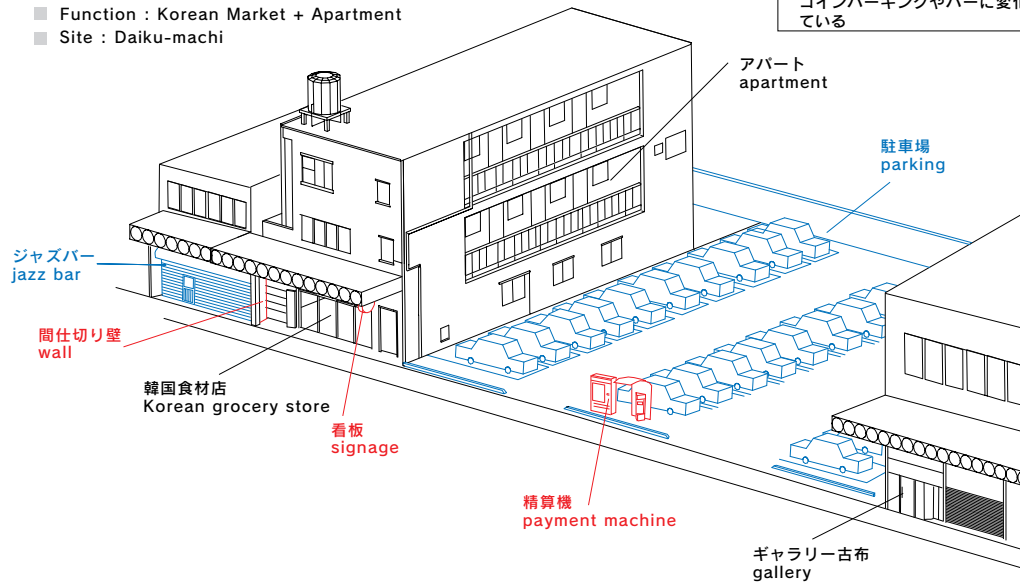
③ コリアンカルチャーセンター

Korean Cultural Center

- 機能 韓国食材店+アパート
- 場所 大工町2丁目
- Function : Korean Market + Apartment
- Site : Daiku-machi

変化なし

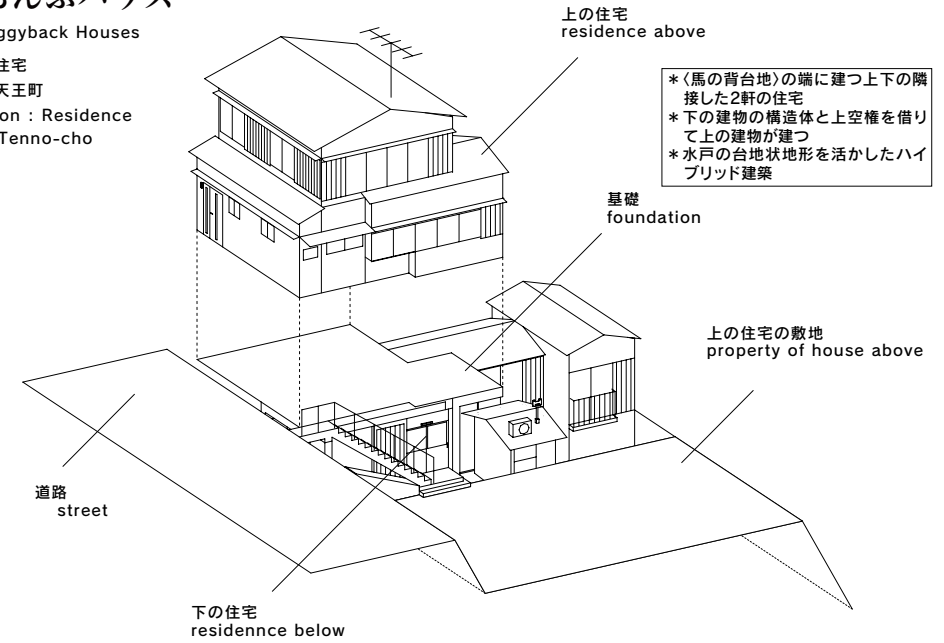
* 韓国の食材店とアパートが複合
* 水戸の韓国文化の交流センター
* 店舗自体に変化はなく、店舗周辺がコインパーキングやバーに変化している



④ おんぶハウス

Piggyback Houses

- 機能 住宅
- 場所 天王町
- Function : Residence
- Site : Tenno-cho



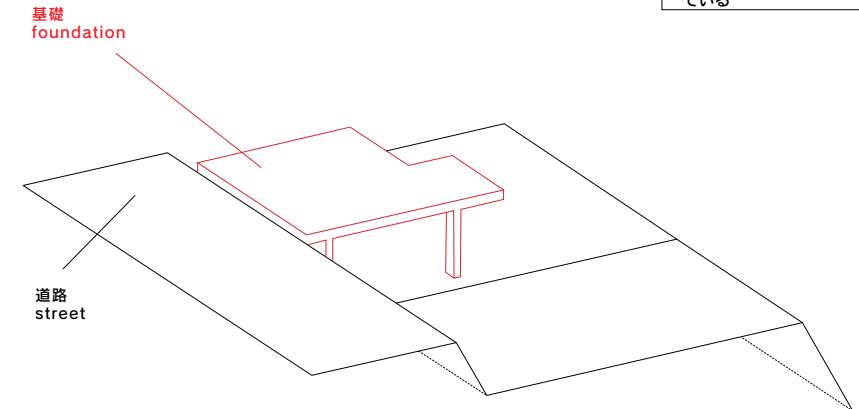
④ おんぶハウスの基礎

Foundation of Piggyback Houses

- 機能 なし
- 場所 天王町
- Function : None
- Site : Tenno-cho

空地化

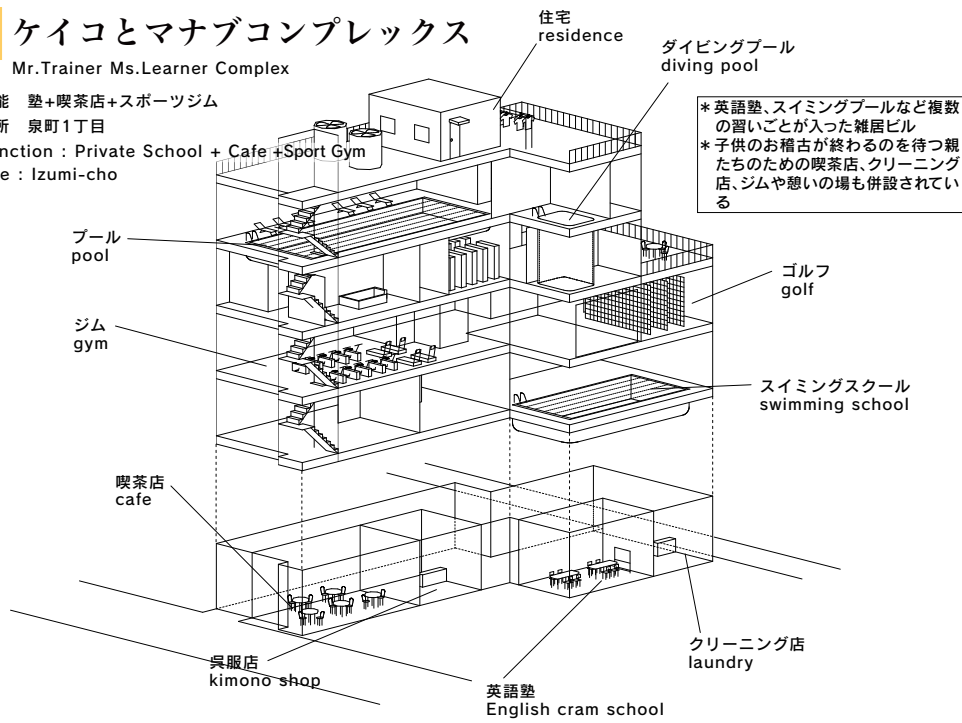
* <馬の背台地>に建つ上下の2軒の住宅がなくなった (The two adjacent houses built on the horse-back terrace have disappeared), * 鉄筋コンクリートの基礎だけが残っている (Only the reinforced concrete foundation remains).



05 ケイコとマナブコンプレックス

Mr.Trainer Ms.Learner Complex

- 機能 塾+喫茶店+スポーツジム
- 場所 泉町1丁目
- Function : Private School + Cafe + Sport Gym
- Site : Izumi-cho

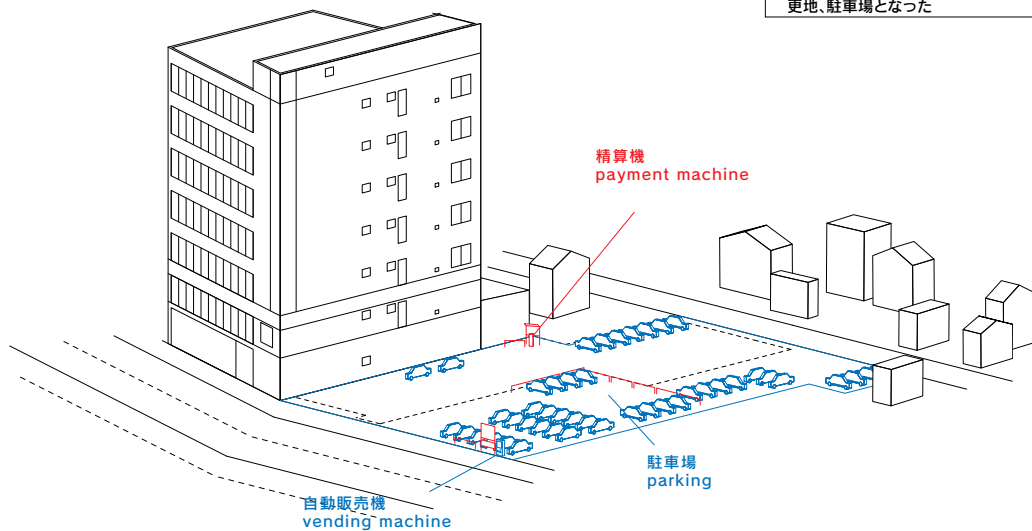


05 元ケイコとマナブコンプレックス

Former Mr.Trainer Ms.Learner Complex

- 機能 駐車場
- 場所 泉町1丁目
- Function : Parking
- Site : Izumi-cho

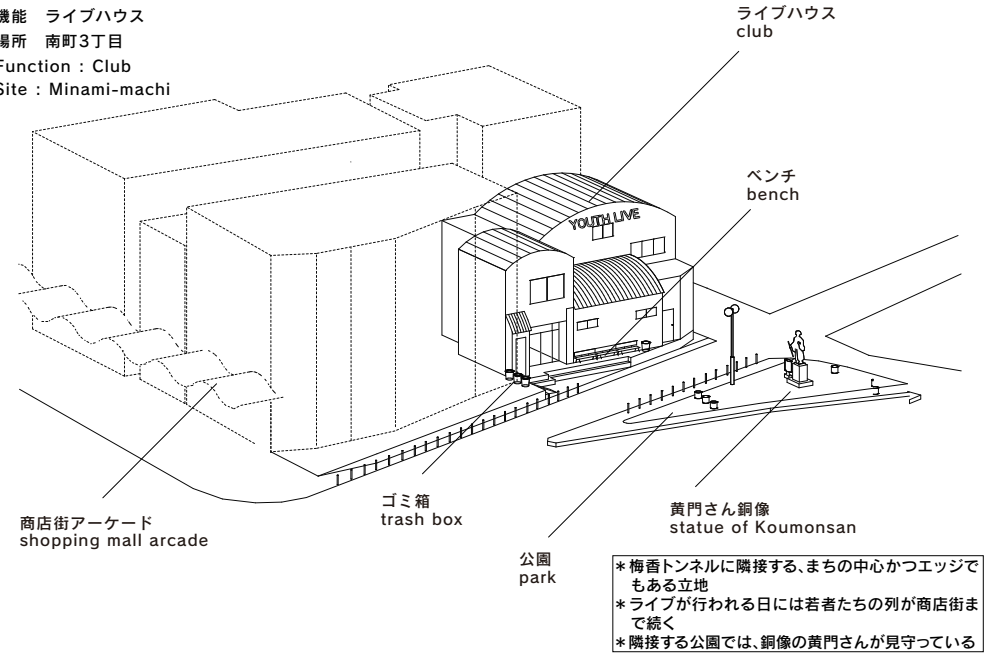
駐車場化



06 ユースライブ

Youth Live

- 機能 ライブハウス
- 場所 南町3丁目
- Function : Club
- Site : Minami-machi

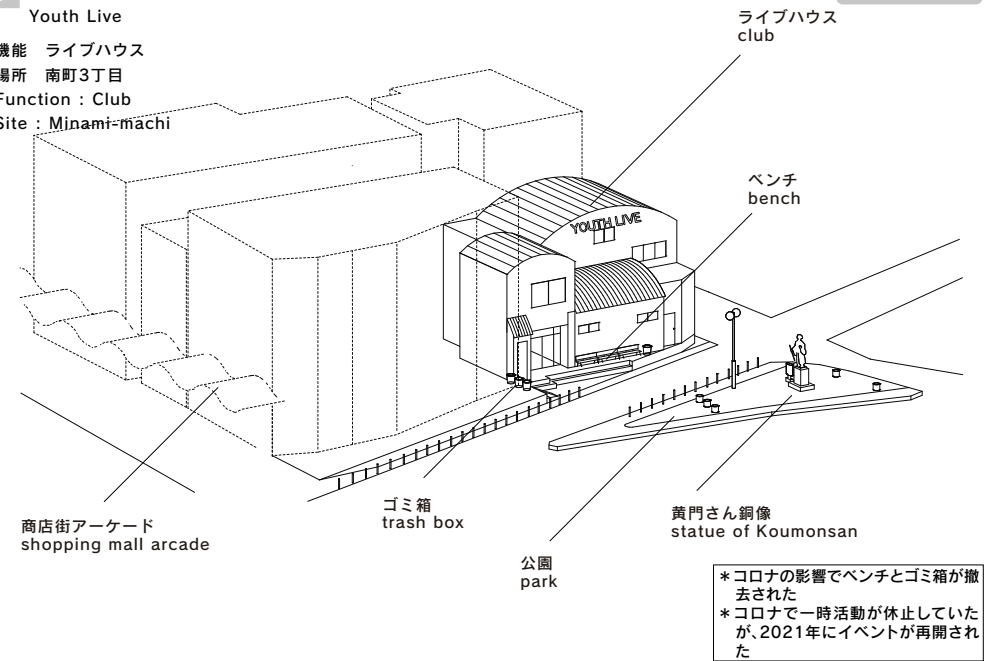


06 ユースライブ

Youth Live

- 機能 ライブハウス
- 場所 南町3丁目
- Function : Club
- Site : Minami-machi

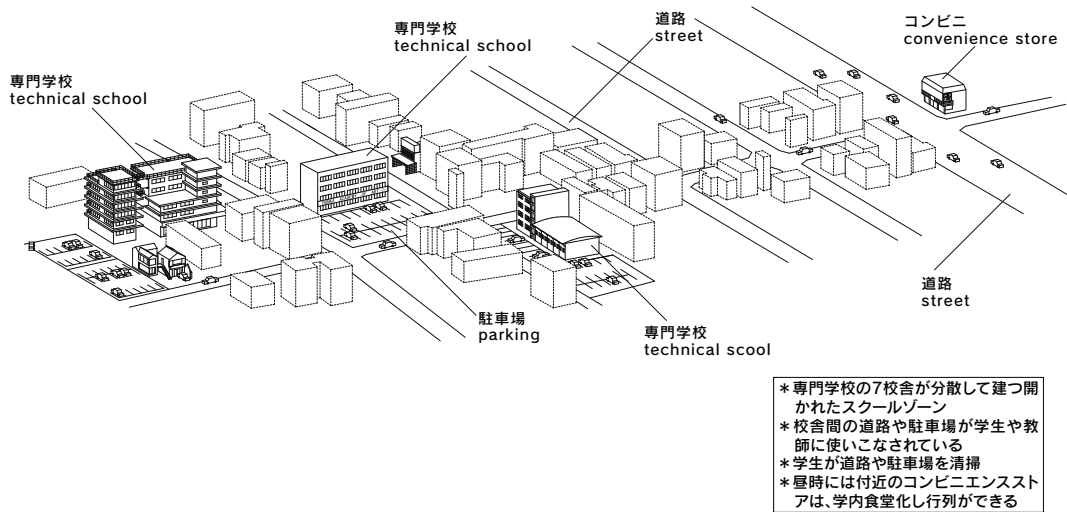
変化なし



07 スクールビレッジ

School Village

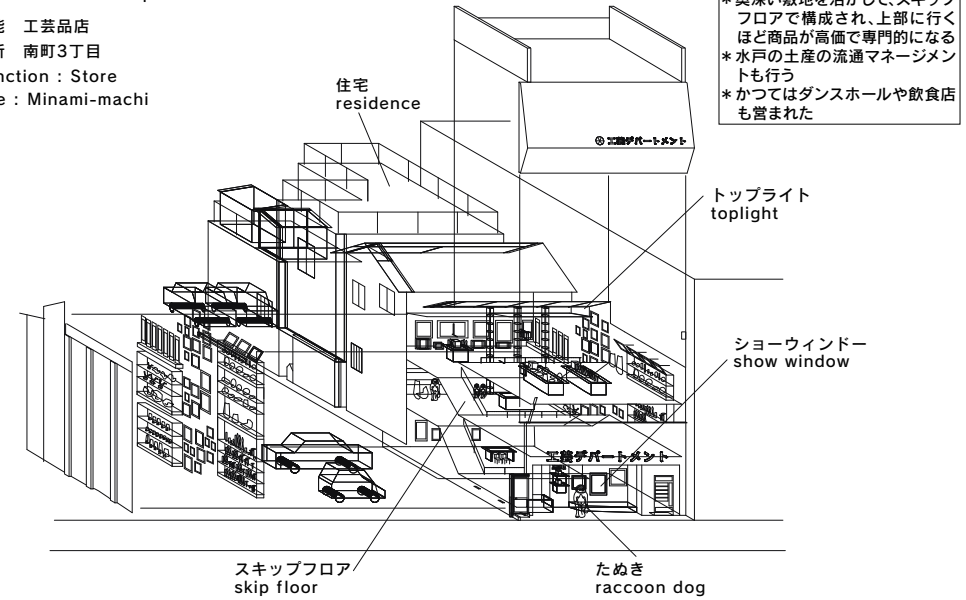
- 機能 専門学校+道路+駐車場
- 場所 南町2丁目3丁目
- Function : Technical School + Street + Parking
- Site : Minami-machi



08 工芸品デパートメント

Hand Crafts Department Store

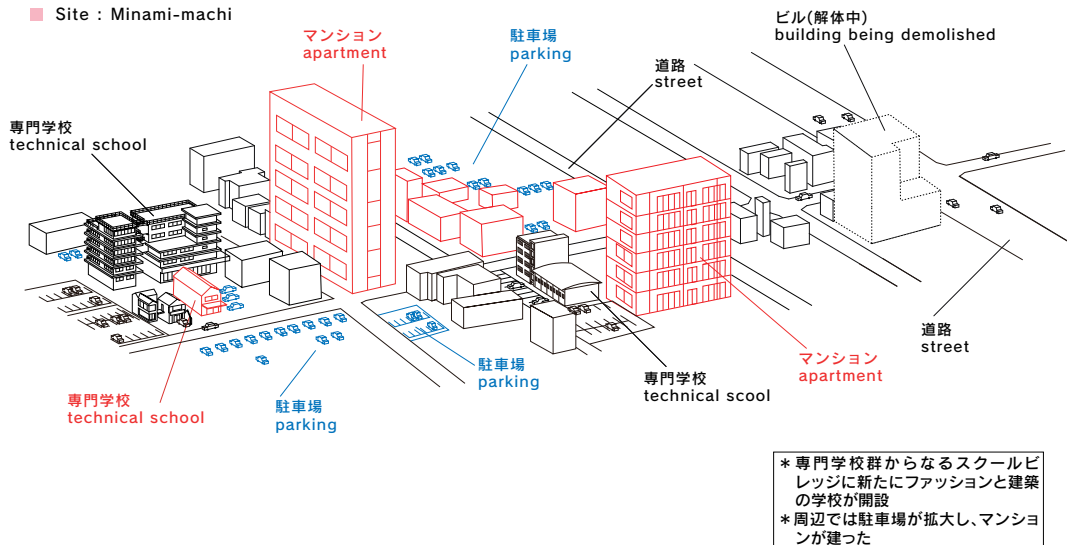
- 機能 工芸品店
- 場所 南町3丁目
- Function : Store
- Site : Minami-machi



07 スクールビレッジ

School Village

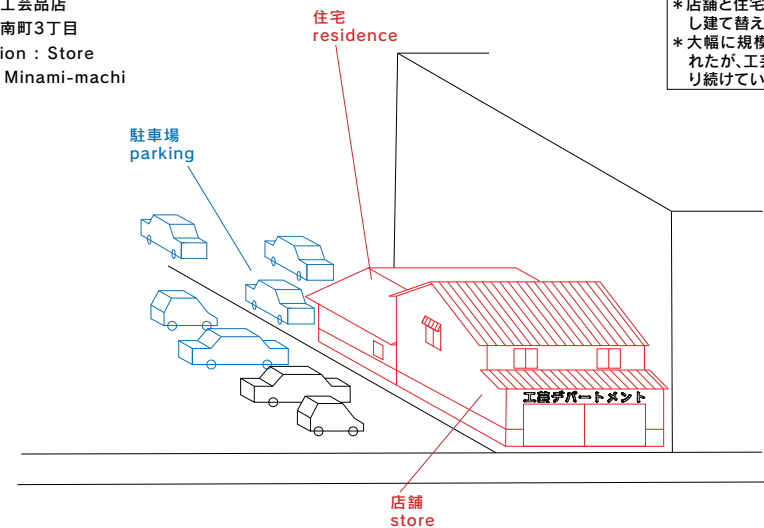
- 機能 専門学校+道路+駐車場+マンション
- 場所 南町2丁目3丁目
- Function : Technical School + Street + Parking + Apartment
- Site : Minami-machi



08 工芸品デパートメント

Hand Crafts Department Store

- 機能 工芸品店
- 場所 南町3丁目
- Function : Store
- Site : Minami-machi

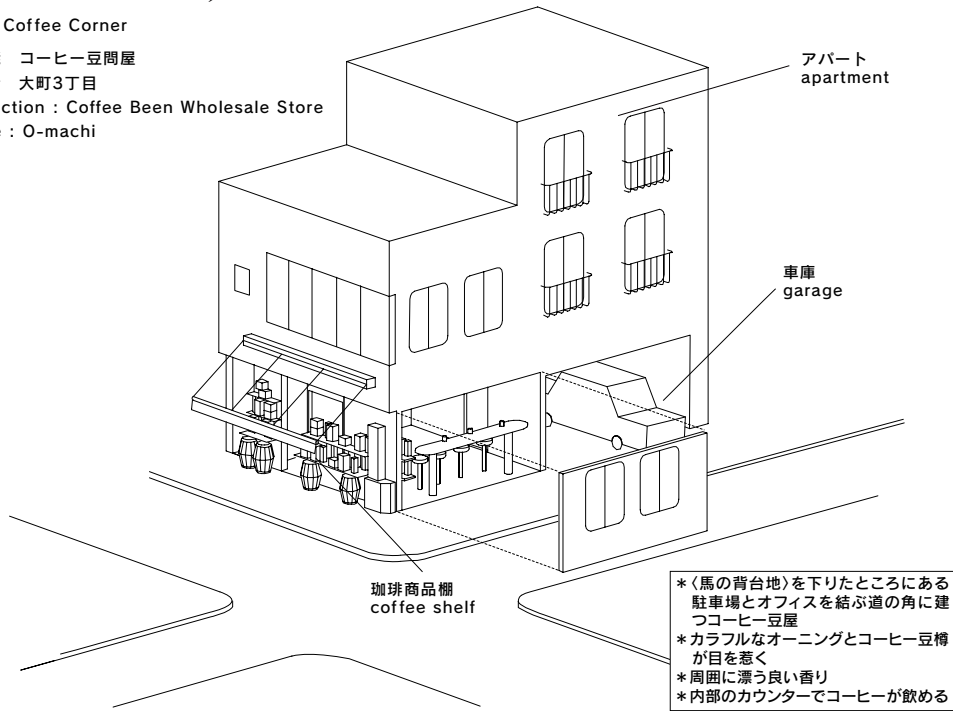


建替/新築

09 コーヒーコーナー

Coffee Corner

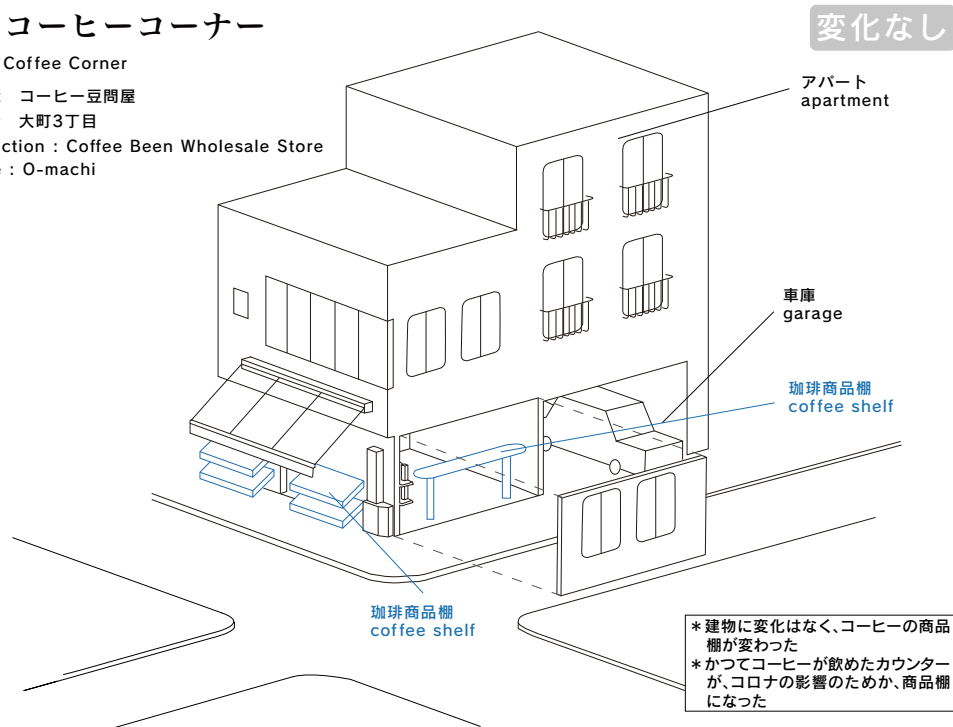
- 機能 コーヒー豆問屋
- 場所 大町3丁目
- Function : Coffee Been Wholesale Store
- Site : O-machi



09 コーヒーコーナー

Coffee Corner

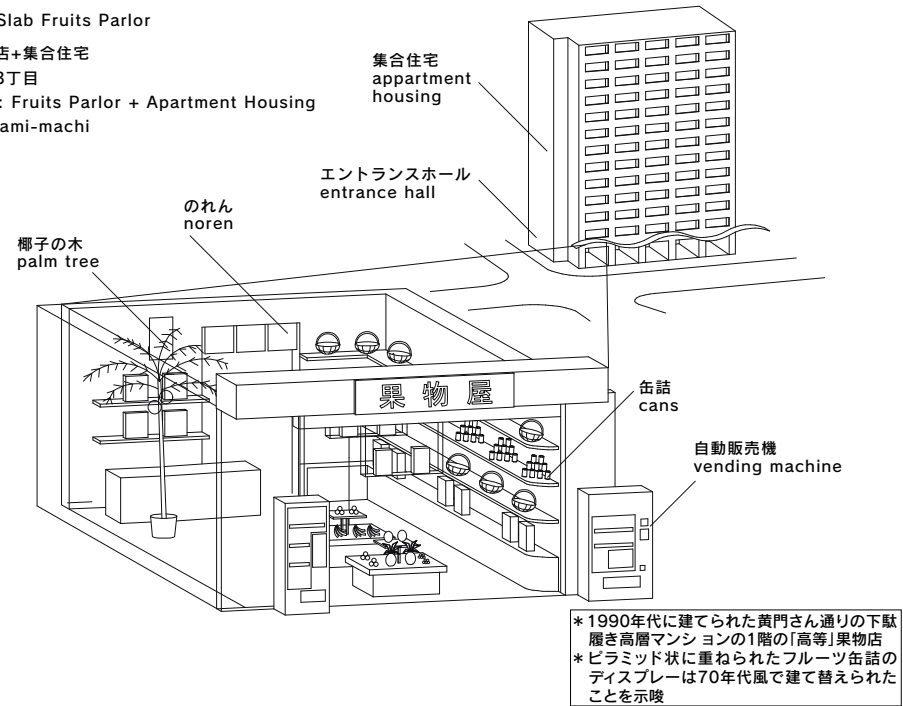
- 機能 コーヒー豆問屋
- 場所 大町3丁目
- Function : Coffee Been Wholesale Store
- Site : O-machi



10 下駄履き果物店

Geta Slab Fruits Parlor

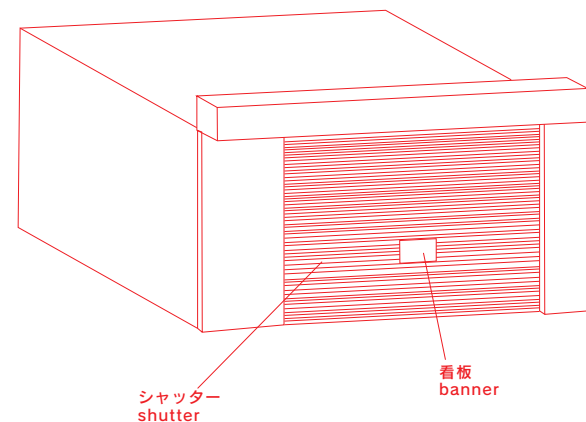
- 機能 果物店+集合住宅
- 場所 南町3丁目
- Function : Fruits Parlor + Apartment Housing
- Site : Minami-machi



10 元下駄履き果物店

Former Geta Slab Fruits Parlor

- 機能 空き店舗
- 場所 南町3丁目
- Function : Vacant Store
- Site : Minami-machi



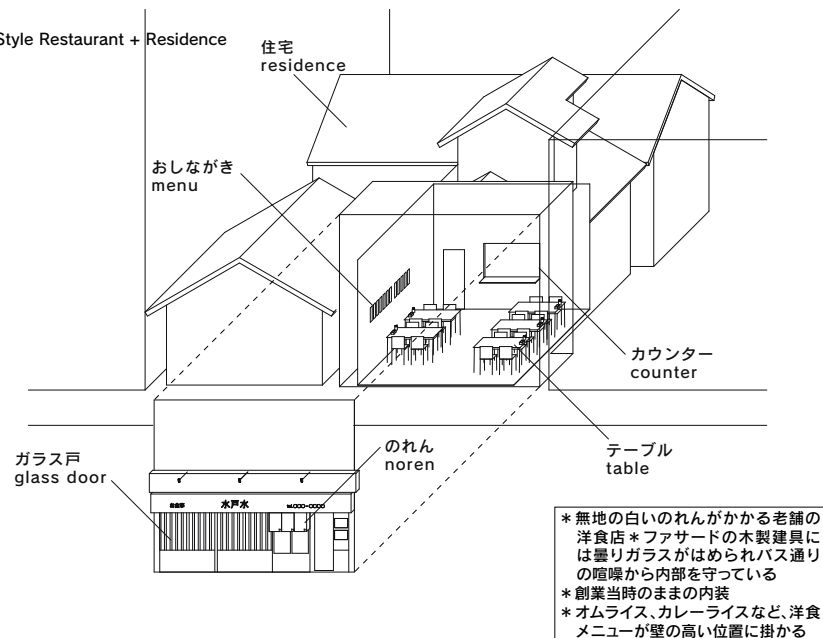
- *果物屋が廃業した後、一時不動産屋
になったが、現在は空き店舗
- *建物の外観はあまり変わっておらず
シャッターが降りている
- *自動販売機が撤去された

用途縮小

11 白いのれんの洋食店

White Noren Restaurant

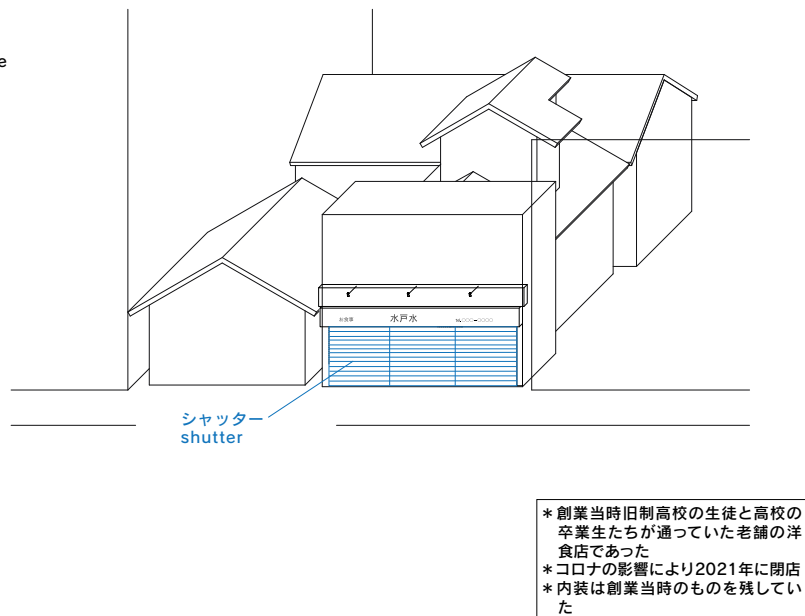
- 機能 洋食店+住宅
- 場所 大工町1丁目
- Function : Western-Style Restaurant + Residence
- Site : Daiku-machi



11 元白いのれんの洋食店

Former White Noren Restaurant

- 機能 空店舗
- 場所 大工町1丁目
- Function : Vacant Store
- Site : Daiku-machi

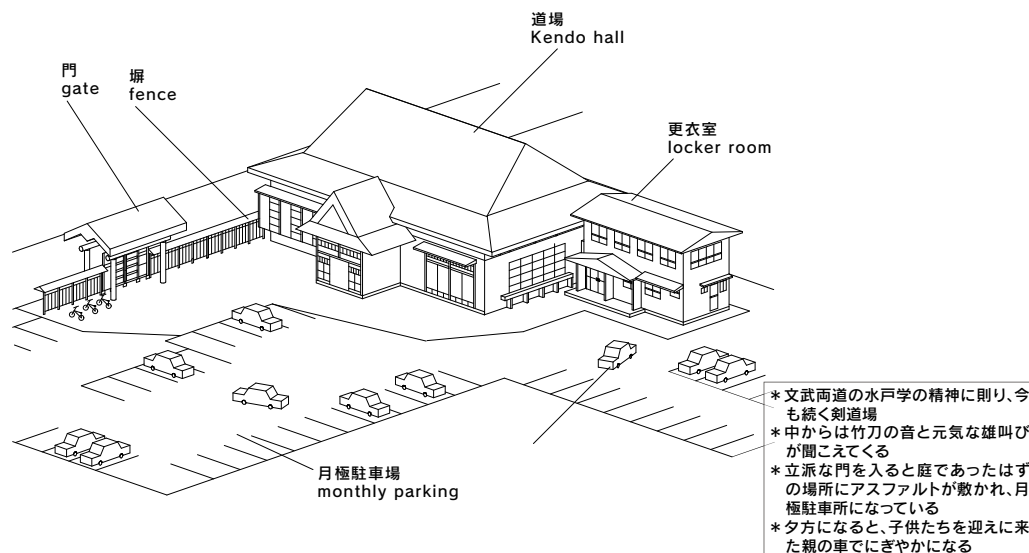


用途縮小

12 水戸東武館

Mito Tobu-kan

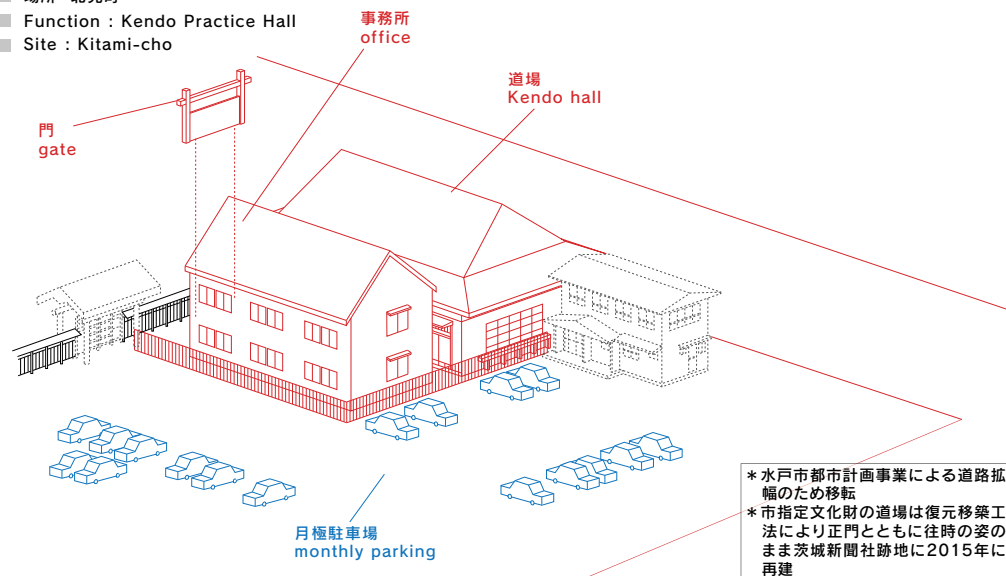
- 機能 道場
- 場所 北見町
- Function : Kendo Practice Hall
- Site : Kitami-cho



12 水戸東武館

Mito Tobu-kan

- 機能 道場
- 場所 北見町
- Function : Kendo Practice Hall
- Site : Kitami-cho

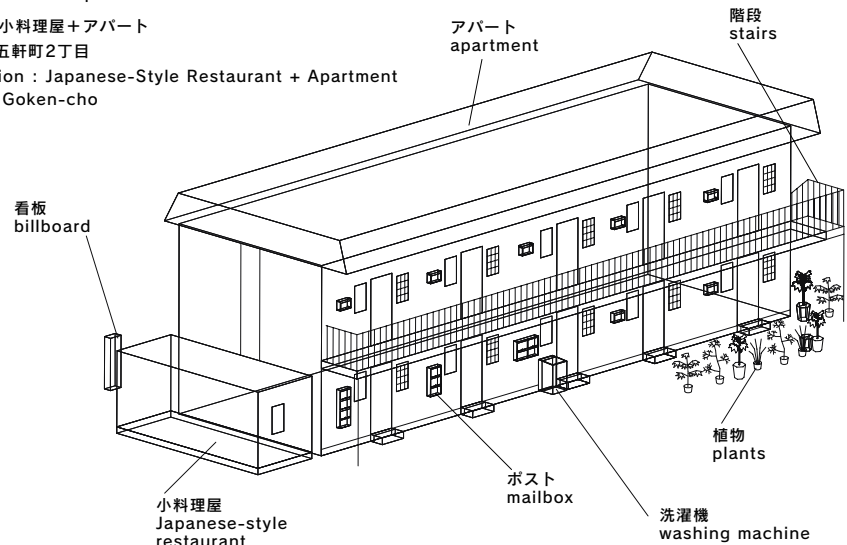


変化なし

13 テナントインアパート

Tenant in Apartment

- 機能 小料理屋+アパート
- 場所 五軒町2丁目
- Function : Japanese-Style Restaurant + Apartment
- Site : Goken-cho



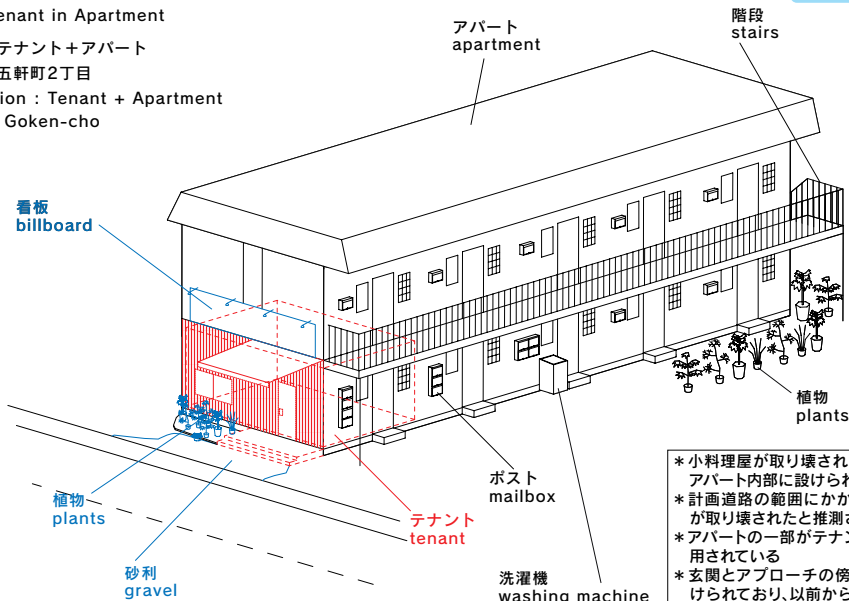
* コンテナサイズの小料理屋と背後のアパートの組み合わせ
 * アパートのドアにはなぜか2-4の郵便受け
 * 店名、アパート名に付けられた花の名前は小料理屋のママの名前？

13 テナントインアパート

Tenant in Apartment

- 機能 テナント+アパート
- 場所 五軒町2丁目
- Function : Tenant + Apartment
- Site : Goken-cho

用途縮小

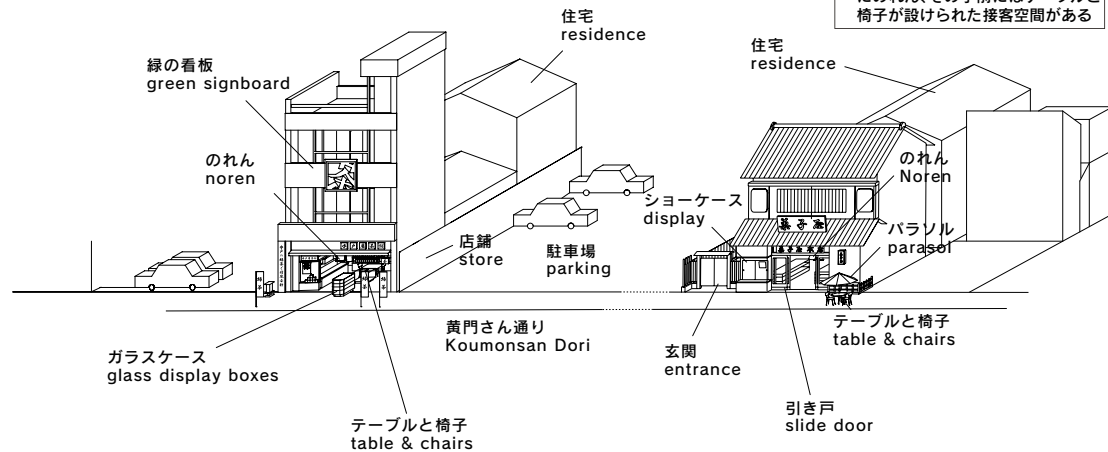


* 小料理屋が取り壊され、テナントがアパート内部に設けられた
 * 計画道路の範囲にかり小料理屋が取り壊されたと推測される
 * アパートの一部がテナントとして利用されている
 * 玄関とアプローチの傍に植栽が設けられており、以前から見られる緑への愛着が残っている
 * 小料理屋の後はエステサロンがあったことが看板からわかる

14 正統水戸商店

Mito-orthodox Mall

- 機能 茶屋+和菓子屋+住宅
- 場所 南町1丁目3丁目
- Function : Japanese Cake Store + Tea House + Residence
- Site : Minami-machi



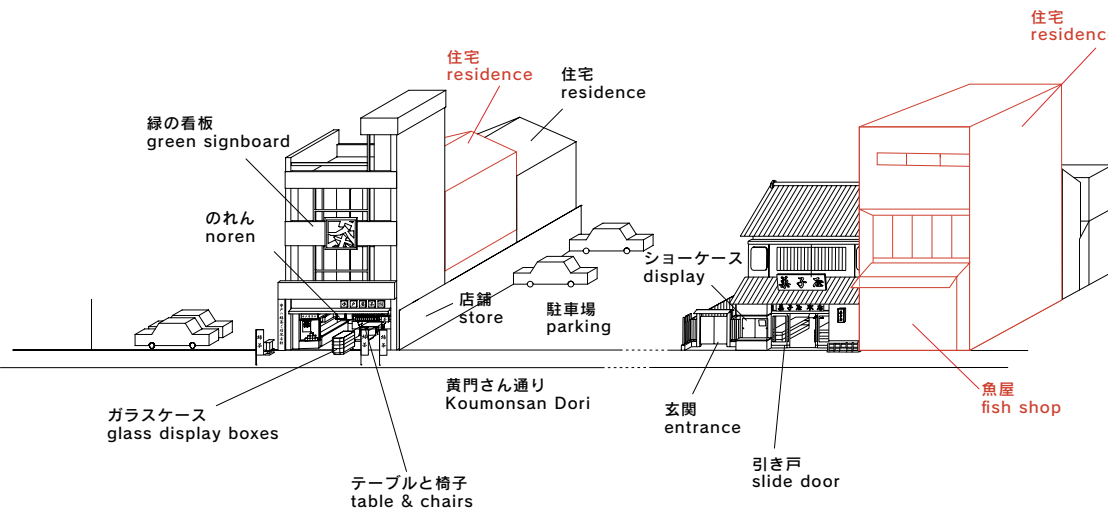
* 黄門さん通りにある江戸時代からつづく和菓子屋と茶屋
 * ショーウィンドーのかわりにガラスケースが置かれ、店はほとんど外部空間といって良いほど開放されている
 * ライティングも控えめで、派手なところはないが、磨き込まれたガラス面、整然と並べられた商品、売り子さんのユニフォームなど、背筋がびしっと伸びた接客に触れることができる
 * 店と奥のプライベートな空間との間にのれん、その手前にはテーブルと椅子が設けられた接客空間がある

14 正統水戸商店

Mito-orthodox Mall

- 機能 茶屋+和菓子屋+住宅
- 場所 南町1丁目3丁目
- Function : Japanese Cake Store + Tea House + Residence
- Site : Minami-machi

変化なし

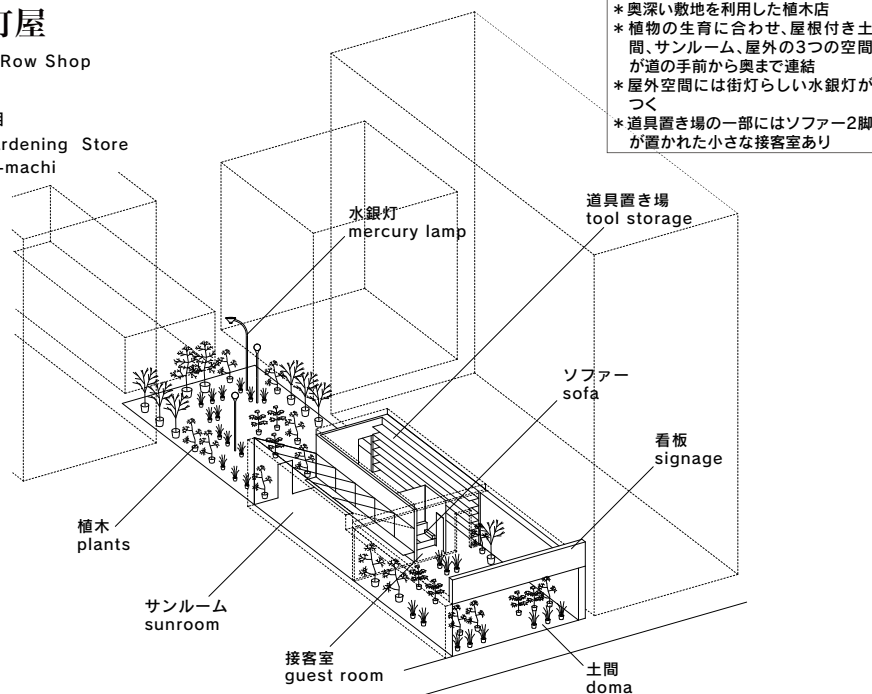


* お茶屋さんもお菓子屋さんもう変わらずにそのまま存在している
 * お菓子屋さんの右側には3階建ての新しい建物が建った。1階は魚屋、2階と3階は住宅

15 植木町屋

Green & Row Shop

- 機能 植木屋
- 場所 南町3丁目
- Function : Gardening Store
- Site : Minami-machi

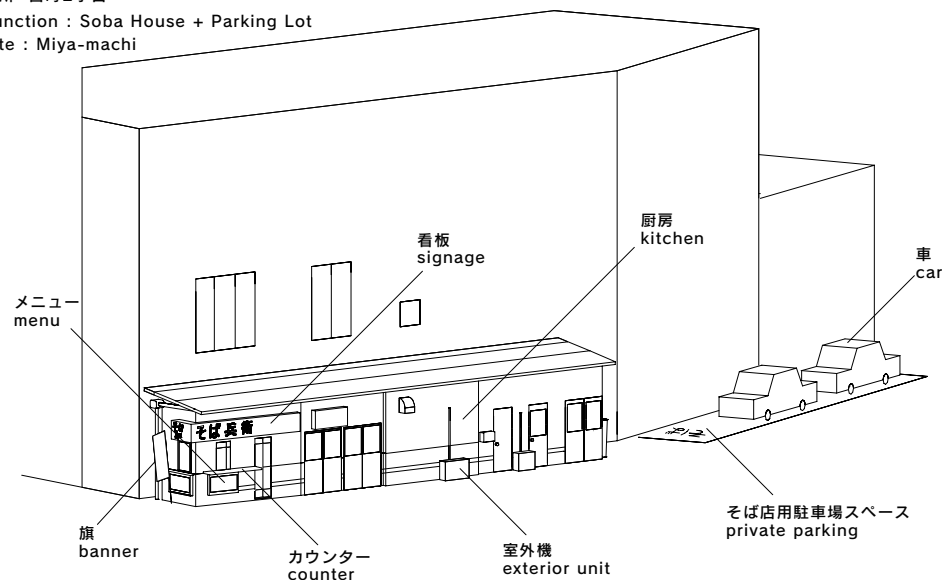


- *奥深い敷地を利用した植木屋
- *植物の生育に合わせ、屋根付き土間、サンルーム、屋外の3つの空間が道の手前から奥まで連結
- *屋外空間には街灯らしい水銀灯がつく
- *道具置き場の一部にはソファ2脚が置かれた小さな接客室あり

16 細く長く伸びたそば屋

Long Soba House

- 機能 そば店+駐車場
- 場所 宮町2丁目
- Function : Soba House + Parking Lot
- Site : Miya-machi

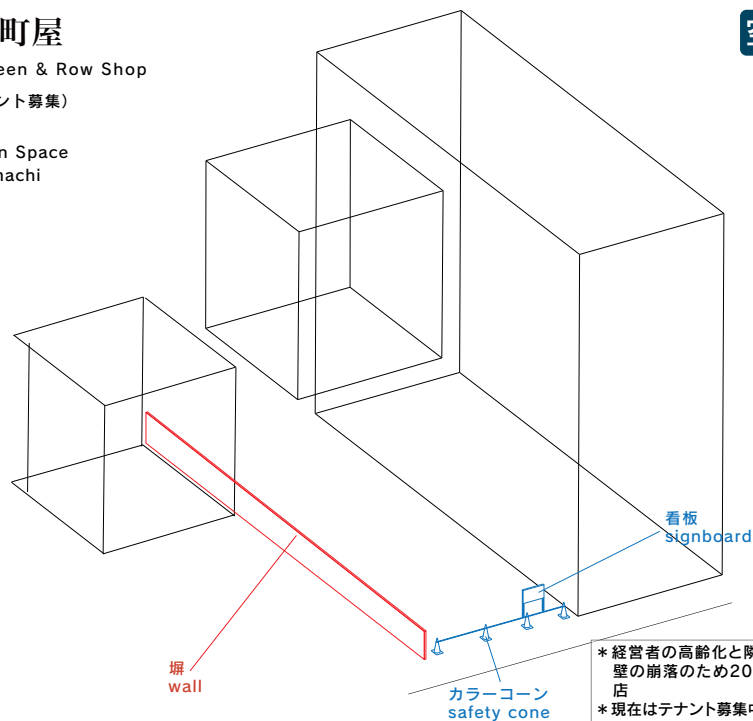


- *黄門さん通り沿いに建つ間口16m奥行き1.8mのそば店
- *外部にメニューを組み込んだ立ち食い用のカウンターが備えられている
- *細長い建物の後ろには縦列駐車場が続く

15 元植木町屋

Former Green & Row Shop

- 機能 空地 (テナント募集)
- 場所 南町3丁目
- Function : Open Space
- Site : Minami-machi



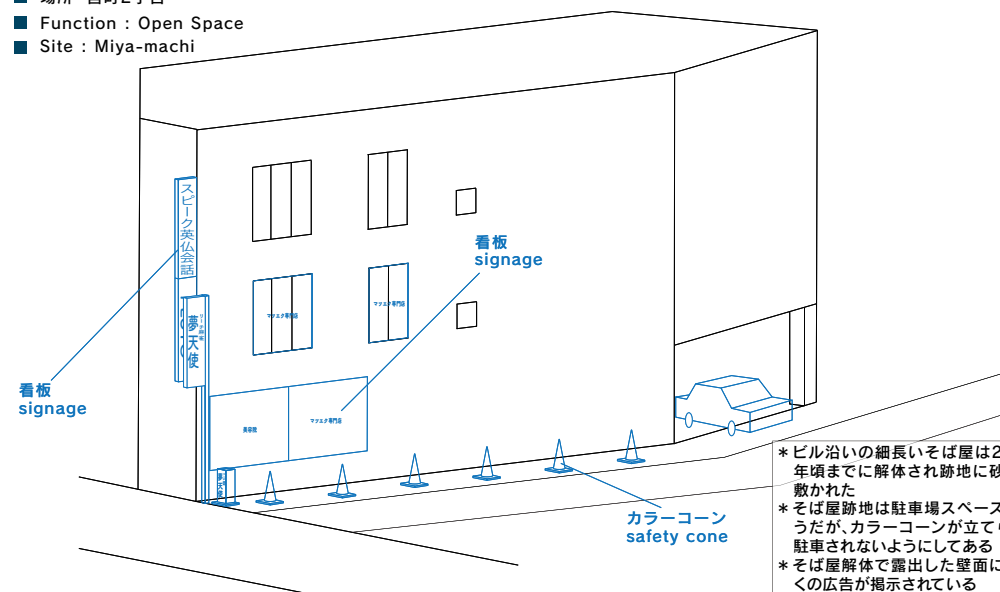
空地化

- *経営者の高齢化と隣接する建物の壁の崩落のため2019年ごろに閉店
- *現在はテナント募集中

16 元そば屋

Former Long Soba House

- 機能 空地
- 場所 宮町2丁目
- Function : Open Space
- Site : Miya-machi



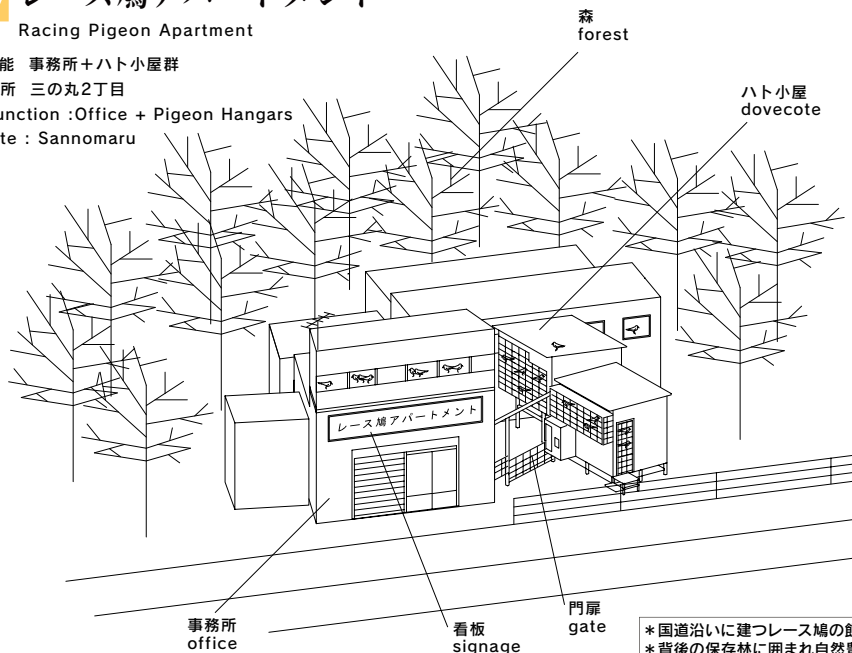
空地化

- *ビル沿いの細長いそば屋は2010年頃までに解体され跡地に砂利が敷かれた
- *そば屋跡地は駐車場スペースのようだが、カラーコーンが立てられ、駐車されないようになっている
- *そば屋屋体で露出した壁面には多くの広告が掲示されている

17 レース鳩アパートメント

Racing Pigeon Apartment

- 機能 事務所+ハト小屋群
- 場所 三の丸2丁目
- Function : Office + Pigeon Hangars
- Site : Sannomaru

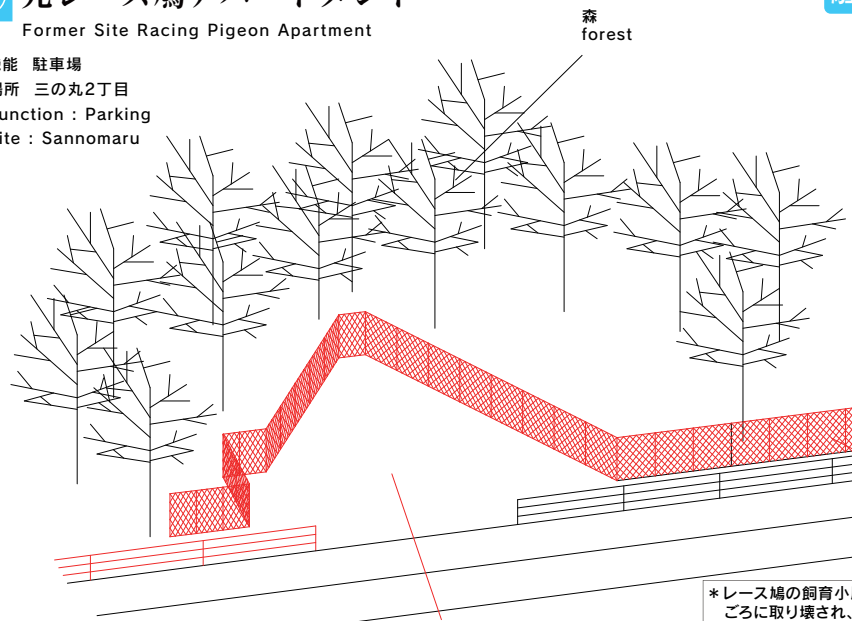


* 国道沿いに建つレース鳩の飼育小屋群
 * 背後の保存林に囲まれ自然豊かな景観
 * 斜面を利用し増殖をかさねていった形跡が見られる
 * ハト用の金網で人用の門扉もつくられている

17 元レース鳩アパートメント

Former Site Racing Pigeon Apartment

- 機能 駐車場
- 場所 三の丸2丁目
- Function : Parking
- Site : Sannomaru



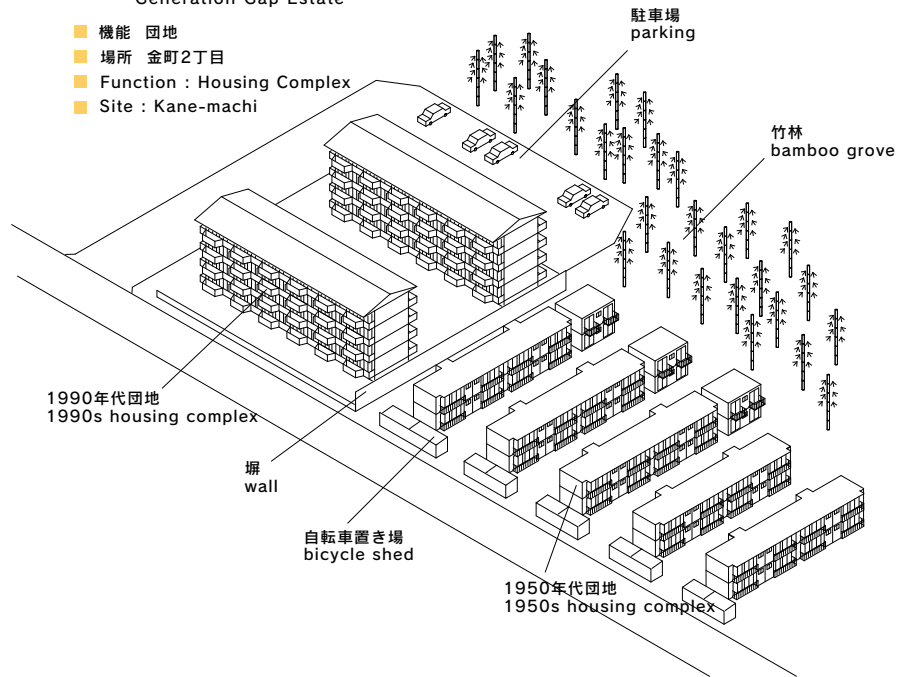
* レース鳩の飼育小屋群は、2014年ごろに取り壊され、駐車場となった
 * 日によって駐車している車種が異なるため、月極駐車場ではないことがわかる

駐車場化

18 ジェネレーションギャップ団地

Generation Gap Estate

- 機能 団地
- 場所 金町2丁目
- Function : Housing Complex
- Site : Kane-machi

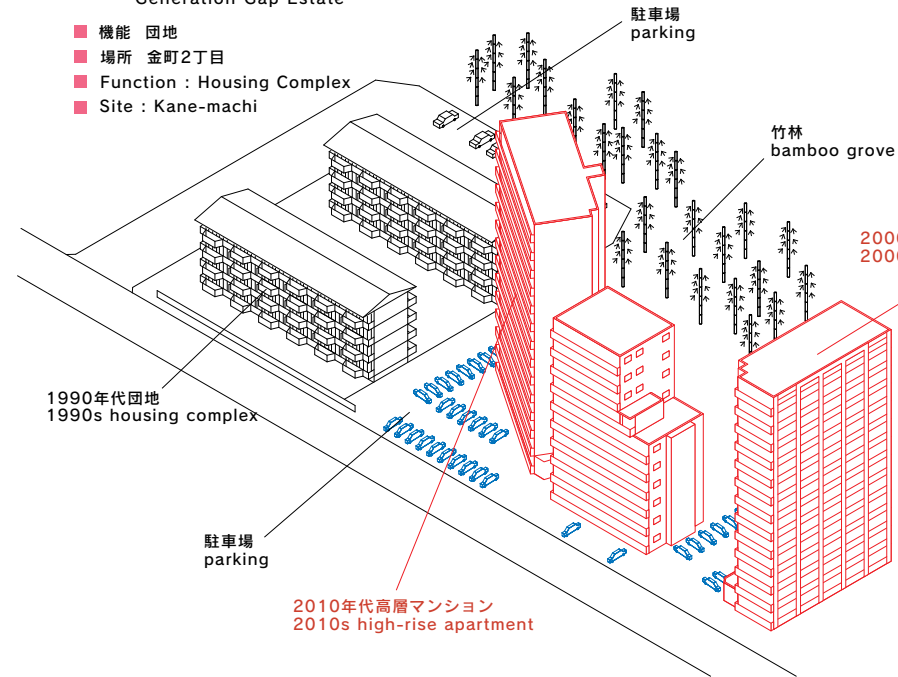


* 約40年の時間を経て造られた2つの団地
 * 1950年代の方は南北、1990年代の方は東西という配置計画から、外装材、階高など、同じ集合住宅ながら全く異なる存在感をもつ
 * 戦後40年の変化をあなたはどうか見る？

18 ジェネレーションギャップ団地

Generation Gap Estate

- 機能 団地
- 場所 金町2丁目
- Function : Housing Complex
- Site : Kane-machi



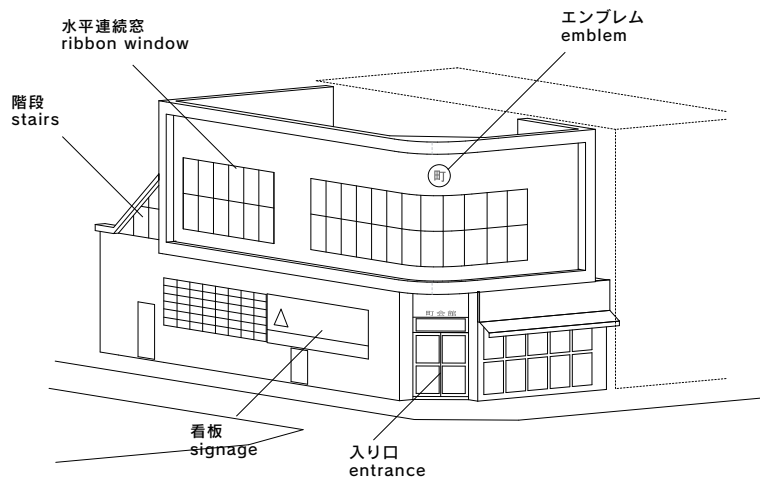
* 団地の古い住棟が解体されマンションが建設された
 * 新築のマンションは高層の住宅であり、解体された50年代の住棟と比較して、高密度化した
 * その結果90年代団地が旧世代の存在となり、以前のギャップが逆転した形となった
 * 高層マンションは同一の工務店が建設した

建替/新築

19 街角集会所

Street Corner Assembly Hall

- 機能 集会場
- 場所 泉町2丁目
- Function : Assembly Hall + Shop
- Site : Izumi-cho

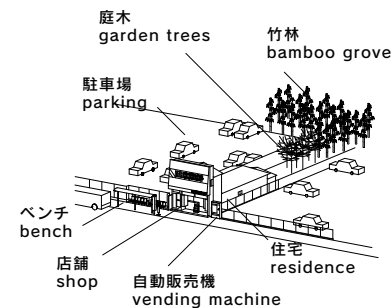


- * 泉町の共同会館
- * 角地を利用した看板建築は水平連続窓の分離派スタイル
- * 現在2階は事務所、1階は空き店舗
- * ファサードのエンブレムが誇らしい

20 町屋写真館

Photo & Row House

- 機能 写真店 + 住居
- 場所 大工町1丁目
- Function : Camera Shop + Residence
- Site : Daiku-machi

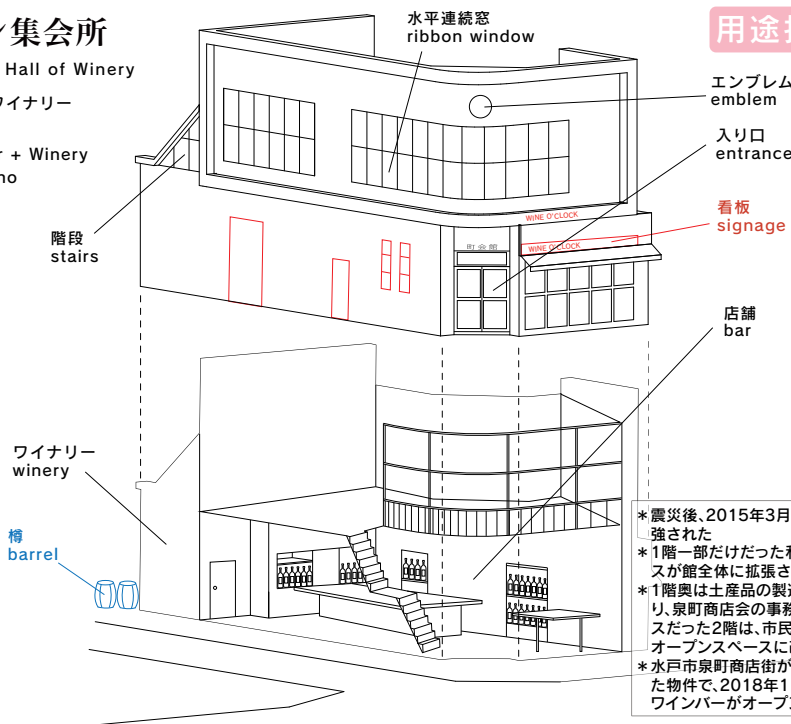


- * 黄門さん通り沿いに建つ町屋の写真店兼住居
- * 緑色の看板緑色の屋根、箱庭からなる緑の町家が駐車場に挟まれ佇む
- * 店の前に置かれた自動販売機は、バスを停留所で待つ人達のオアシス

19 ワイン集会所

Assembly Hall of Winery

- 機能 飲食店 + ワイナリー
- 場所 泉町2丁目
- Function : Bar + Winery
- Site : Izumi-cho



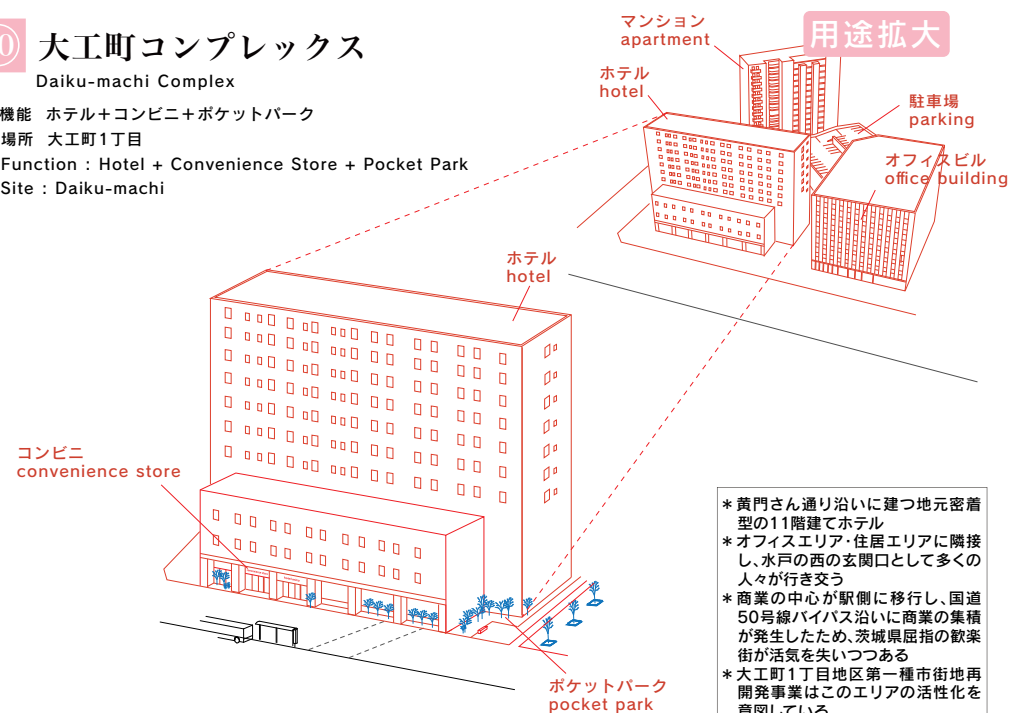
用途拡大

- * 震災後、2015年3月に耐震補強された
- * 1階一部だけだった利用スペースが館全体に拡張された
- * 1階奥は土産品の製造加工になり、泉町商店会の事務所スペースだった2階は、市民利用できるオープンスペースに改修された
- * 水戸市泉町商店街が管理していた物件で、2018年11月21日にワインバーがオープンした

20 大工町コンプレックス

Daiku-machi Complex

- 機能 ホテル + コンビニ + ポケットパーク
- 場所 大工町1丁目
- Function : Hotel + Convenience Store + Pocket Park
- Site : Daiku-machi

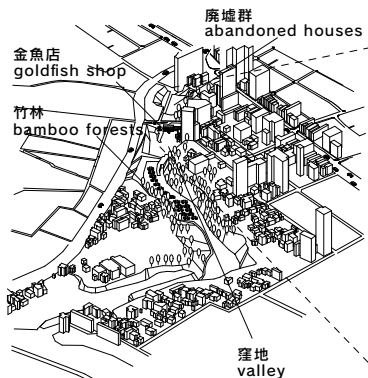


- * 黄門さん通り沿いに建つ地元密着型の11階建てホテル
- * オフィスエリア・住居エリアに隣接し、水戸の西の玄関口として多くの人々が行き交う
- * 商業の中心が駅側に移行し、国道50号線バイパス沿いに商業の集積が発生したため、茨城県屈指の歓楽街が活気を失いつつある
- * 大工町1丁目地区第一種市街地再開発事業はこのエリアの活性化を意図している

②1 廃墟ダム

Dam of Neglected Houses

- 機能 谷+廃屋
- 場所 大工町1丁目
- Function : Valley + Abandoned Houses
- Site : Daiku-machi

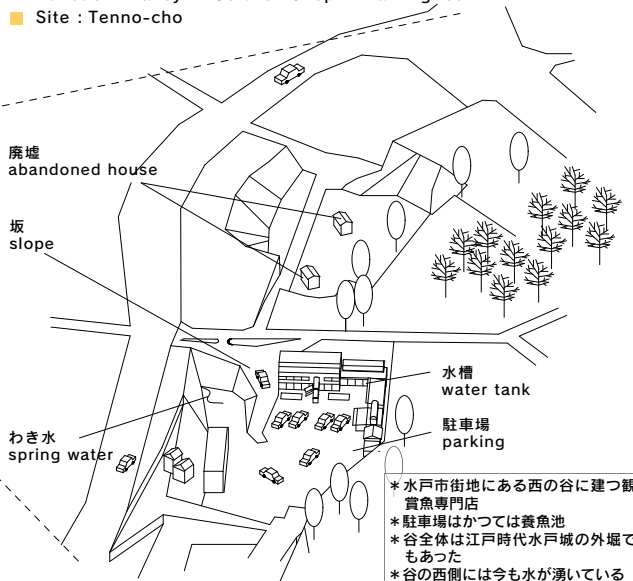


* 水戸市街地にある大きな谷が横断する道路によってダムのように閉ざされて生じた窪地に竹林とともに廃墟が立ち並ぶ
* 町の一部が突然陥没したようなある意味幽玄な風景

②2 金魚谷

Goldfish Valley

- 機能 谷+金魚屋+駐車場
- 場所 天王町
- Function : Valley + Goldfish Shop + Parking lot
- Site : Tenno-cho

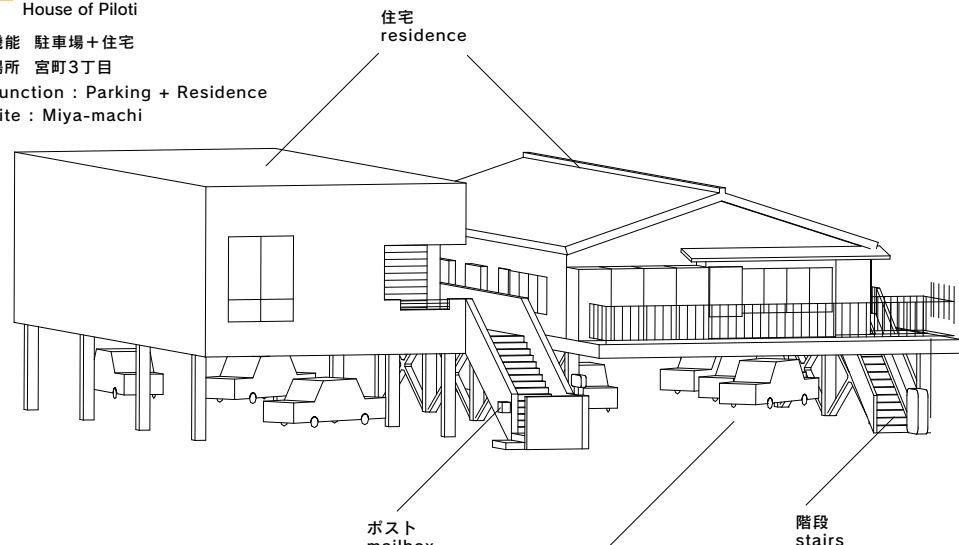


* 水戸市街地にある西の谷に建つ観賞魚専門店
* 駐車場はかつては養魚池
* 谷全体は江戸時代水戸城の外堀でもあった
* 谷の西側には今も水が湧いている

②3 ピロティ住宅

House of Piloti

- 機能 駐車場+住宅
- 場所 宮町3丁目
- Function : Parking + Residence
- Site : Miya-machi

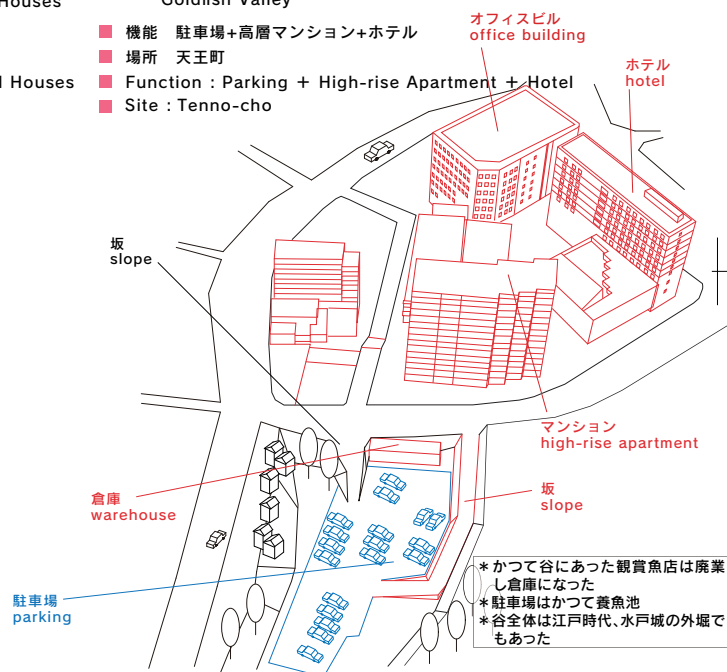


* ピロティ上部に建つ住宅
* ピロティ下は別途月極駐車場として利用されている
* 水戸の駐車場欠乏状況を視野に入れた最大限の土地利用
* 付近に類例あり

②1 元廃墟ダム

Former Dam of Neglected Houses

- 機能 谷+廃屋
- 場所 大工町1丁目
- Function : Valley + Abandoned Houses
- Site : Daiku-machi



* かつて谷にあった観賞魚店は廃業し倉庫になった
* 駐車場はかつて養魚池
* 谷全体は江戸時代、水戸城の外堀でもあった

②2 金魚谷

Goldfish Valley

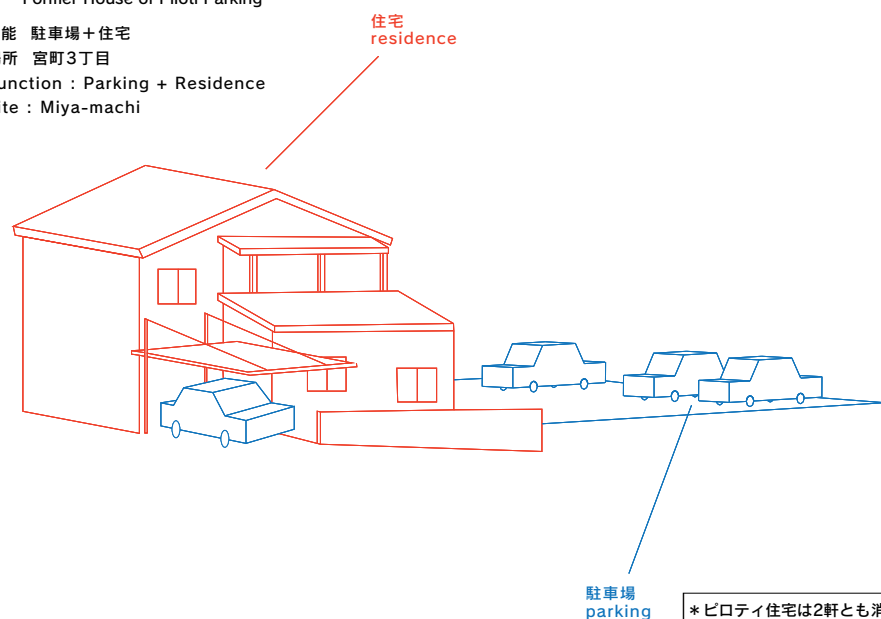
- 機能 駐車場+高層マンション+ホテル
- 場所 天王町
- Function : Parking + High-rise Apartment + Hotel
- Site : Tenno-cho

建替/新築

②3 元ピロティ住宅駐車場

Former House of Piloti Parking

- 機能 駐車場+住宅
- 場所 宮町3丁目
- Function : Parking + Residence
- Site : Miya-machi



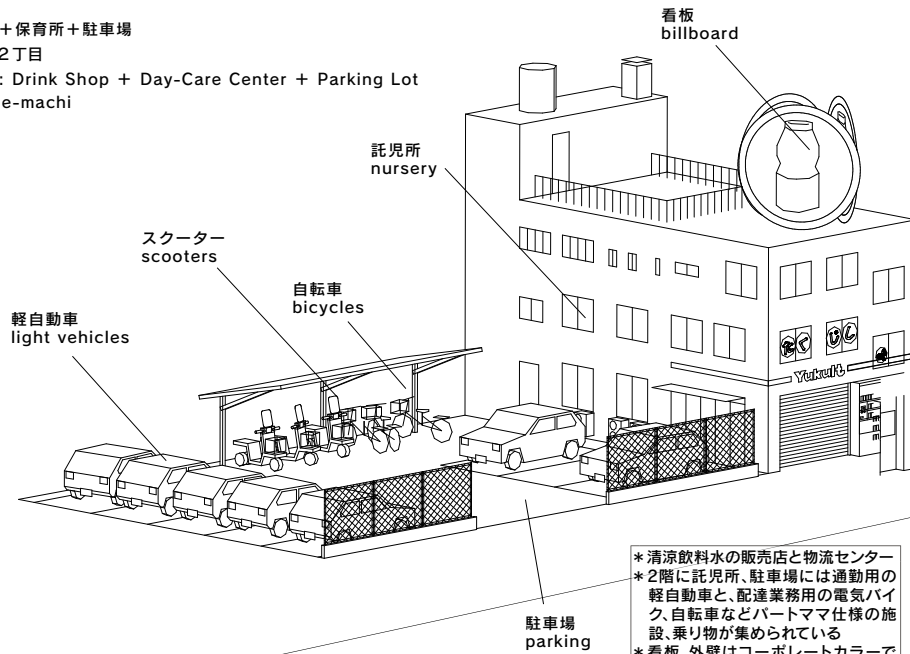
* ピロティ住宅は2軒とも消滅
* ピロティ駐車場は青空駐車場になった

駐車場化

24 パートママ・コンプレックス

Part-time Mom's Complex

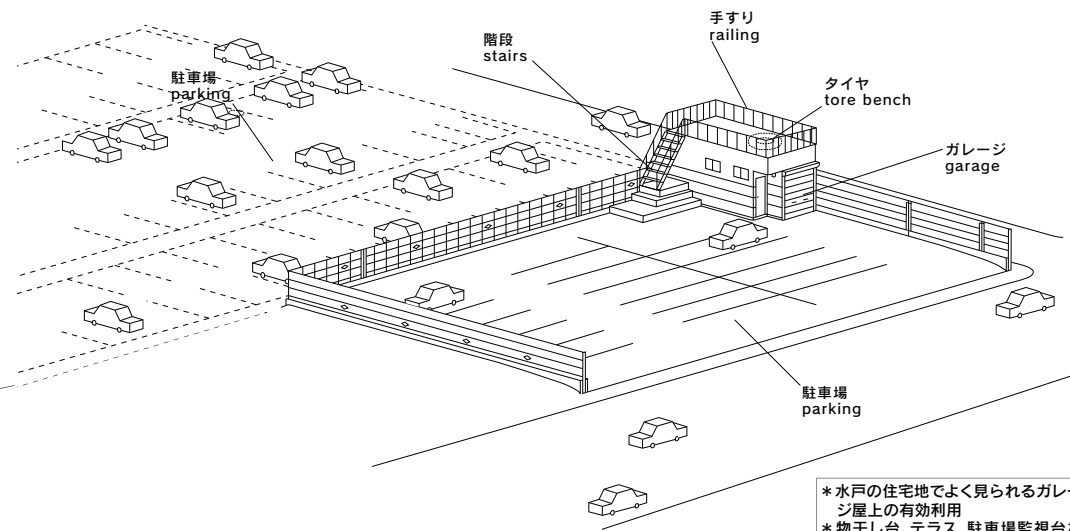
- 機能 店舗+保育所+駐車場
- 場所 金町2丁目
- Function : Drink Shop + Day-Care Center + Parking Lot
- Site : Kane-machi



25 ガレージトップテラス

Garage Top Terrace

- 機能 ガレージ+テラス
- 場所 根本2丁目
- Function : Terrace + Garage
- Site : Nemoto

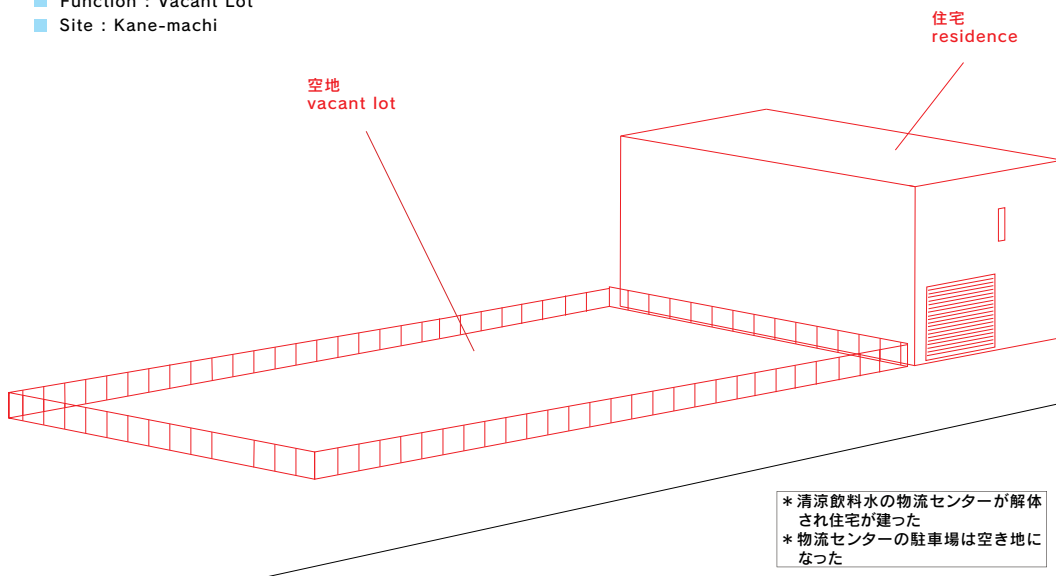


24 元パートママ・コンプレックス

Former Part-time Mom's Complex

- 機能 空地
- 場所 金町2丁目
- Function : Vacant Lot
- Site : Kane-machi

用途縮小

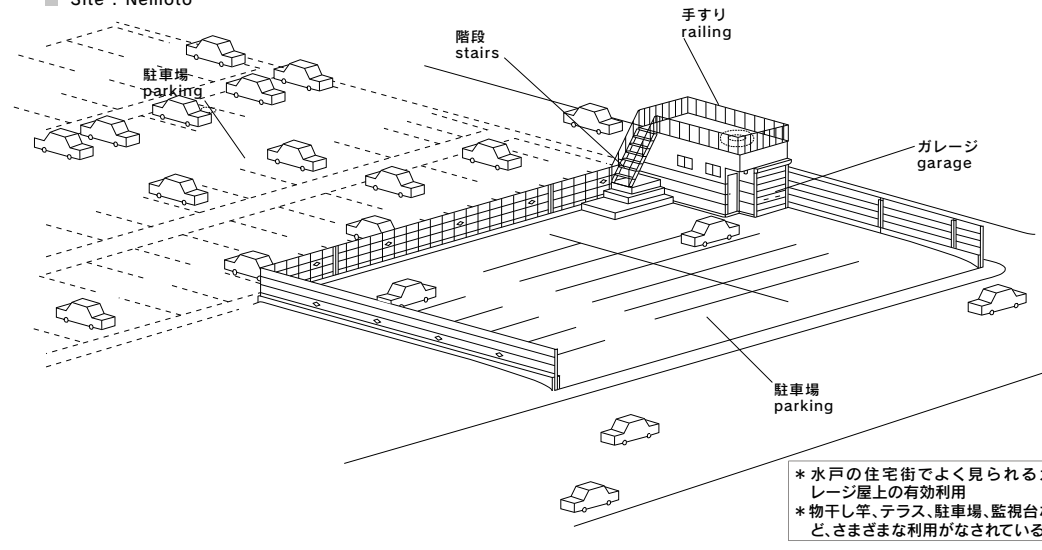


25 ガレージトップテラス

Garage Top Terrace

- 機能 ガレージ+テラス
- 場所 根本2丁目
- Function : Terrace + Garage
- Site : Nemoto

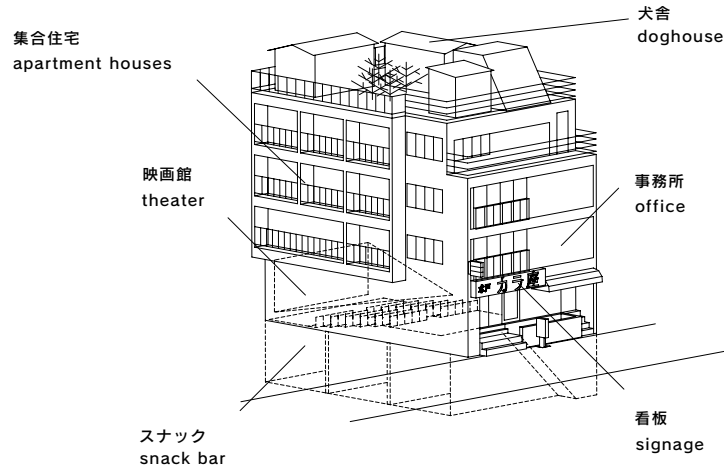
変化なし



26 映画アパート

Showbiz Snack Apartment

- 機能 映画館+スナック+集合住宅+犬舎
- 場所 泉町2丁目
- Function : Theater + Snack Bar + Apartment Housing + Doghouse
- Site : Izumi-cho

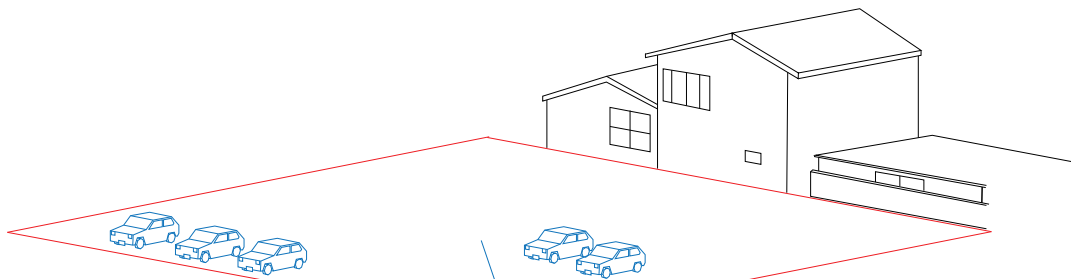


* スナック、映画館、事務所、アパート、犬舎が積層したビル
 * 地下のスナックと1階の映画館は廃業
 * わずかな住民がアパートに住むのみで屋上の犬舎に犬の姿はない

26 元映画アパート

Former Showbiz Snack Apartment

- 機能 駐車場
- 場所 泉町2丁目
- Function : Parking
- Site : Izumi-cho



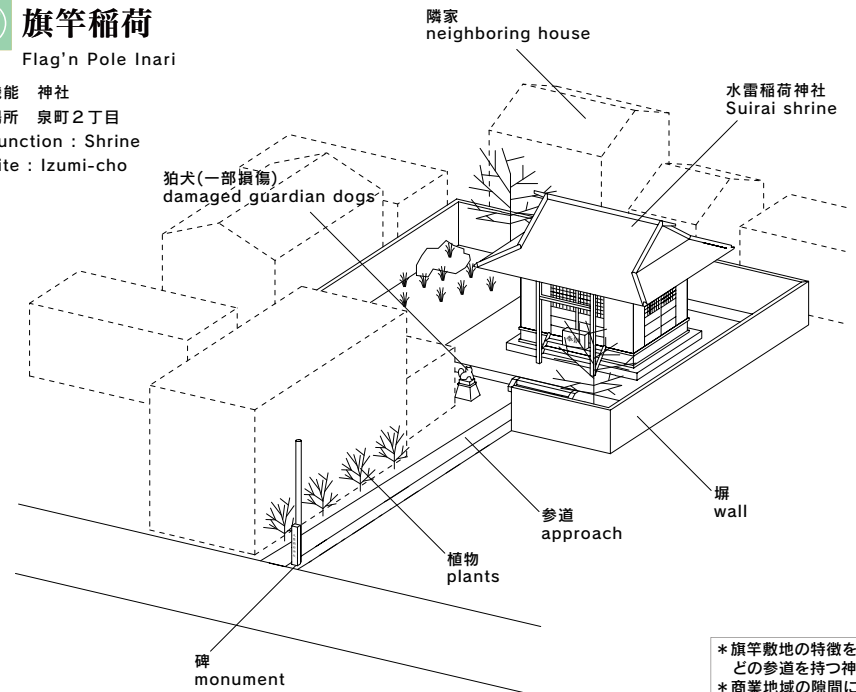
* 1962年・1965年の水戸市住宅群細図では後の映画館の場所に「喜代川旅館」、1968年の映画館名簿には掲載されていない 1969年・1973年の映画感名簿では「水戸名画座」、1974年の映画館名簿では「水戸日活ロマン劇場」 経営会社が太陽企業、経営者が村上寛、支配人が堀口庫夫 鉄骨造一階冷暖房付き、50席、日活を上映 1975年1978年の映画館名簿では「水戸日活ロマン」、1980年の映画名簿では「水戸日活劇場」、1990年・1995年・2000年の映画館名簿では「水戸スカラ座」、2005年の映画館名簿には掲載されていない
 * 現在は有料駐車場「ファーストパーク水戸和泉町第6」

駐車場化

27 旗竿稲荷

Flag'n Pole Inari

- 機能 神社
- 場所 泉町2丁目
- Function : Shrine
- Site : Izumi-cho

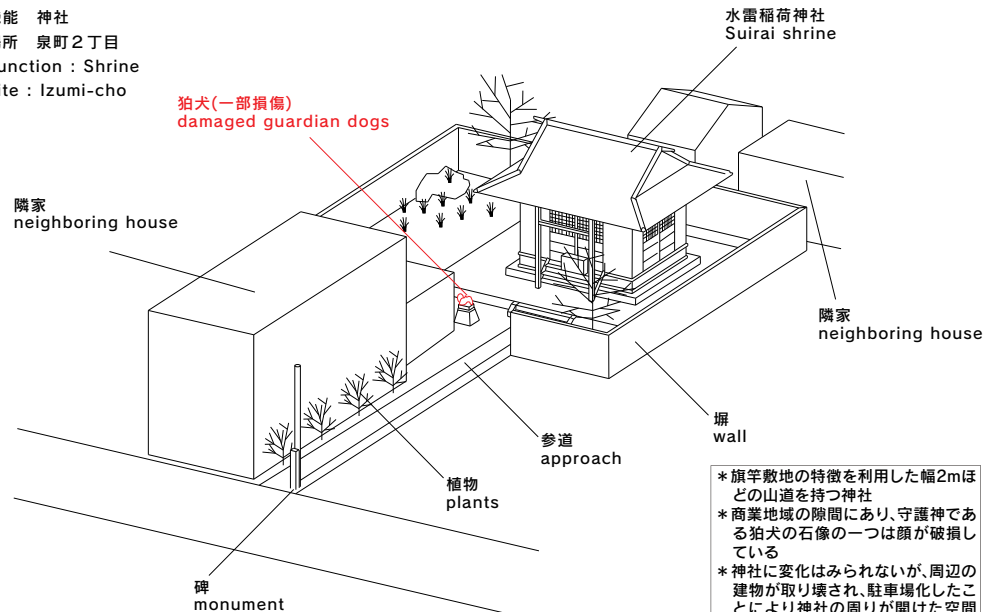


* 旗竿敷地の特徴を利用した幅2mほどの参道を持つ神社
 * 商業地域の隙間にあり、守護神である狛犬の石像の一つは顔が破損している

27 旗竿稲荷

Flag'n Pole Inari

- 機能 神社
- 場所 泉町2丁目
- Function : Shrine
- Site : Izumi-cho



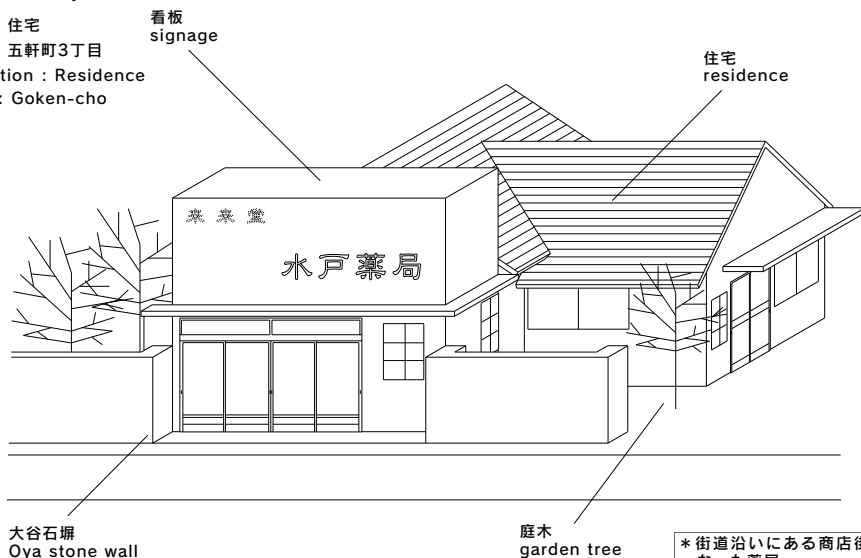
* 旗竿敷地の特徴を利用した幅2mほどの山道を持つ神社
 * 商業地域の隙間にあり、守護神である狛犬の石像の一つは顔が破損している
 * 神社に変化はみられないが、周辺の建物を取り壊され、駐車場化したことにより神社の周りが開けた空間になっている

変化なし

28 しもたや

Shimota-ya

- 機能 住宅
- 場所 五軒町3丁目
- Function : Residence
- Site : Goken-cho



大谷石堀
Oya stone wall

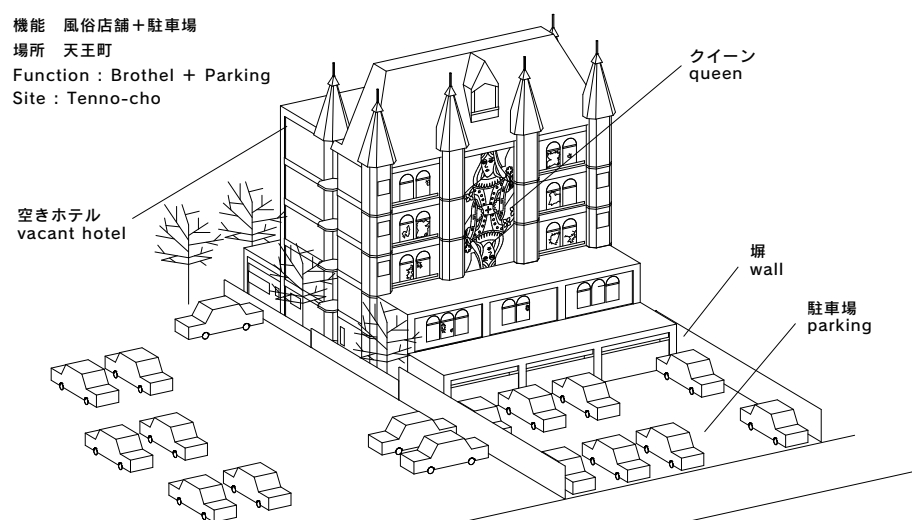
庭木
garden tree

- * 街道沿いにある商店街の廃業となった薬局
- * 看板建築のファサードの凸状の看板文字が外壁と同じ色に塗装されている
- * 堀とファサードのコンポジションが秀逸
- * 類例多数

29 愛城

Love Castle

- 機能 風俗店舗＋駐車場
- 場所 天王町
- Function : Brothel + Parking
- Site : Tenno-cho



空きホテル
vacant hotel

クイーン
queen

堀
wall

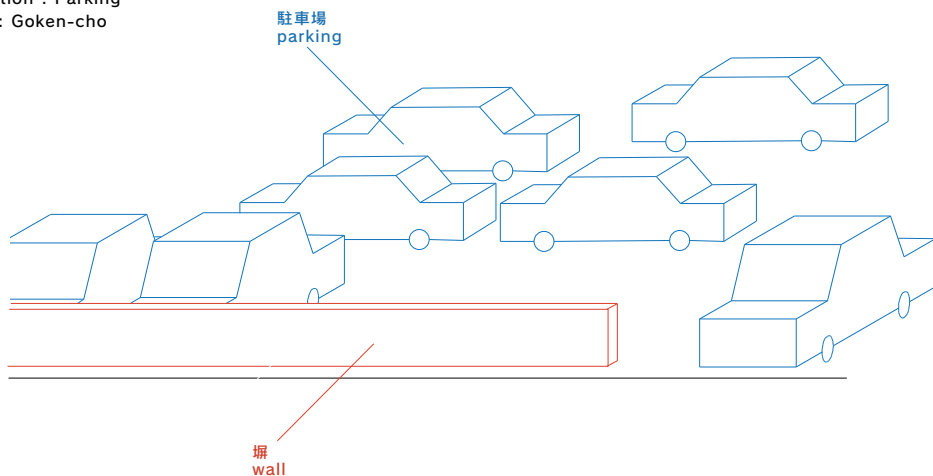
駐車場
parking

- * 〈馬の背台地〉の端に建つ城をイメージしたラブホテル
- * 現在は使われておらず、建物前面の駐車場のみが利用されている
- * ファサードのクイーンが大胆

28 元しもたや

Former Shimota-ya

- 機能 駐車場
- 場所 五軒町3丁目
- Function : Parking
- Site : Goken-cho



駐車場
parking

堀
wall

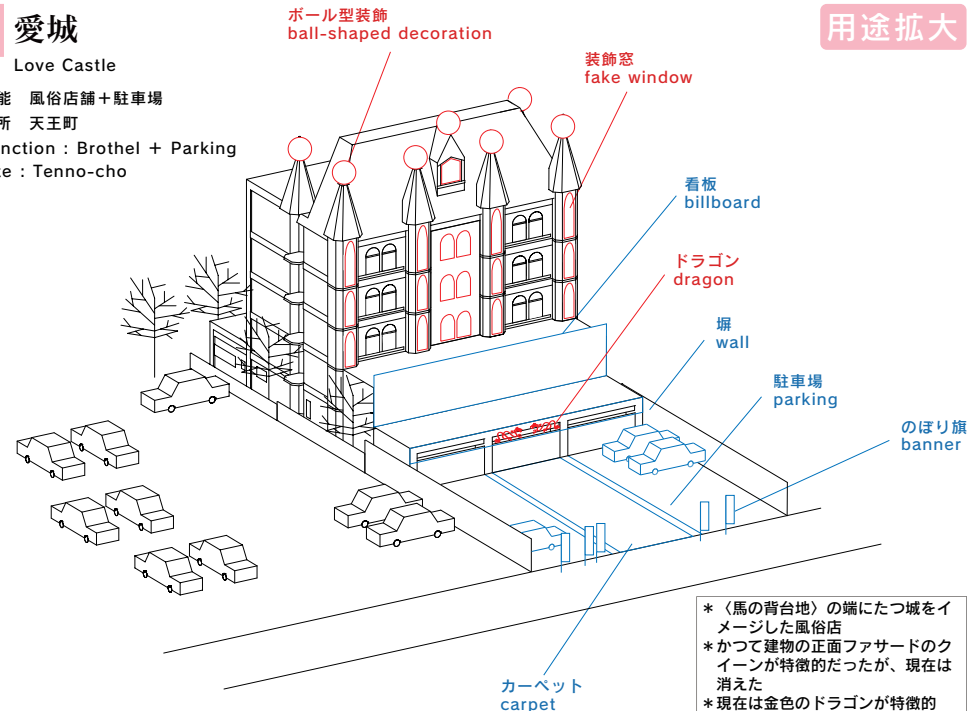
駐車場化

- * 建物は取り壊され駐車場となった
- * 大谷石の堀もなくなり、ただのブロック堀となり高さもかなり低くなった

29 愛城

Love Castle

- 機能 風俗店舗＋駐車場
- 場所 天王町
- Function : Brothel + Parking
- Site : Tenno-cho



ボール型装飾
ball-shaped decoration

装飾窓
fake window

看板
billboard

ドラゴン
dragon

堀
wall

駐車場
parking

のぼり旗
banner

カーペット
carpet

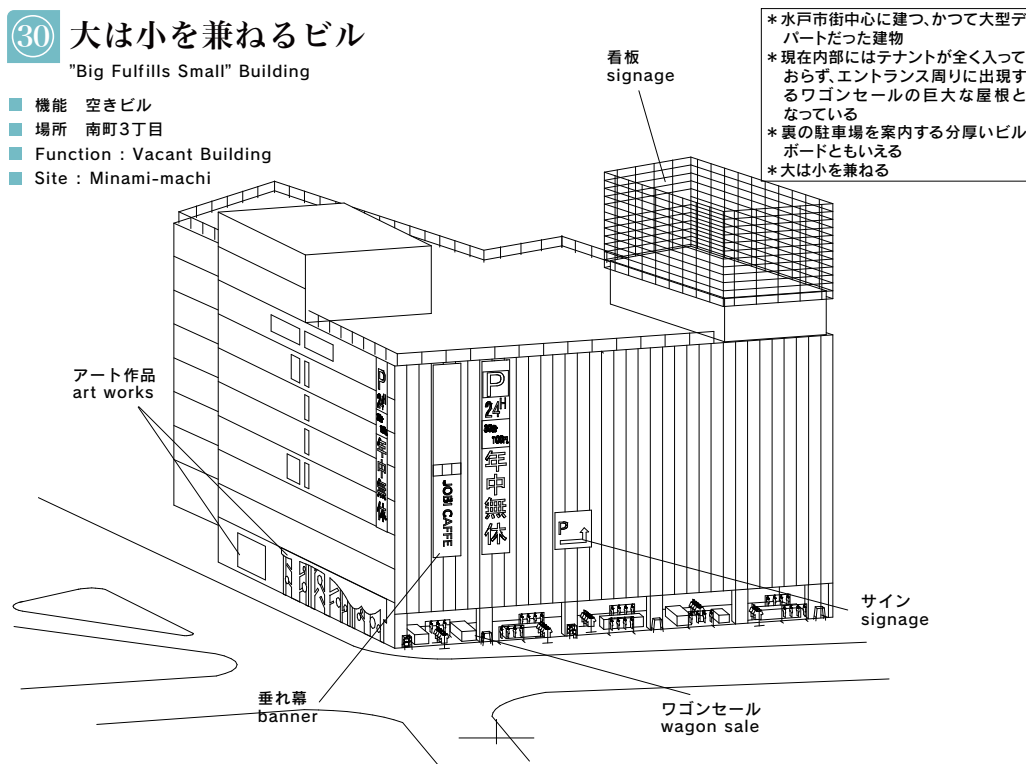
用途拡大

- * 〈馬の背台地〉の端にたつ城をイメージした風俗店
- * かつて建物の正面ファサードのクイーンが特徴的だったが、現在は消えた
- * 現在は金色のドラゴンが特徴的

30 大は小を兼ねるビル

"Big Fulfills Small" Building

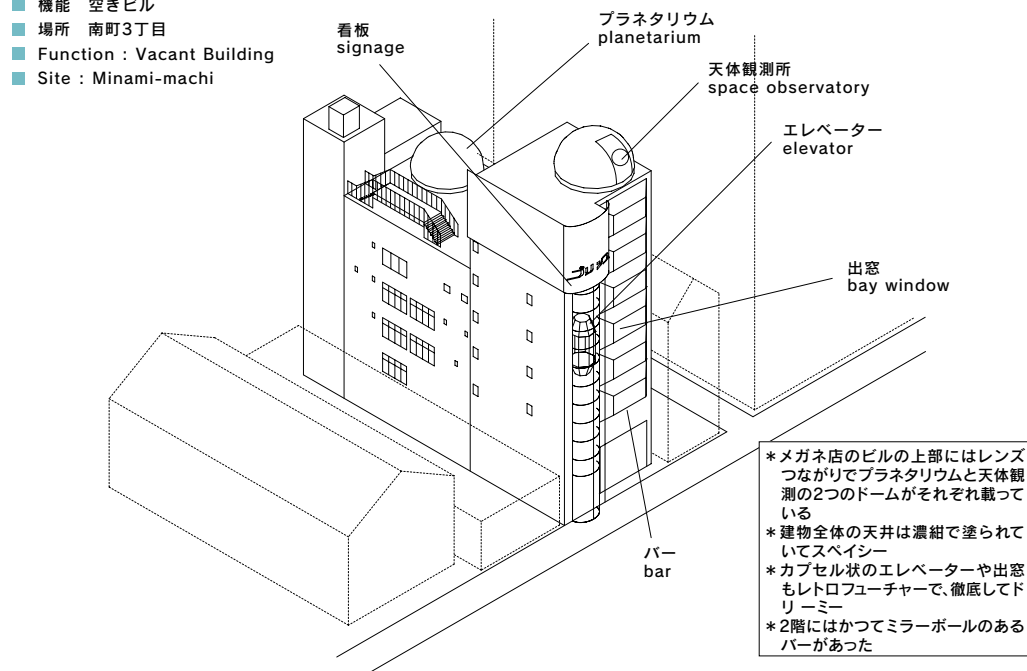
- 機能 空きビル
- 場所 南町3丁目
- Function : Vacant Building
- Site : Minami-machi



31 水戸宇宙旅行

Space Odyssey Mito

- 機能 空きビル
- 場所 南町3丁目
- Function : Vacant Building
- Site : Minami-machi

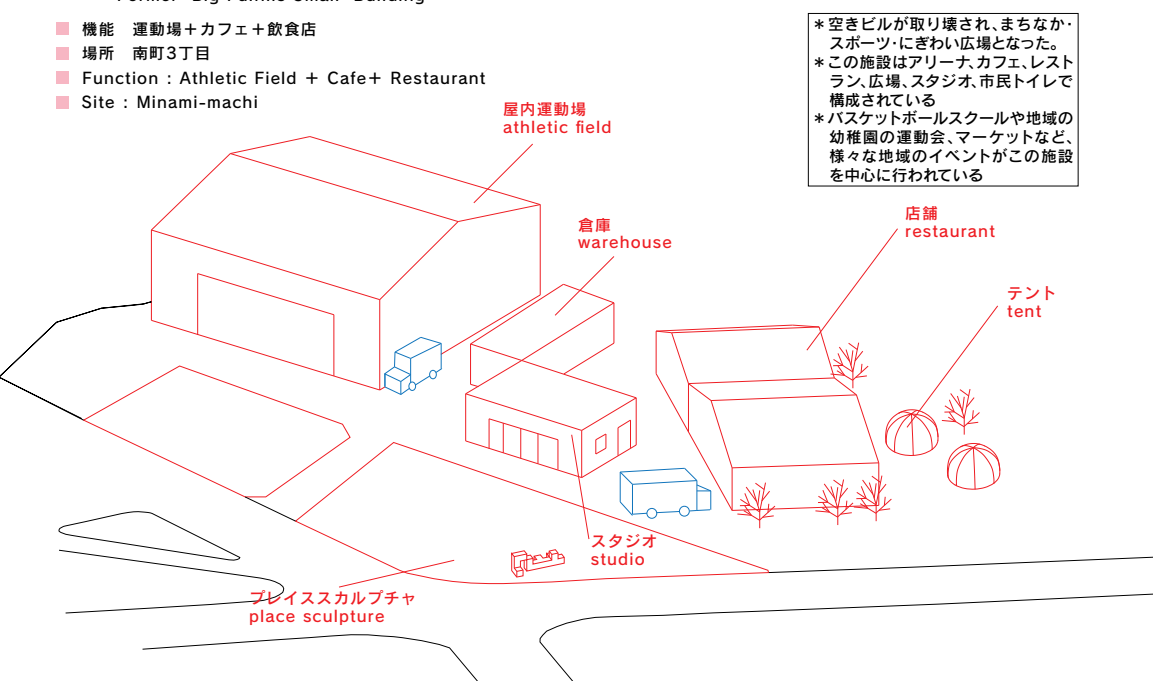


30 大は小を兼ねるビル跡地

Former "Big Fulfills Small" Building

- 機能 運動場+カフェ+飲食店
- 場所 南町3丁目
- Function : Athletic Field + Cafe+ Restaurant
- Site : Minami-machi

用途拡大

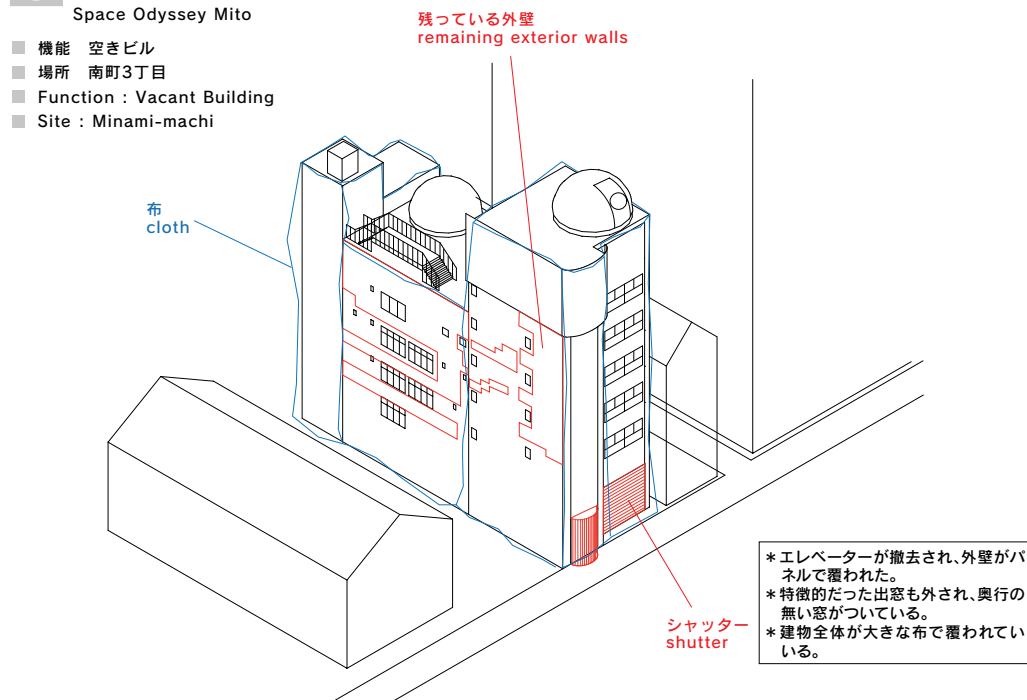


31 水戸宇宙旅行

Space Odyssey Mito

- 機能 空きビル
- 場所 南町3丁目
- Function : Vacant Building
- Site : Minami-machi

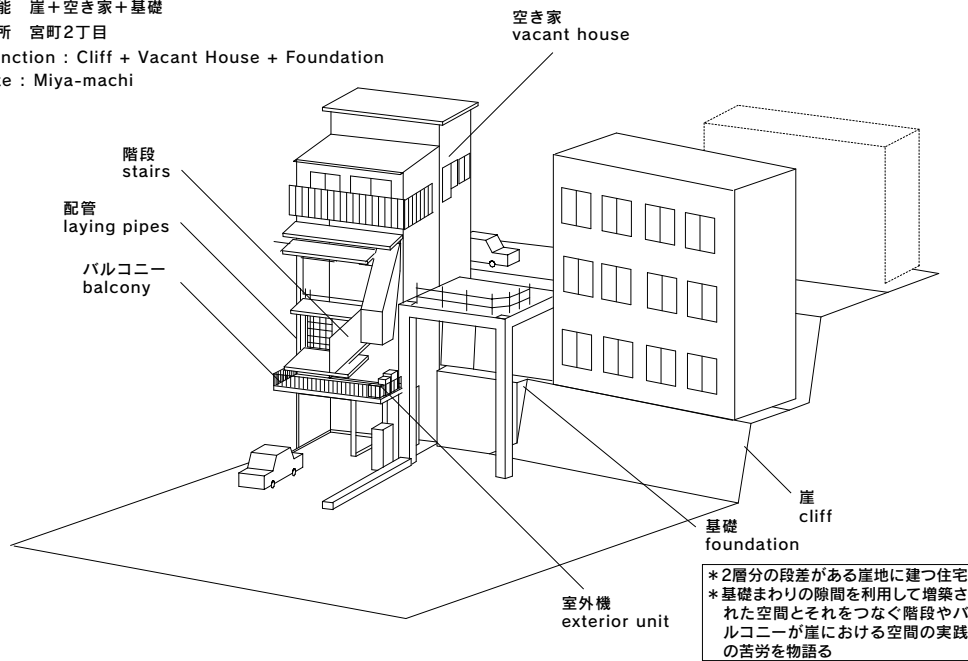
変化なし



32 崖建築

Cliff Hangarchitecture

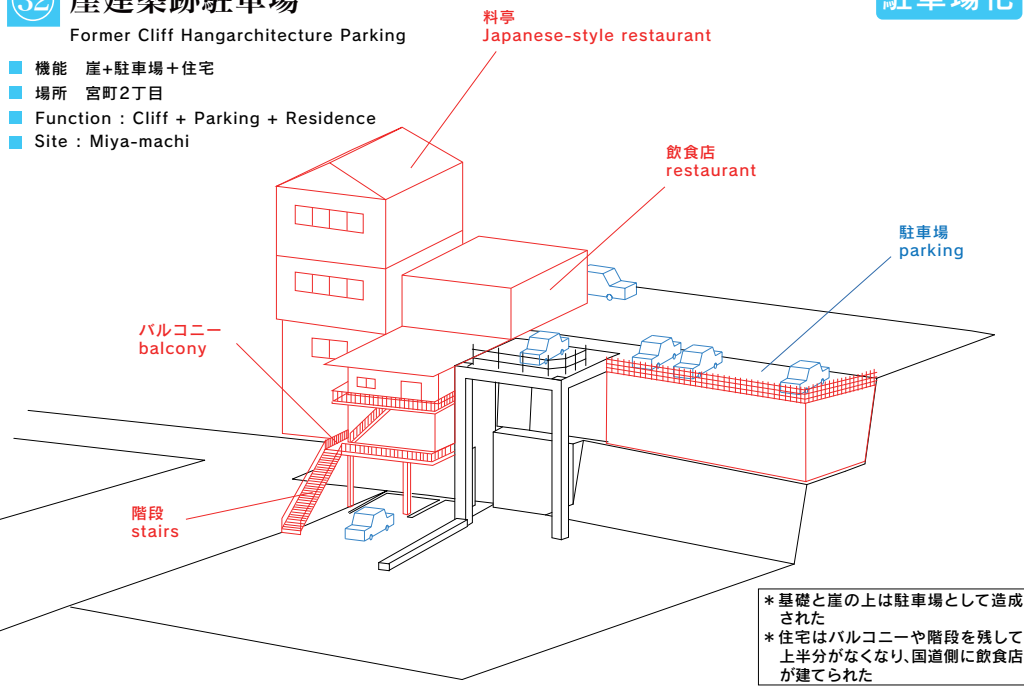
- 機能 崖+空き家+基礎
- 場所 宮町2丁目
- Function : Cliff + Vacant House + Foundation
- Site : Miya-machi



32 崖建築跡駐車場

Former Cliff Hangarchitecture Parking

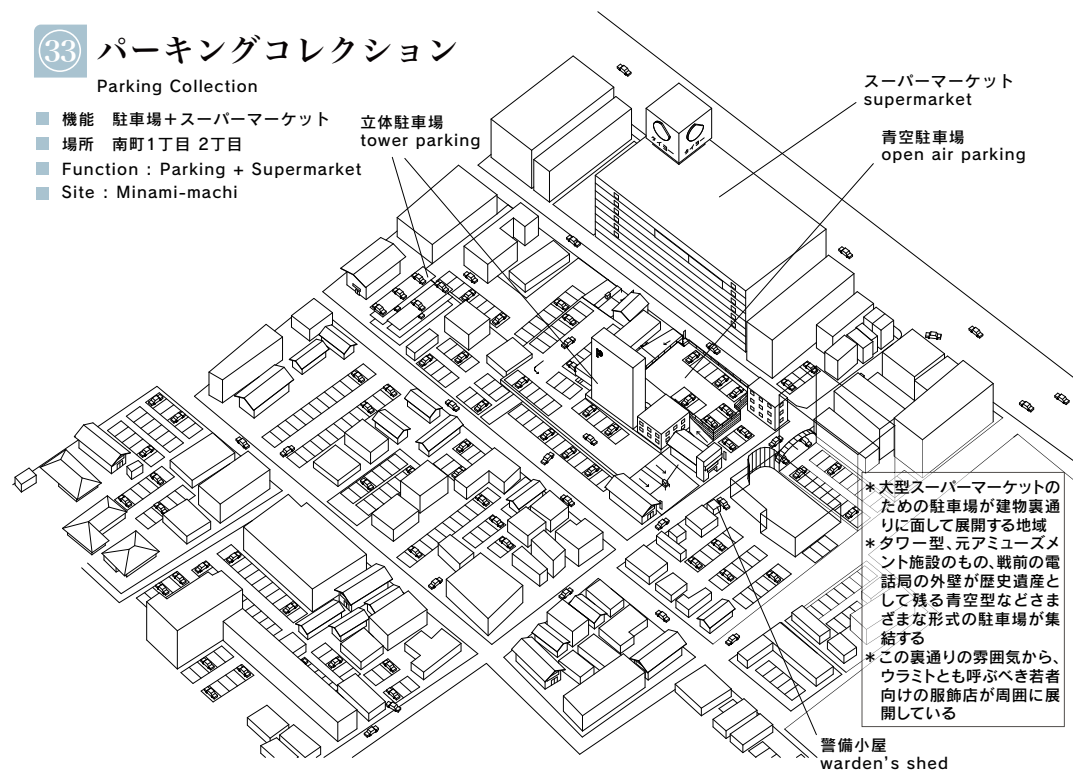
- 機能 崖+駐車場+住宅
- 場所 宮町2丁目
- Function : Cliff + Parking + Residence
- Site : Miya-machi



33 パーキングコレクション

Parking Collection

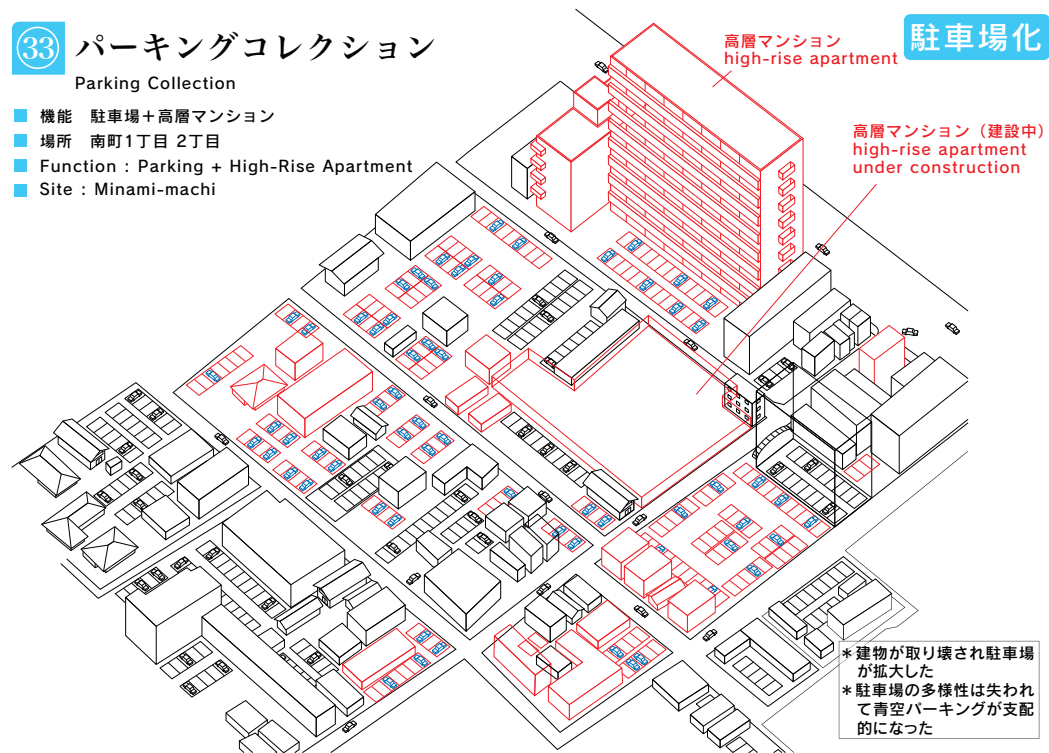
- 機能 駐車場+スーパーマーケット
- 場所 南町1丁目 2丁目
- Function : Parking + Supermarket
- Site : Minami-machi



33 パーキングコレクション

Parking Collection

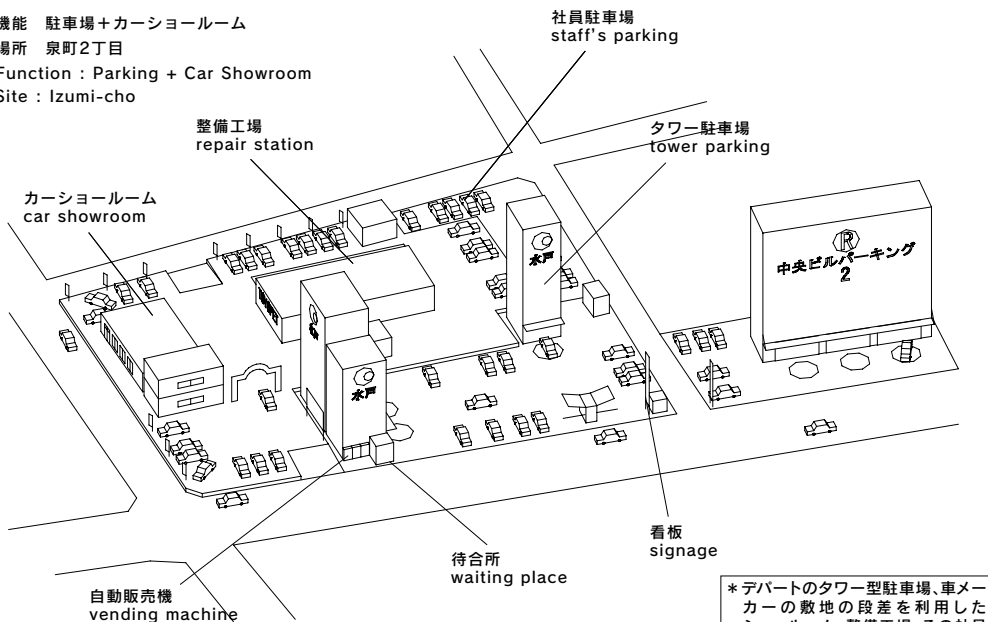
- 機能 駐車場+高層マンション
- 場所 南町1丁目 2丁目
- Function : Parking + High-Rise Apartment
- Site : Minami-machi



34 自動車街区

Auto Block

- 機能 駐車場＋カーショールーム
- 場所 泉町2丁目
- Function : Parking + Car Showroom
- Site : Izumi-cho

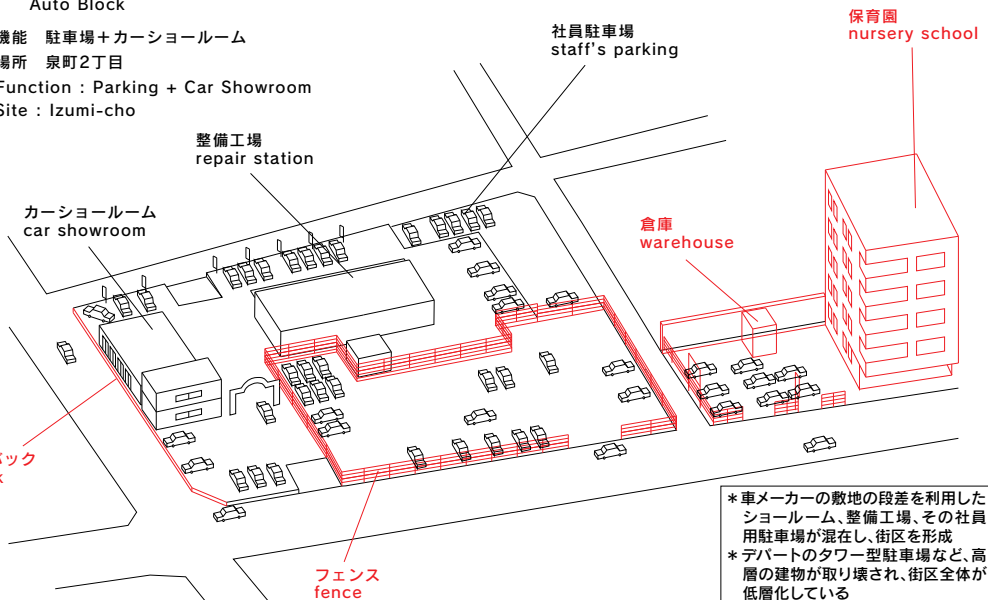


*デパートのタワー型駐車場、車メーカーの敷地の段差を利用したショールーム、整備工場、その社員用駐車場が混在し、街区を形成
*人は自動車のために生きるのか？

34 自動車街区

Auto Block

- 機能 駐車場＋カーショールーム
- 場所 泉町2丁目
- Function : Parking + Car Showroom
- Site : Izumi-cho



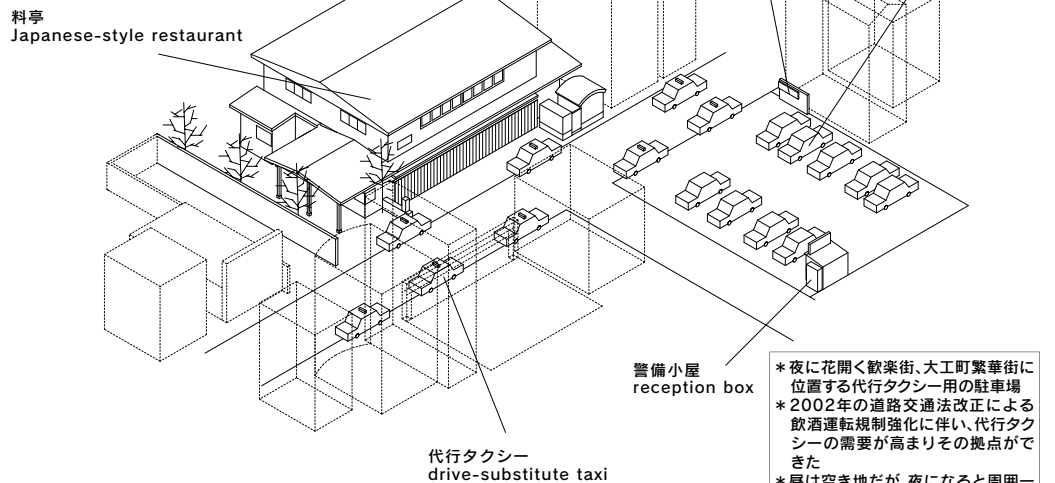
*車メーカーの敷地の段差を利用したショールーム、整備工場、その社員用駐車場が混在し、街区を形成
*デパートのタワー型駐車場など、高層の建物が取り壊され、街区全体が低層化している
*需要の変化によりビルパーキングが取り壊され、一部保育園が建設された

用途縮小

35 代行駐車場

Rental Driver Parking

- 機能 駐車場＋警備小屋
- 場所 五軒町3丁目
- Function : Parking + Reception Box
- Site : Goken-cho

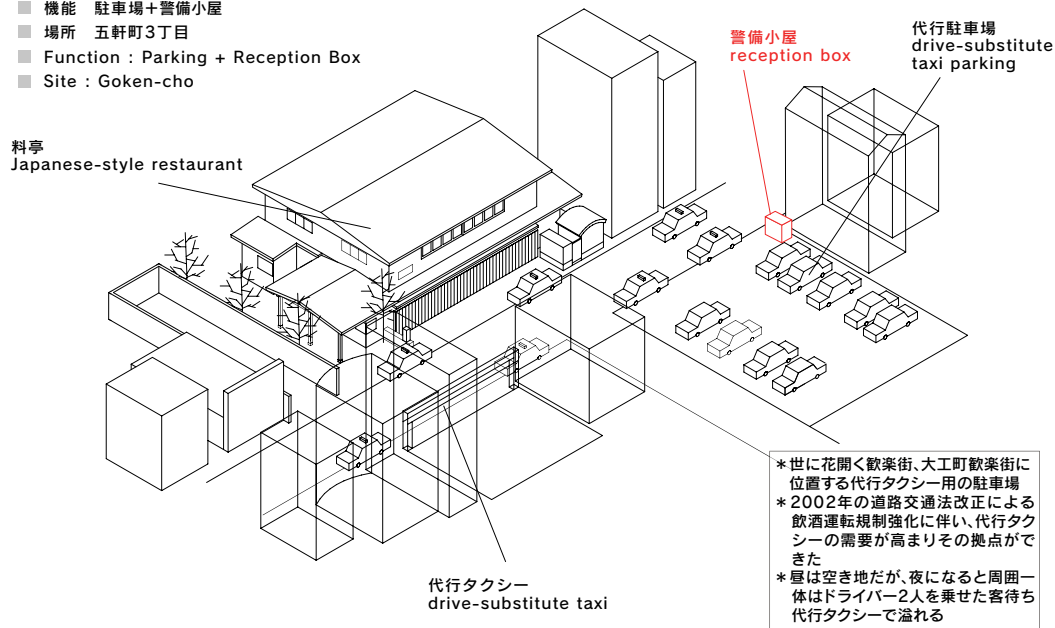


*夜に花開く歓楽街、大工町繁華街に位置する代行タクシー用の駐車場
*2002年の道路交通法改正による飲酒運転規制強化に伴い、代行タクシーの需要が高まりその拠点ができた
*昼は空き地だが、夜になると周囲一帯ドライバー2人を乗せた客待ち代行タクシーが溢れる

35 代行駐車場

Rental Driver Parking

- 機能 駐車場＋警備小屋
- 場所 五軒町3丁目
- Function : Parking + Reception Box
- Site : Goken-cho



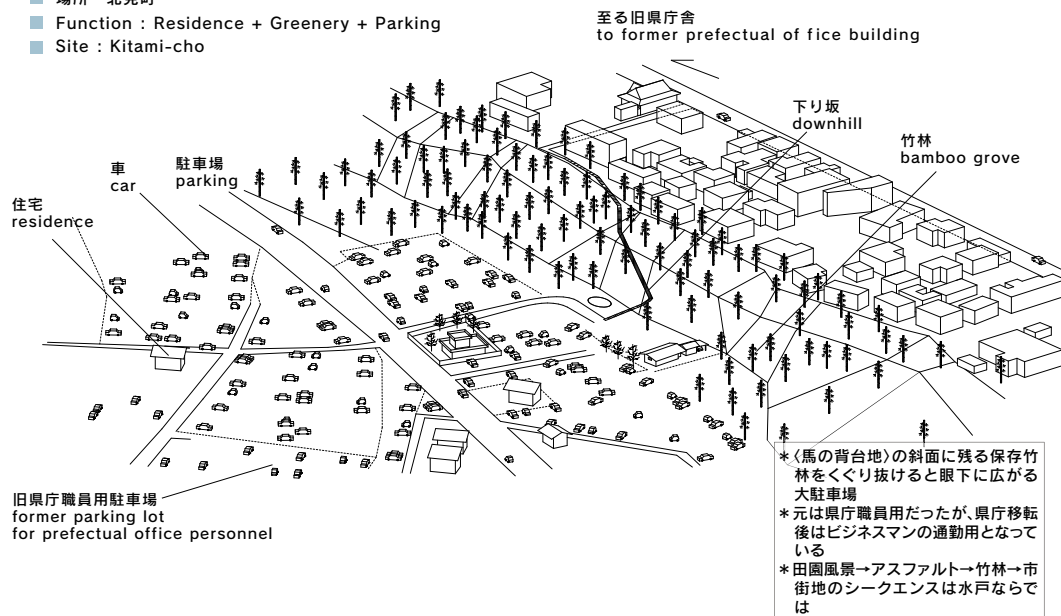
*世に花開く歓楽街、大工町繁華街に位置する代行タクシー用の駐車場
*2002年の道路交通法改正による飲酒運転規制強化に伴い、代行タクシーの需要が高まりその拠点ができた
*昼は空き地だが、夜になると周囲一体はドライバー2人を乗せた客待ち代行タクシーで溢れる

変化なし

36 竹林下パーキング

Bamboo Hill Parking

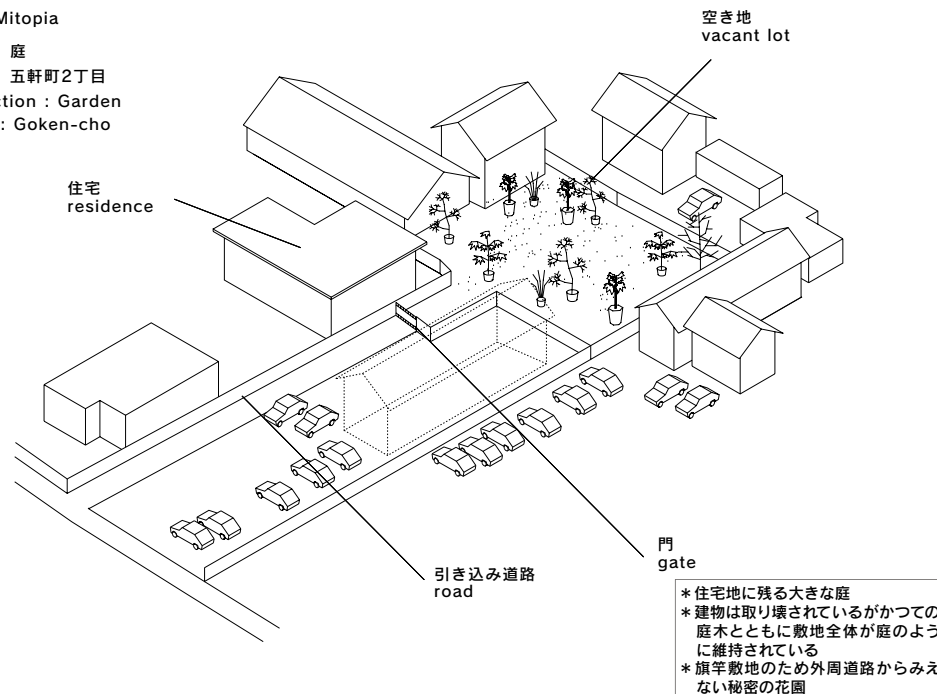
- 機能 住宅+緑地+駐車場
- 場所 北見町
- Function : Residence + Greenery + Parking
- Site : Kitami-cho



37 秘密の花園

Mitopia

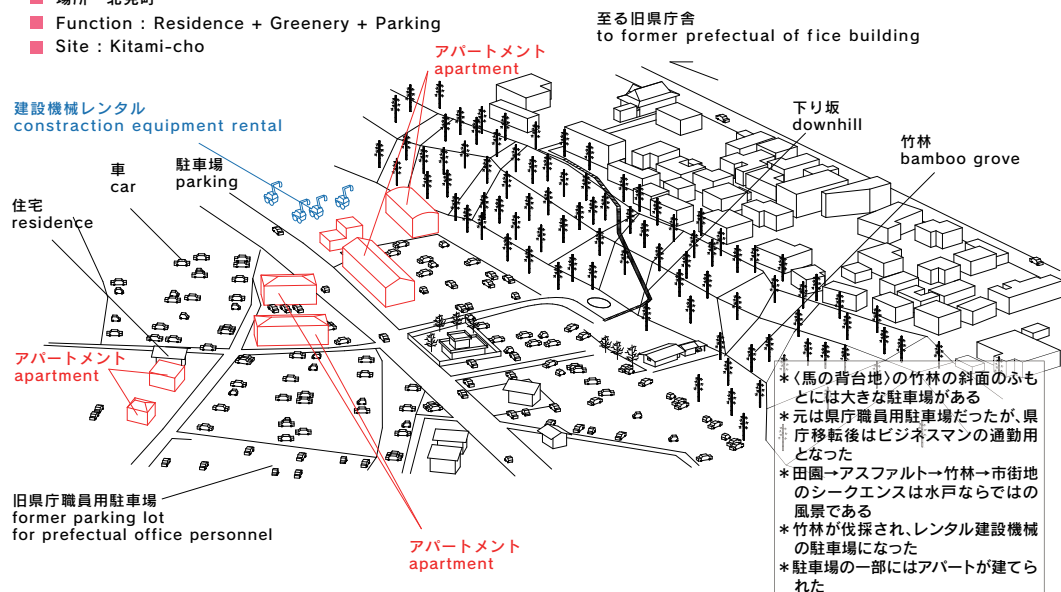
- 機能 庭
- 場所 五軒町2丁目
- Function : Garden
- Site : Goken-cho



36 竹林下パーキング

Bamboo Hill Parking

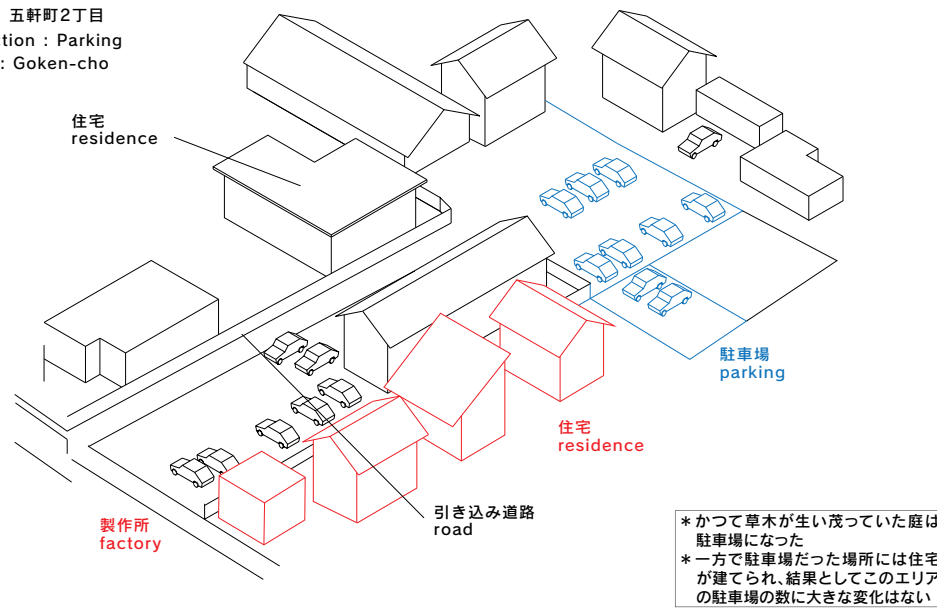
- 機能 住宅+緑地+駐車場
- 場所 北見町
- Function : Residence + Greenery + Parking
- Site : Kitami-cho



37 秘密の花園跡駐車場

Former Mitopia Parking

- 機能 駐車場
- 場所 五軒町2丁目
- Function : Parking
- Site : Goken-cho



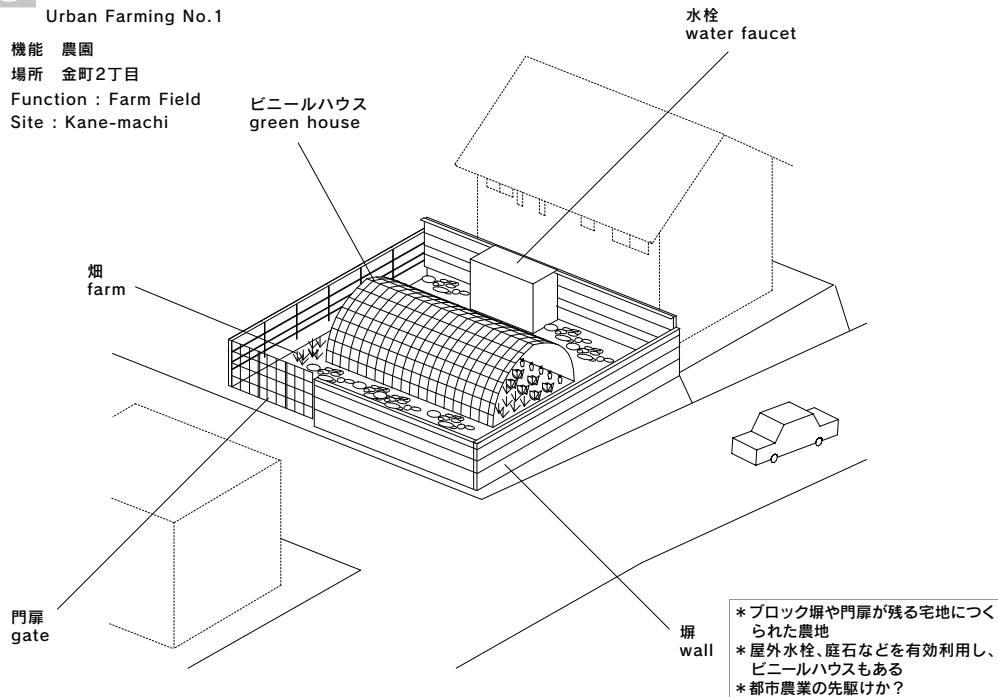
建替/新築

駐車場化

38 アーバンファーム1号

Urban Farming No.1

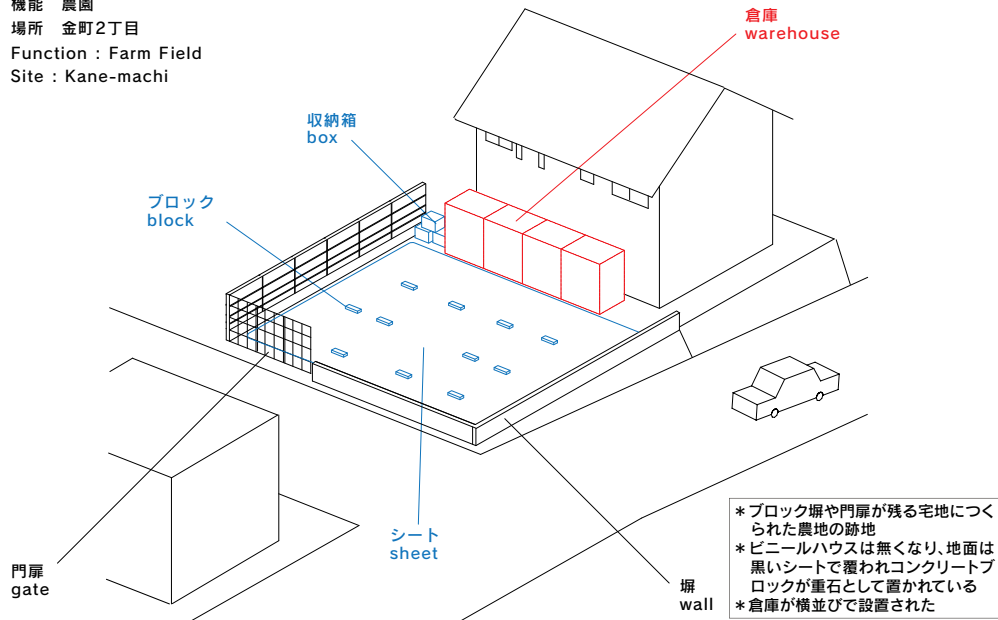
- 機能 農園
- 場所 金町2丁目
- Function : Farm Field
- Site : Kane-machi



38 元アーバンファーム1号

Former Urban Farming No.1

- 機能 農園
- 場所 金町2丁目
- Function : Farm Field
- Site : Kane-machi

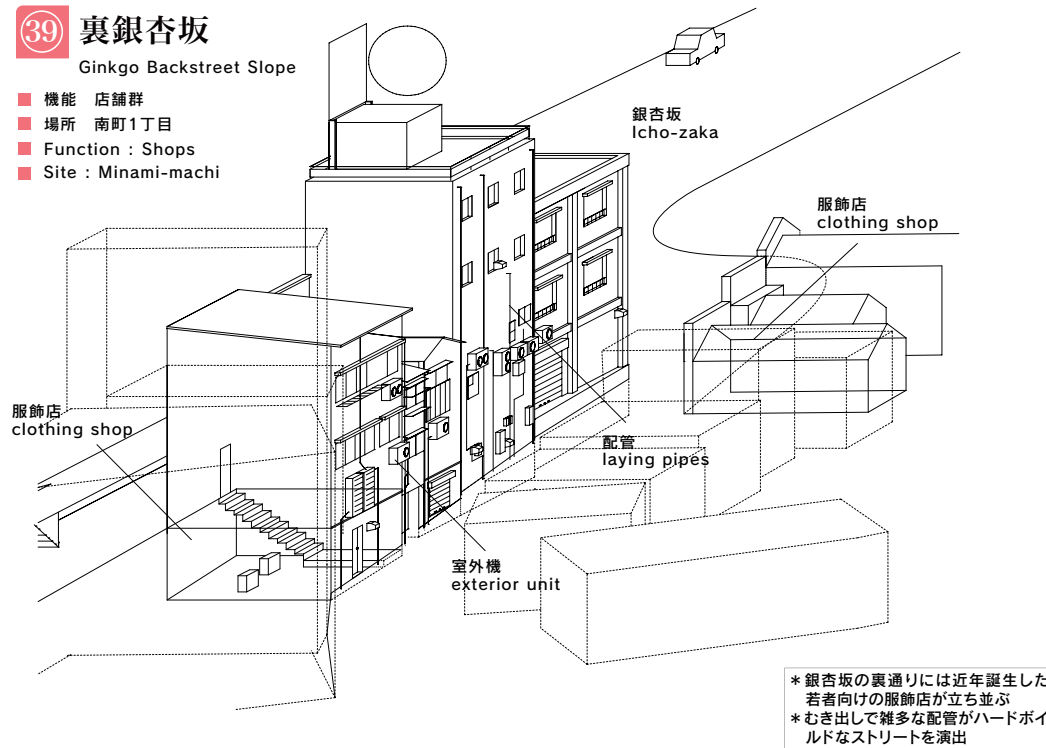


変化なし

39 裏銀座坂

Ginkgo Backstreet Slope

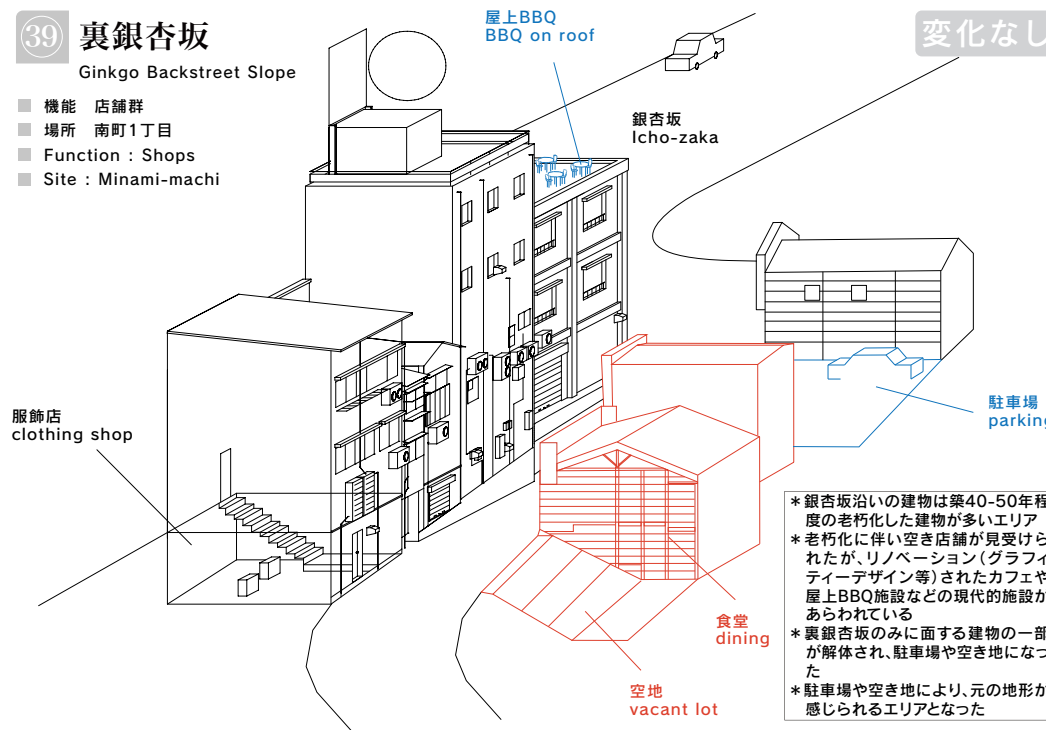
- 機能 店舗群
- 場所 南町1丁目
- Function : Shops
- Site : Minami-machi



39 裏銀座坂

Ginkgo Backstreet Slope

- 機能 店舗群
- 場所 南町1丁目
- Function : Shops
- Site : Minami-machi

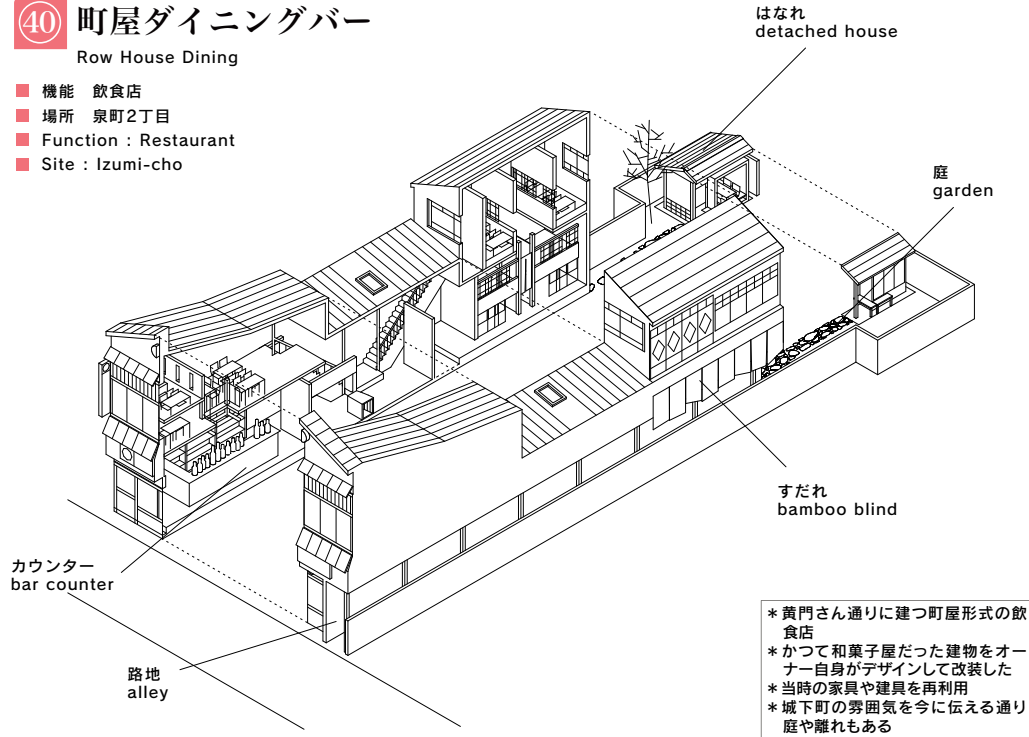


変化なし

40 町屋ダイニングバー

Row House Dining

- 機能 飲食店
- 場所 泉町2丁目
- Function : Restaurant
- Site : Izumi-cho

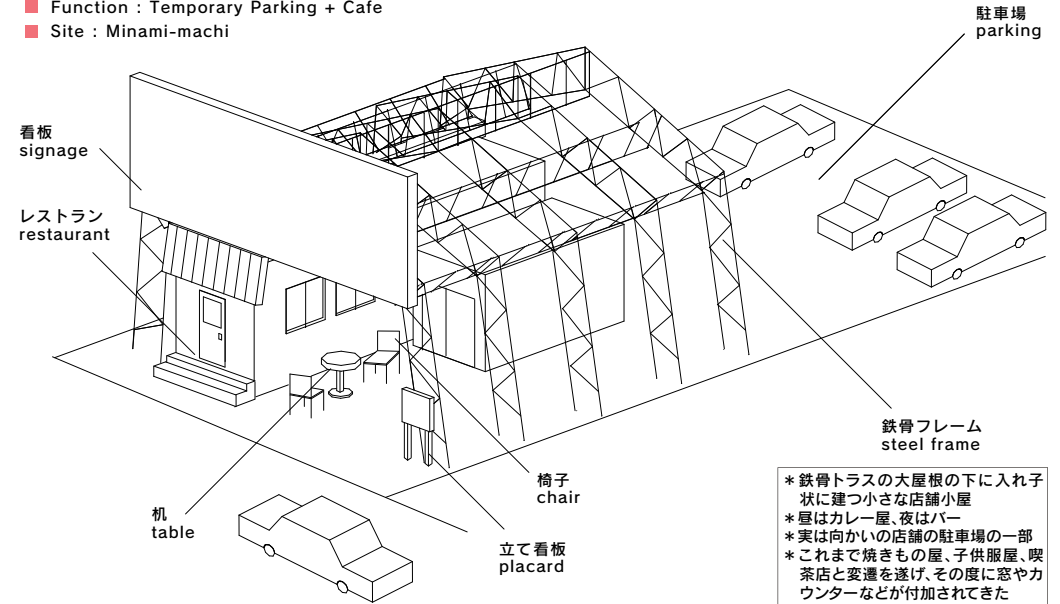


- * 黄門さん通りに建つ町屋形式の飲食店
- * かつて和菓子屋だった建物をオーナー自身がデザインして改装した
- * 当時の家具や建具を再利用
- * 城下町の雰囲気を今に伝える通り庭や離れもある

41 ガレージセールカフェ

Garage Sale Cafe

- 機能 飲食店+駐車場
- 場所 南町3丁目
- Function : Temporary Parking + Cafe
- Site : Minami-machi



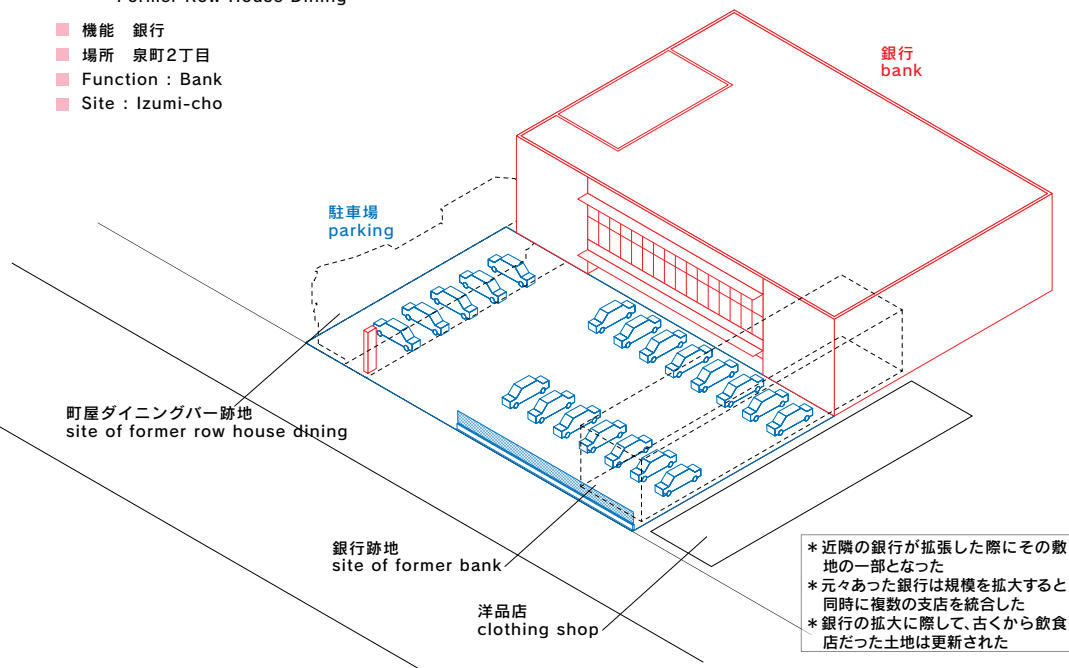
- * 鉄骨トラスの大屋根の下に入れ子状に建つ小さな店舗小屋
- * 昼はカレー屋、夜はバー
- * 実は向かいの店舗の駐車場の一部
- * これまで焼きものの屋、子供服屋、喫茶店と変遷を遂げ、その度に窓やカウンターなどが付加されてきた

40 元町屋ダイニングバー

Former Row House Dining

- 機能 銀行
- 場所 泉町2丁目
- Function : Bank
- Site : Izumi-cho

用途拡大



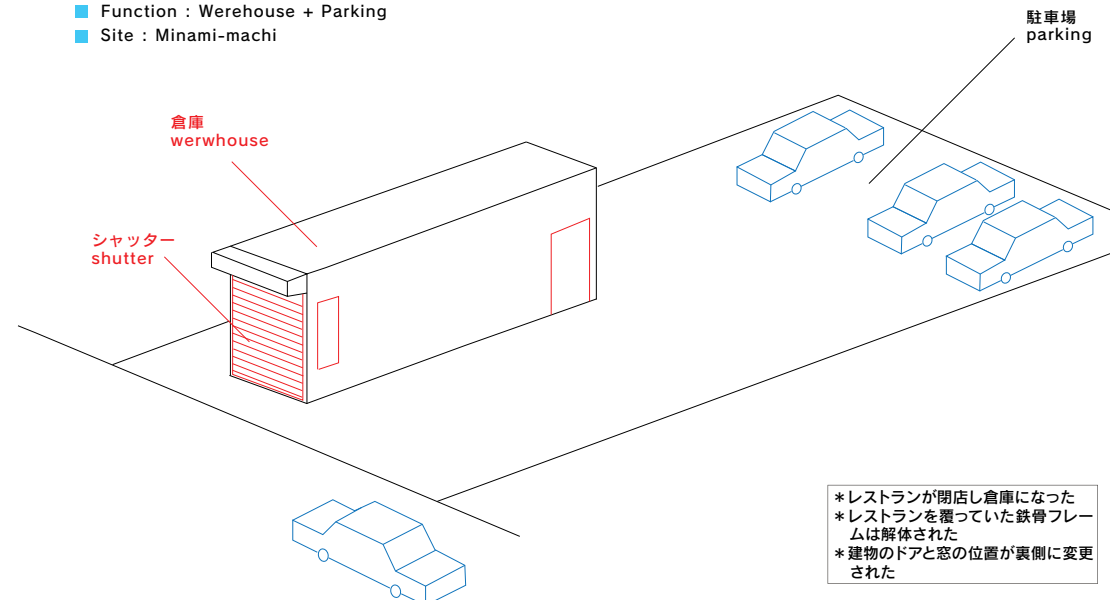
- * 近隣の銀行が拡張した際にその敷地の一部となった
- * 元々あった銀行は規模を拡大すると同時に複数の支店を統合した
- * 銀行の拡大に際して、古くから飲食店だった土地は更新された

41 元ガレージセールカフェ

Former Garage Sale Cafe

- 機能 倉庫+駐車場
- 場所 南町3丁目
- Function : Warehouse + Parking
- Site : Minami-machi

駐車場化



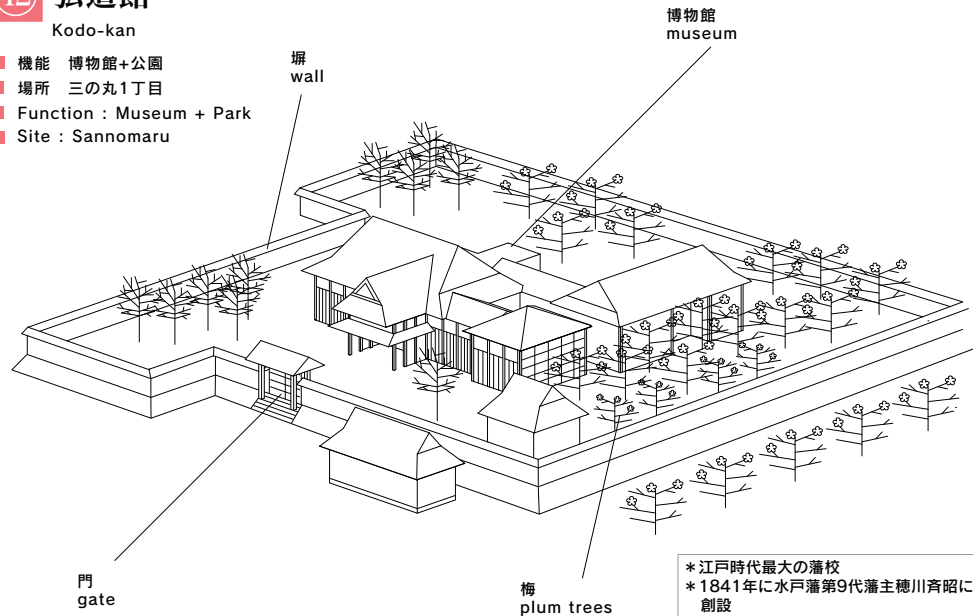
- * レストランが閉店し倉庫になった
- * レストランを覆っていた鉄骨フレームは解体された
- * 建物のドアと窓の位置が裏側に変更された

42

弘道館

Kodo-kan

- 機能 博物館+公園
- 場所 三の丸1丁目
- Function : Museum + Park
- Site : Sannomaru



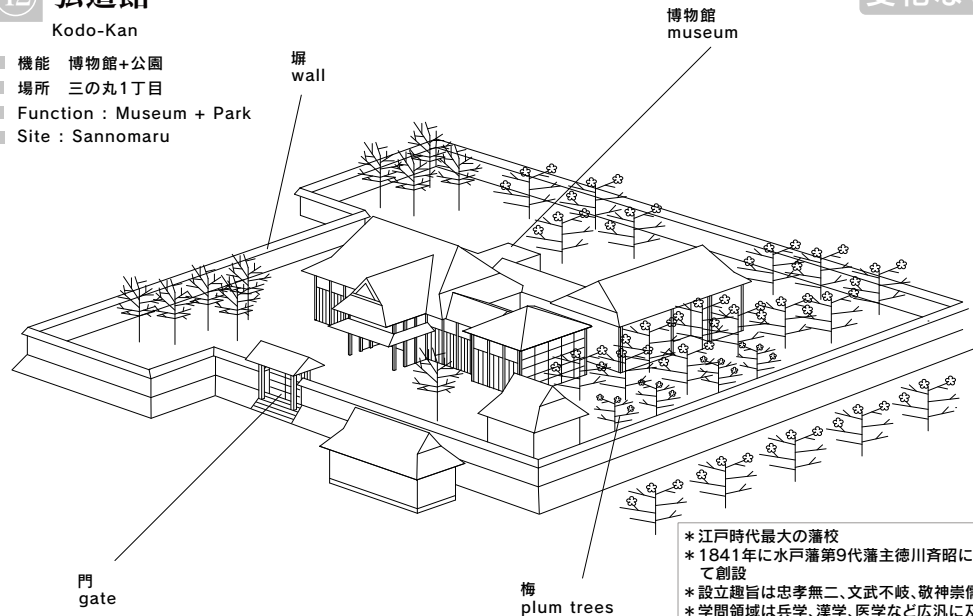
*江戸時代最大の藩校
 *1841年に水戸藩第9代藩主徳川斉昭により創設
 *設立趣旨は忠孝無二文武不岐、敬神崇儒
 *学問領域は兵学、漢学、医学など広汎に及ぶ
 *第15代将軍徳川慶喜も幼少期ここに学ぶ
 *国の重要文化財の正庁、至善堂、正門あり
 *約800本・60種類の梅

42

弘道館

Kodo-Kan

- 機能 博物館+公園
- 場所 三の丸1丁目
- Function : Museum + Park
- Site : Sannomaru



*江戸時代最大の藩校
 *1841年に水戸藩第9代藩主徳川斉昭によって創設
 *設立趣旨は忠孝無二、文武不岐、敬神崇儒
 *学問領域は兵学、漢学、医学など広汎に及ぶ
 *第15代徳川慶喜も幼少期ここに学ぶ
 *国の重要文化財の正庁、至善堂、正門あり
 *約800本・60品種の梅

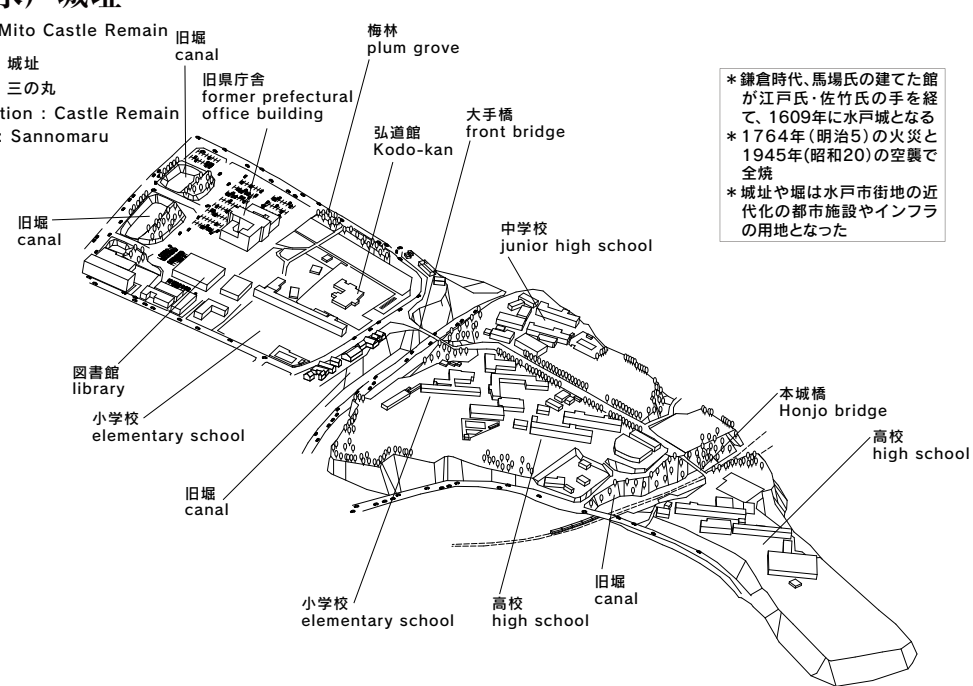
変化なし

43

水戸城址

Mito Castle Remain

- 機能 城址
- 場所 三の丸
- Function : Castle Remain
- Site : Sannomaru



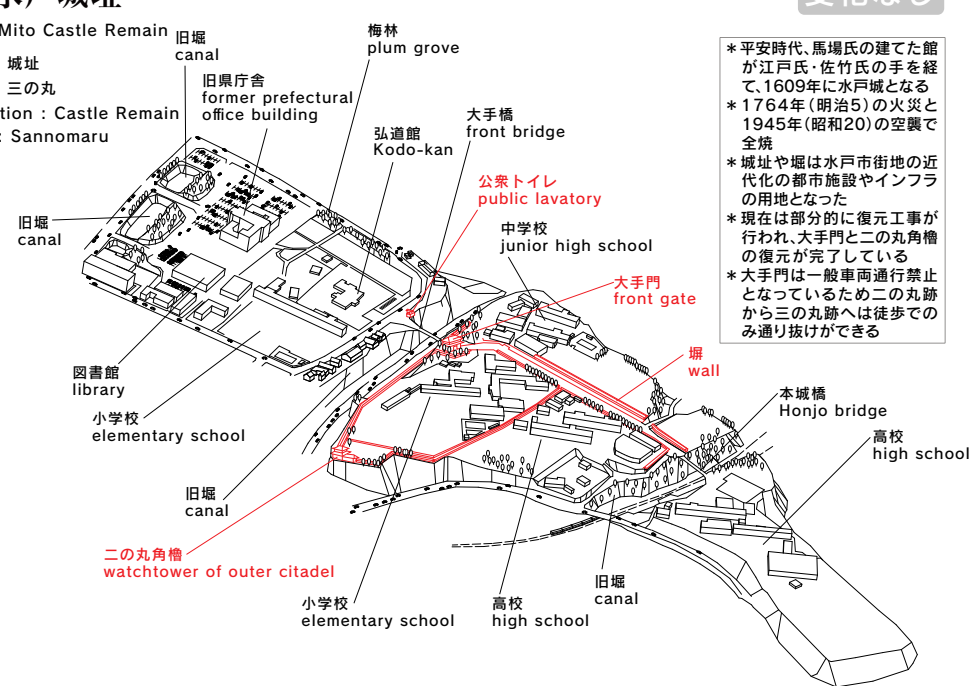
*鎌倉時代、馬場氏の建てた館が江戸氏・佐竹氏の手を経て、1609年に水戸城となる
 *1764年(明治5)の火災と1945年(昭和20)の空襲で全焼
 *城址や堀は水戸市街地の近代化の都市施設やインフラの用地となった

43

水戸城址

Mito Castle Remain

- 機能 城址
- 場所 三の丸
- Function : Castle Remain
- Site : Sannomaru



*平安時代、馬場氏の建てた館が江戸氏・佐竹氏の手を経て、1609年に水戸城となる
 *1764年(明治5)の火災と1945年(昭和20)の空襲で全焼
 *城址や堀は水戸市街地の近代化の都市施設やインフラの用地となった
 *現在は部分的に復元工事が行われ、大手門と二の丸角櫓の復元が完了している
 *大手門は一般車両通行禁止となっているため二の丸跡から三の丸跡へは徒歩でのみ通り抜けができる

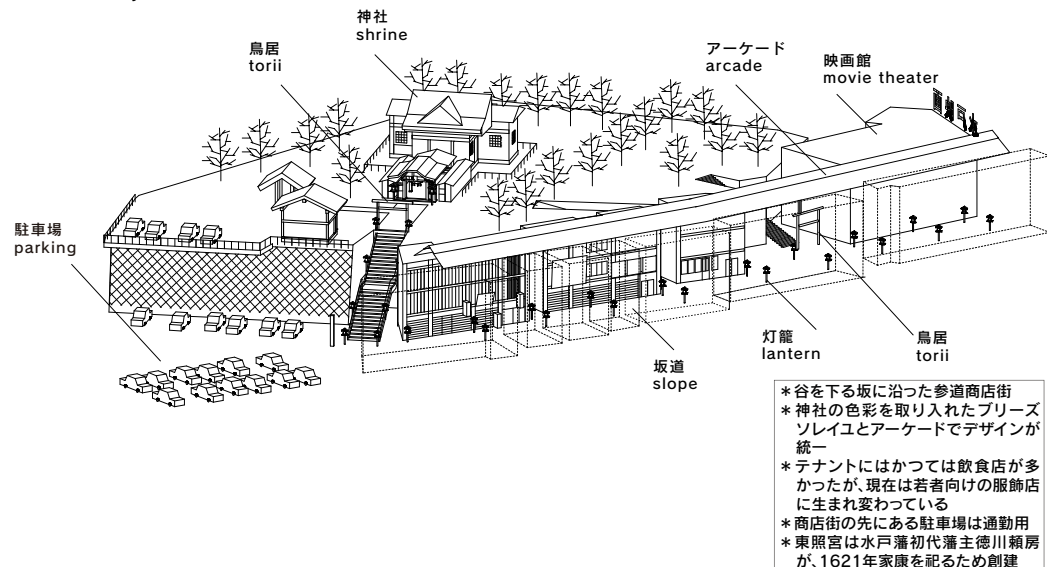
変化なし

44

神社町

Shrine Town

- 機能 神社+商店街+駐車場
- 場所 宮町2丁目
- Function : Shrine + Shop + Parking
- Site : Miya-machi

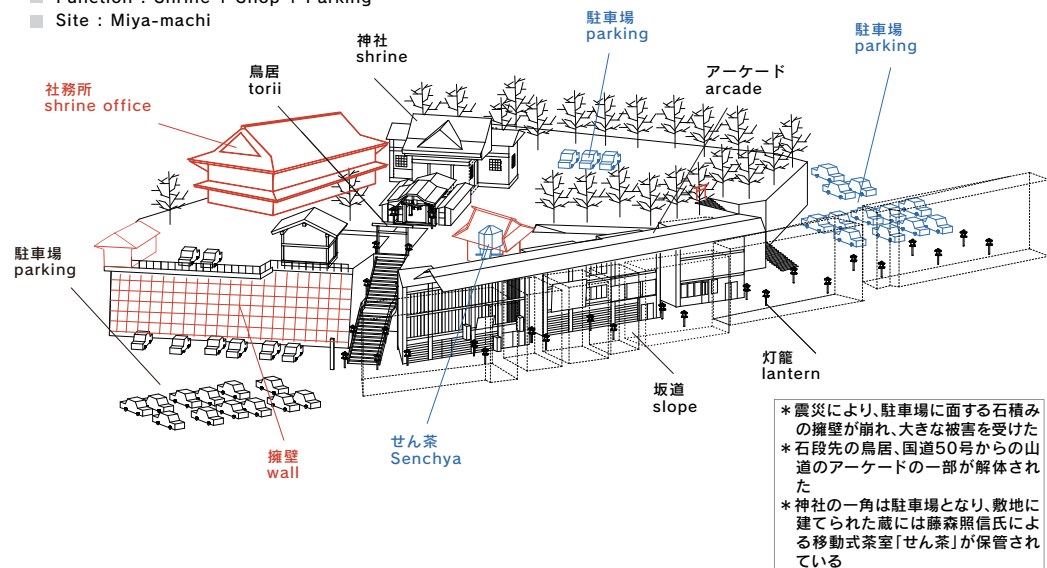


44

神社町

Shrine Town

- 機能 神社+商店街+駐車場
- 場所 宮町2丁目
- Function : Shrine + Shop + Parking
- Site : Miya-machi



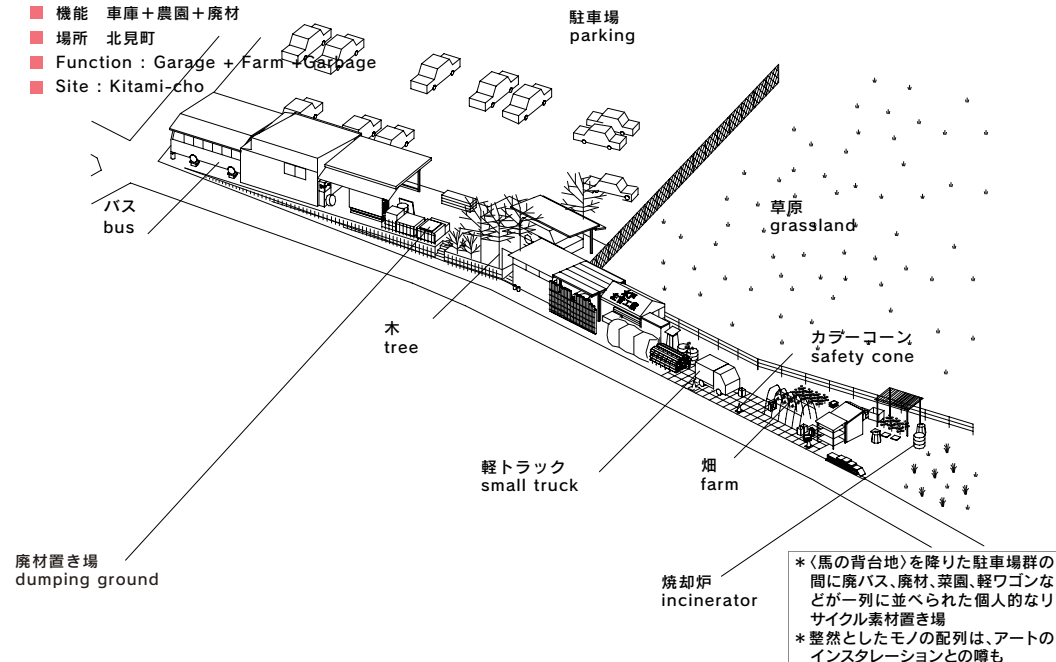
変化なし

45

マイリサイクルパーク

My Recycle Park

- 機能 車庫+農園+廃材
- 場所 北見町
- Function : Garage + Farm + Garbage
- Site : Kitami-cho

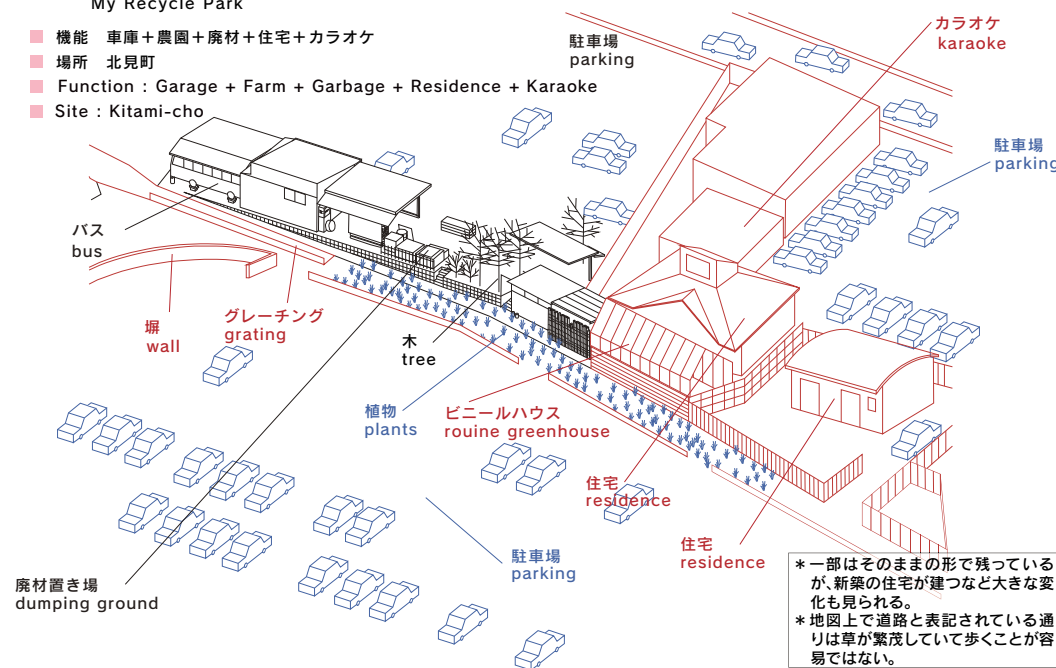


45

マイリサイクルパーク

My Recycle Park

- 機能 車庫+農園+廃材+住宅+カラオケ
- 場所 北見町
- Function : Garage + Farm + Garbage + Residence + Karaoke
- Site : Kitami-cho



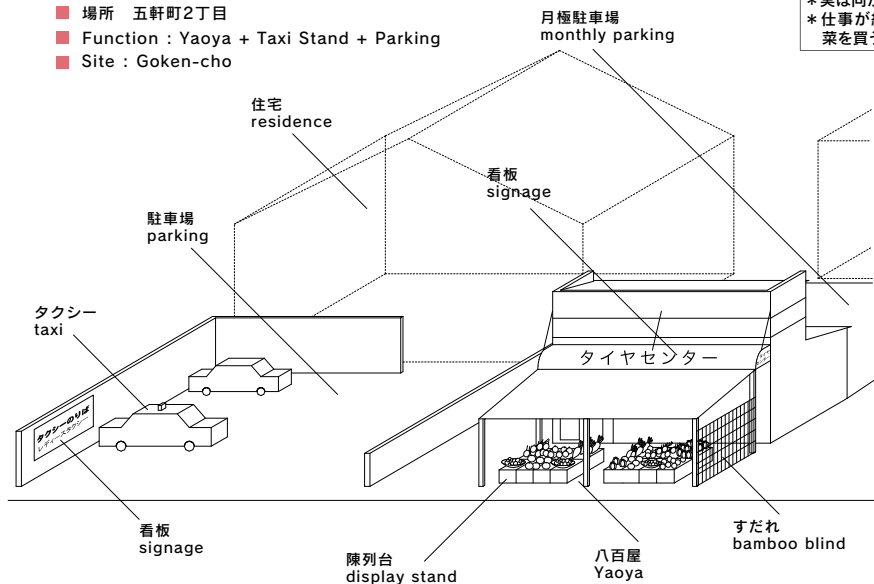
用途拡大

46 八百屋タクシー

Yaoya-Taxi

- 機能 八百屋+タクシー乗り場+駐車場
- 場所 五軒町2丁目
- Function : Yaoya + Taxi Stand + Parking
- Site : Goken-cho

*タイヤ店の看板が付いたままの建物に陳列台を並べた八百屋
 *月極駐車場の角に看板を取り付けただけの女性ドライバー専用タクシー乗り場
 *実は向かいの店舗の駐車場の一部
 *仕事が終わったらここで夕飯の野菜を買うのだろうか？

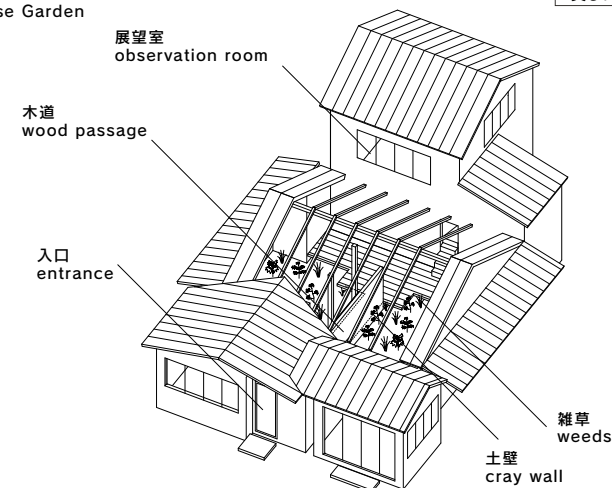


48 植物の家/アトリエ・ワン

House of Weed / Atelier Bow-wow

- 機能 庭+空き家
- 場所 大町2丁目
- Function : Inhouse Garden
- Site : O-machi

*「カフェ・イン・水戸2004」のリノベーションプロジェクト物件のひとつ
 *放置空き家のなかに雑草をインストールした
 *大地と空を家のなかに取り込むため床と屋根が取り払われた
 *美しい廃墟

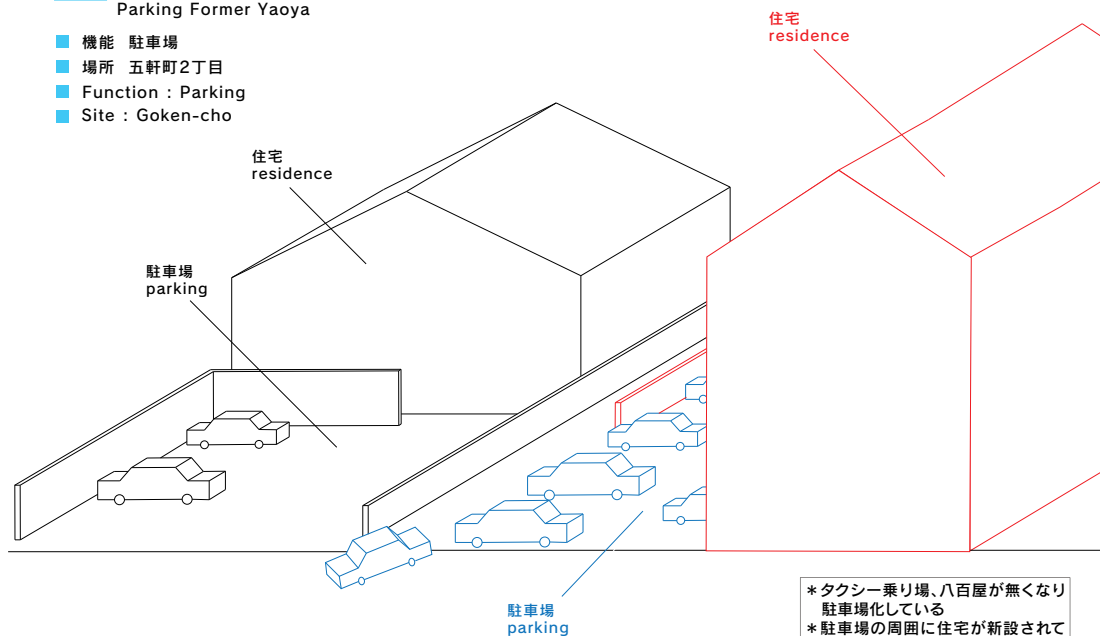


46 元八百屋駐車場

Parking Former Yaoya

- 機能 駐車場
- 場所 五軒町2丁目
- Function : Parking
- Site : Goken-cho

駐車場化



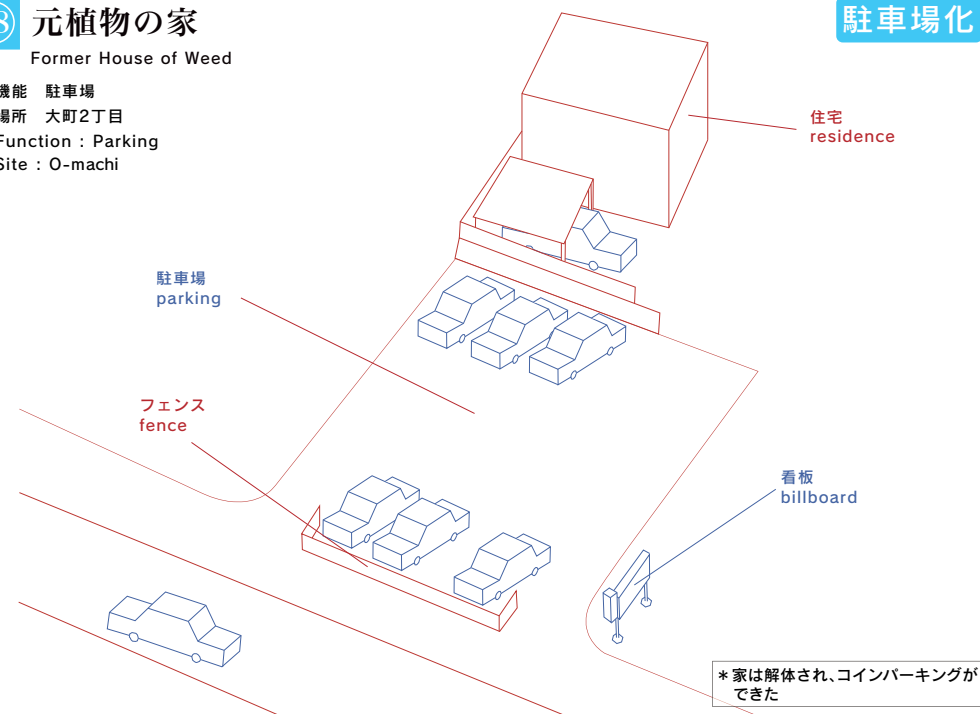
*タクシー乗り場、八百屋が無くなり駐車場化している
 *駐車場の周囲に住宅が新設されている

48 元植物の家

Former House of Weed

- 機能 駐車場
- 場所 大町2丁目
- Function : Parking
- Site : O-machi

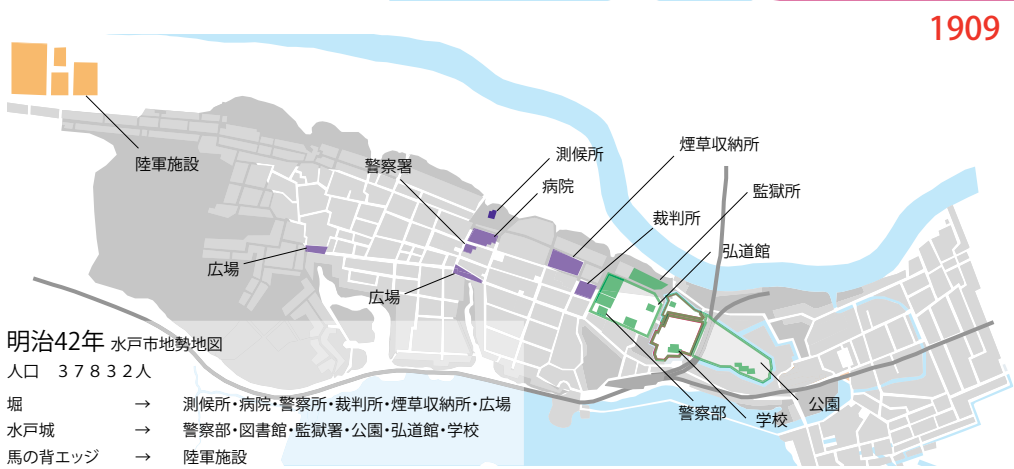
駐車場化



*家は解体され、コインパーキングができた

都市空間のトランスフォーメーション1830-2023

水戸の都市の変化を、江戸時代の水戸の地形(1)堀(2)水戸城(3)千波湖(4)馬の背台地と那珂川の間(5)馬の背外をもとに、その都市のエレメントが時代とともにどのように変化していくかをみる



水戸コンテンツレポート 2023

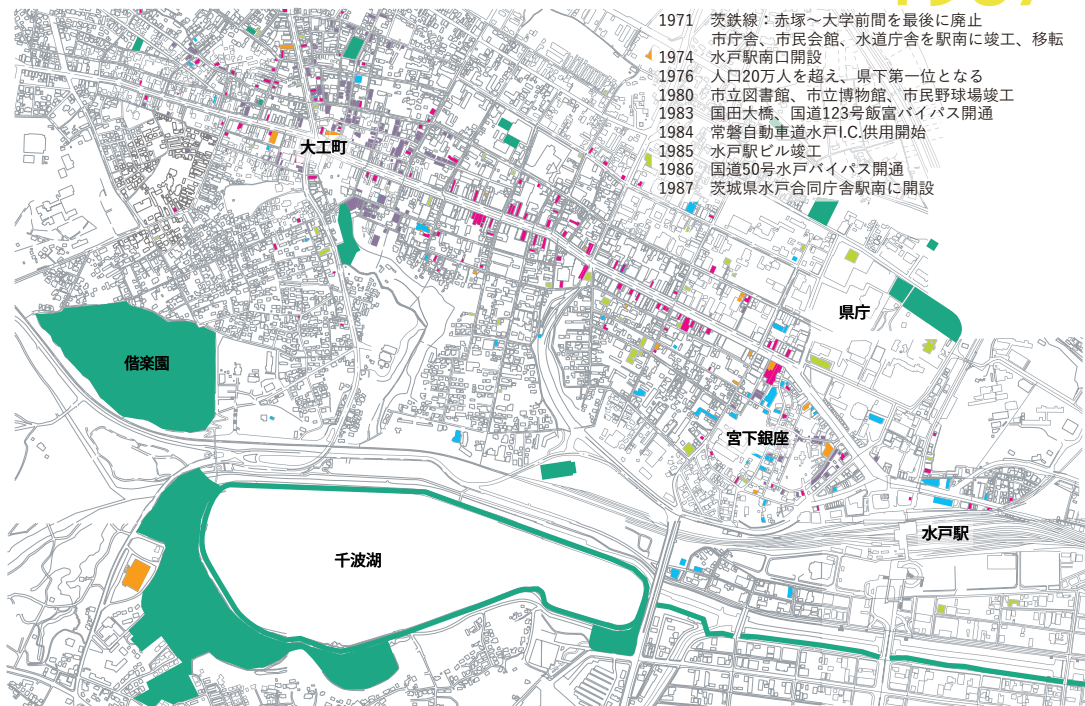
魅力的なまちに魅力的な「通り」あり。古くからの城下町である水戸にも数多くの「通り」が存在し、そうした通りと建築の関係が、より豊かな都市空間を生み出すカギとなる。

これを仮説に、通りに沿った建物がどのような用途に使われているかといった“コンテンツ”について、2003年におけるリサーチ結果(『dead or alive 水戸空間診断』収録のサバイバルレポート)と2022年におけるリサーチ結果との比較分析を通して、水戸の都市空間の変化や現在の特徴を捉える。また、駐車場や空き地など、実在する空所を敷地として、通りや周辺のコンテンツとの関係に着目した「通りに面した小建築」と、街区を横断するように拡大した駐車場を新たな通り抜け空間と捉えた「水戸 re-weave」という大小ふたつの規模の建築を提案する。

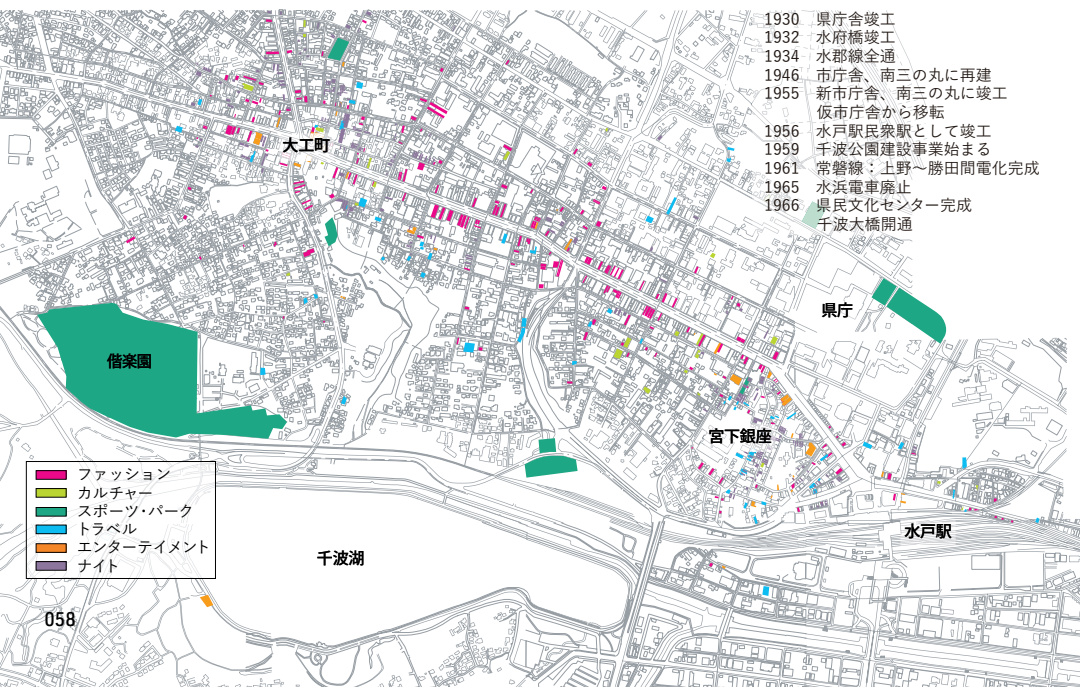


[建築の提案] リンク

1987



1969



2003



コンテンツレポートマップ

2023

- ファッション
- カルチャー・スクーリング
- スポーツ・パーク
- トラベル
- エンターテインメント
- ナイト
- シェアスペース・ケア
- パーキング・ヴォイド

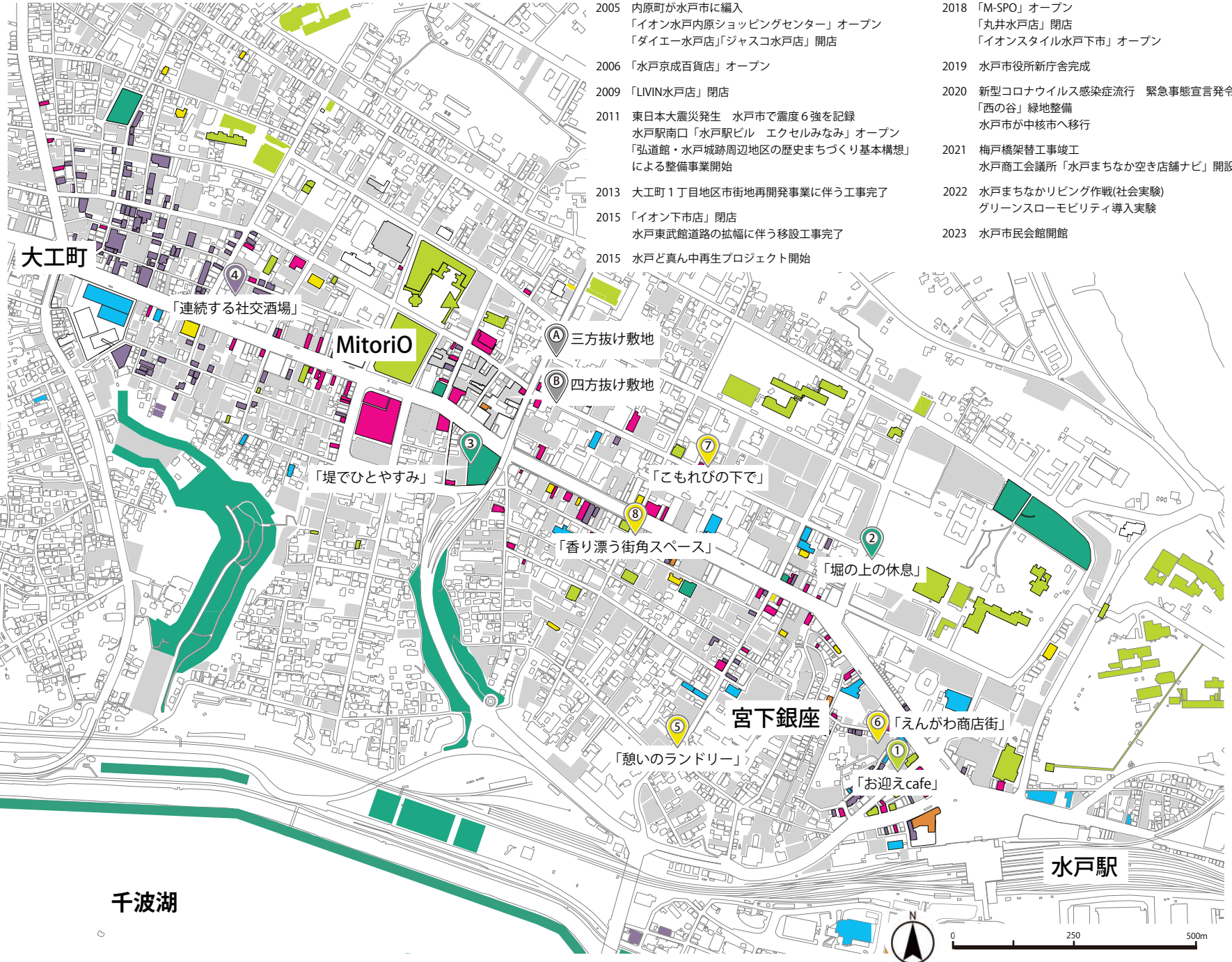
通りに面した小建築

- ① お迎えcafe
- ② 堀の上で休息
- ③ 堤でひとやすみ
- ④ 連続する社交酒場
- ⑤ 憩いのランドリー
- ⑥ えんがわ商店街
- ⑦ こもれびの下で
- ⑧ 香り漂う街角スペース

水戸 re-weave

駐車場と空地の観察から2つの仮想敷地を設定

- A 三方抜け敷地
 - 「都市を灯し、繋ぐ道」
 - 「縫いみち」
 - 「繁殖する街」
 - 「都市のプランター」
 - 「土間が繋ぐ自転車と生活と都市」
- B 四方抜け敷地
 - 「ちよっくら湯」
 - 「伝統文化複合施設」
 - 「竹と梅と教室と。」

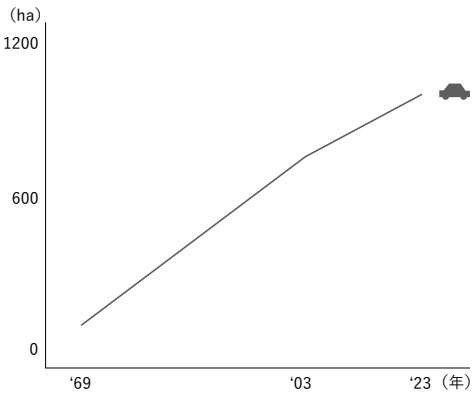


- 2005 内原町が水戸市に編入
「イオン水戸内原ショッピングセンター」オープン
「ダイエー水戸店」「ジャスコ水戸店」開店
- 2006 「水戸京成百貨店」オープン
- 2009 「LIVIN水戸店」開店
- 2011 東日本大震災発生 水戸市で震度6強を記録
水戸駅南口「水戸駅ビル エクセルみなみ」オープン
「弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想」による整備事業開始
- 2013 大工町1丁目地区市街地再開発事業に伴う工事完了
- 2015 「イオン水戸店」閉店
水戸東武館道路の拡幅に伴う移設工事完了
- 2015 水戸と真ん中再生プロジェクト開始

- 2018 「M-SPO」オープン
「丸井水戸店」閉店
「イオンスタイル水戸下市」オープン
- 2019 水戸市役所新庁舎完成
- 2020 新型コロナウイルス感染症流行 緊急事態宣言発令
「西の谷」緑地整備
水戸市が中核市へ移行
- 2021 梅戸橋架替工事竣工
水戸商工会議所「水戸まちなか空き店舗ナビ」開設
- 2022 水戸まちなかリビング作戦(社会実験)
グリーンスローモビリティ導入実験
- 2023 水戸市民会館開館

駐車場

駐車場は2003年以降も増加の一途を辿っている。市街の建物が減少し、駐車場が増加することによって表の通りと裏の通りが視線的にも動線的にもつながり、まるで街区が拡大しているように感じられる。建物が減少し空地ができることによって平面的なスペースが確保されたため、タワー型の立体駐車場が減少し平面的な駐車場が増加した。駐車場の近隣の建物が解体・空地化し、その後隣接する駐車場と統合されることによって、いびつな形で街区の間を縫うような駐車場が形成される。



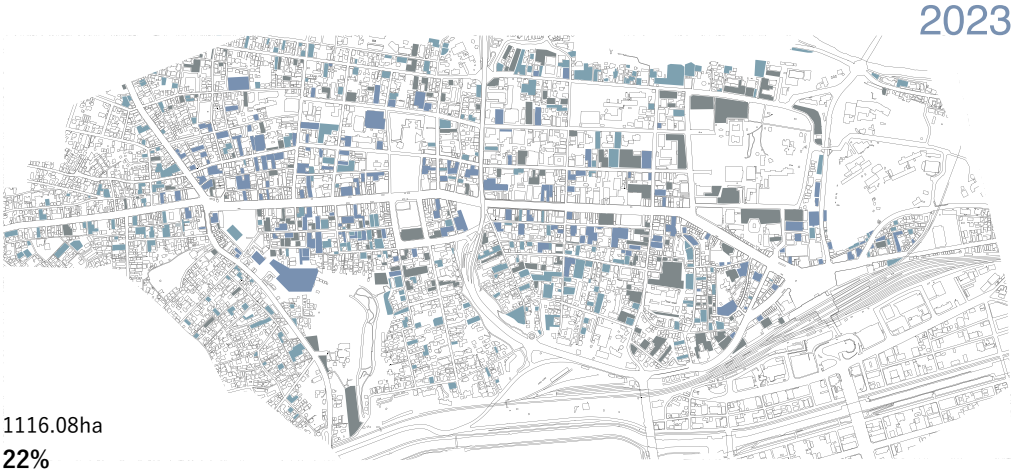
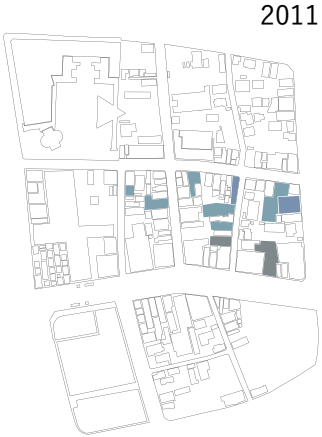
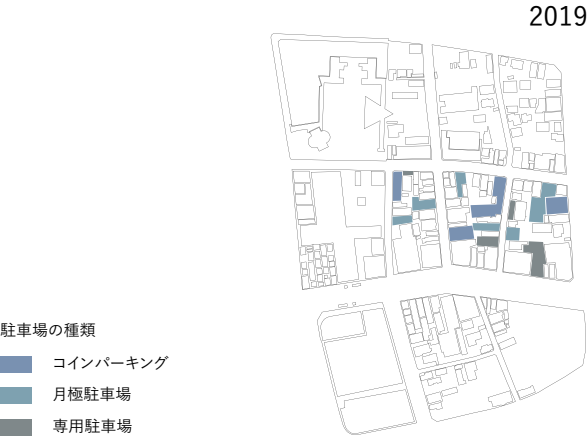
駐車場の変遷パターン



足し算式駐車場

泉町1丁目
(水戸芸術館周辺)

水戸 re-weave の対象敷地における 2004 年以降の駐車場の変遷を示す。街区の空地や建物跡地に設けられた駐車場が、街区を横断するように拡大していく様子が窺える。



- 駐車場の種類
- コインパーキング
 - 月極駐車場
 - 専用駐車場

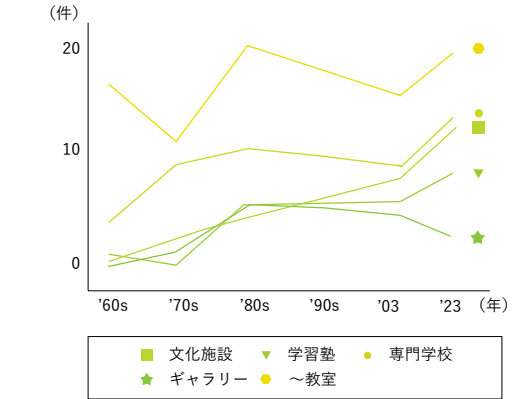
*2023 年マップの駐車場の位置、及び種類は『土地利用現況図（令和2年度調査）』を参考に Google Earth での調査と現地調査をの結果を示している

スクーリング

文武修行の場として開かれた弘道館のあった水戸では、前回の調査から約20年経った現在、水戸駅周辺を中心に塾や専門学校、カルチャーセンター（教室）をはじめとしたスクーリングが増加し、カテゴリーごとのエリア的なまとまりがさらに強くあらわれている。

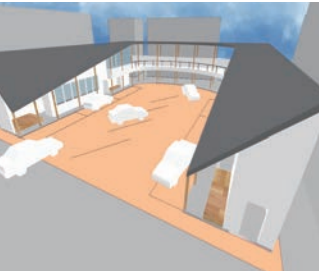
水戸の文化水準の底上げを担っている水戸芸術館や近代美術館を中心とした公共文化施設は維持され、二の丸角櫓や大手門の復元に伴う歴史的文化施設も新たに誕生した。特に角櫓は復元のみならず、内部を資料館として公開し、教育の場としても機能する。2023年に水戸市民会館がオープンし、その周辺には様々な教室の増加もみられ、より一層、水戸の文化の核に厚みが増すことになるであろう。

一方、総数としては増加している専門学校だが、各校の状況を見てみると、2003年まで規模を拡大し市街に校舎が点在していた学校が一つのビルに集約されるなど、規模の縮小が窺える。



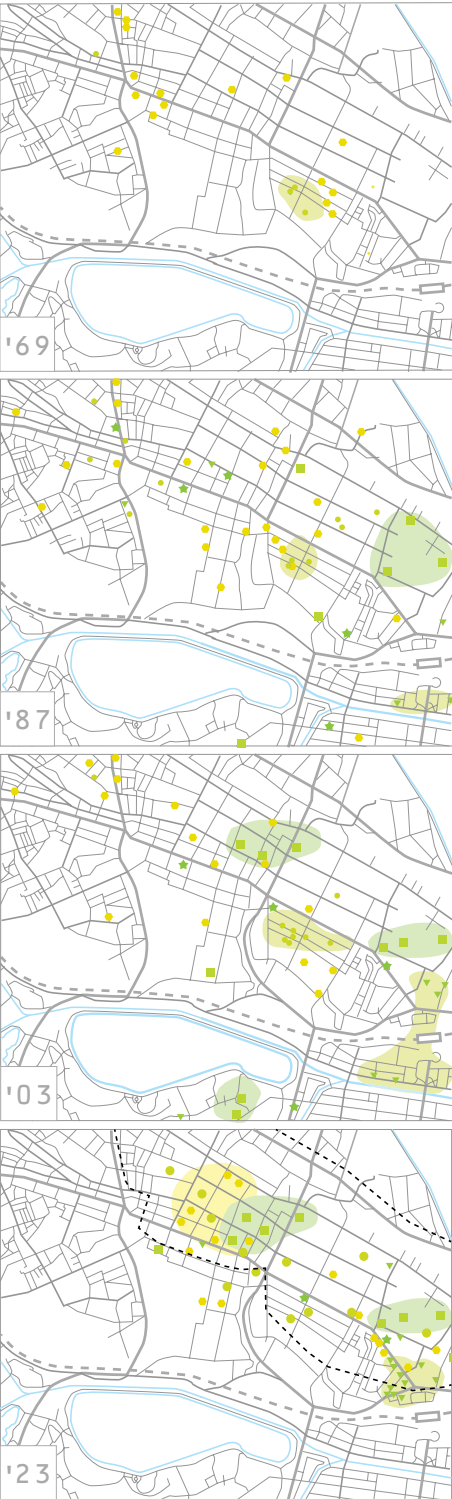
通りに面した小建築 — スクーリング —

① お迎え Cafe



安藤 聡汰

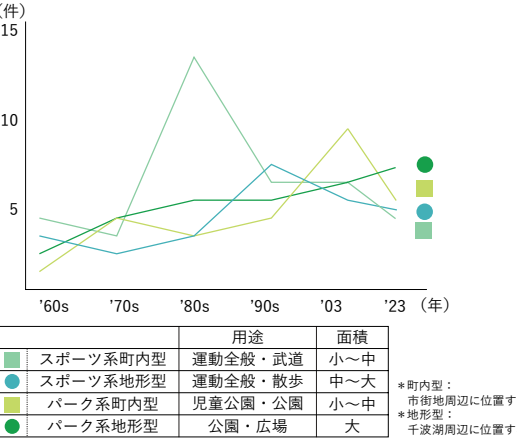
塾が集まる水戸駅周辺には、塾への送迎車が通りに並び、混雑が発生している。そこで、塾が始まる前・終わった後の生徒のたまり場になり、かつ安全に送迎が行えるような新しい居場所を提案する。待合所のみならず、カフェを併設することで、「待つ」という行為をより有意義なものにさせることができる。



*1969年、87年、2003年マップ：『dead or alive 水戸空間診断』p.101より
*2023年の調査範囲は - - - 内

スポーツ・パーク

60～80年代のバブル期に増加したスポーツ・パークの施設は、現在では減少傾向にあるが、2004年以降の運動場・公園施設の変遷には、千波湖、弘道館、偕楽園といった元々ある公共的な空間とともに、市街地の空洞化も重要な役割を果たしている。千波湖周辺部で始まった遊歩道や広場などの整備は、その縁辺部へも拡大を続け、「西の谷緑地公園」を始めとした新たな人工公園も完成し、市街地と千波湖周辺の連続性が生まれつつある。市街地では2017年に泉町に「M-SPO」が建設され、ウォーカブルなまちづくりに向けたオープンスペースの社会実験も始まり、街中におけるスポーツ施設及びオープンスペースの拡充が図られつつある。



通りに面した小建築 — スポーツ・パーク —

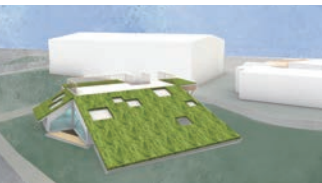
② 堀の上の休息



角 太陽

城のお堀という歴史的な場所に、堀の地形を眺めることのできる居場所を作り出す提案。歴史と対峙し、自己と向き合い、感性に従い静かに憩える場としての公共建築を目指す。

③ 堤でひとやすみ



小西 百恵

堀の地形的特徴を形態化した建物に公園的要素を持たせ、建物自体が遊具となる建築の提案。堤のような建築で大通りから領域的な境界を作り分節しつつも、人が介在することで連続的な空間を生む。



*1969年、87年、2003年マップ：『dead or alive 水戸空間診断』p.102より

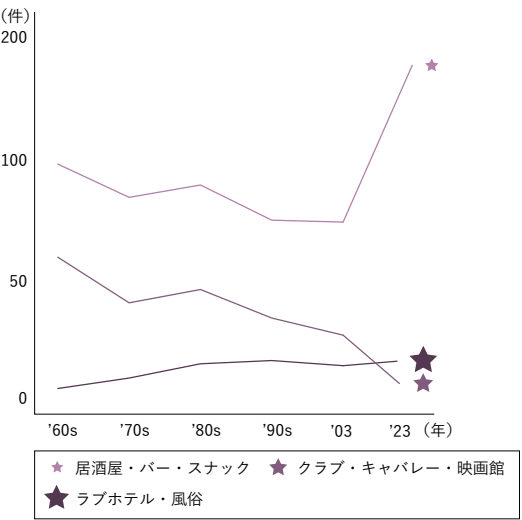
ナイト

水戸の夜の都市構造の変遷を追ってみる。60年代から80年代にかけて、宮下銀座は急激にナイトスポットの分布数を減らしている。また黄門さん通り沿いに分布していた居酒屋も姿を消している。大工町南のクラブやキャバレーが集中していたエリアは業態がラブホテルや風俗店に変わり、より濃厚なナイトエリアに生まれ変わっている。

80年代から2000年代にかけては、その構造に大きな変化はないものの、その数は全体的に減少している*1。

2000年代から現在にかけては、居酒屋の数が大幅に増加したことが分かった。特に宮下銀座周辺や駅前の居酒屋は2000年代には一時衰退傾向にあったものの、現在では172件と、2倍以上に店舗数が拡大する。

*1『dead or alive 水戸空間診断』p.105



通りに面した小建築 — ナイト —

④ 連続する社交酒場



鶴 志人

多くの居酒屋が立ち並ぶ大工町。しかし大通り沿いにはそういった店が少なく、街から孤立した印象を受ける。そこで、本提案は立ち並ぶ居酒屋を、歩行空間と組み合わせて大通りまで連続させることで、大通りへと酒場を表出させることを試みる。大通りを歩く人々は、この酒場を通して緩やかに大工町へと誘われる。



*1969年、87年、2003年マップ：『dead or alive 水戸空間診断』p.105より
*2023年の調査範囲は --- 内

シェア・ケア

昨今ではレンタルスペースやシェアスペースが普及し、水戸においてもそれらを提供する施設が少しずつではあるが増えてきている。また、高齢化や働き方改革の影響で、デイケア施設や職場に近い託児所の拡充が図られ、市街地にも徐々に増加してきている。こうした現状を踏まえて、今回は新たなコンテンツとして「シェア」と「ケア」に着目して、水戸市街での調査を行った。

シェアスペースの分布をみると、水戸駅周辺から、国道50号線沿いに立地していることがわかる。立地の特徴として、周辺には駐車場やナイト施設が多く、そのほとんどが居酒屋やバーなどであったことから、飲食店と類似した利用方法が考えられる。シェアスペースはドロップインで1人から利用できるブースを備えている施設から、複数人で一室を貸切って使える部屋を用意している施設もあり、多様なシチュエーションに対応している。

ケアには、障がい者用施設、介護福祉施設、児童施設などがみられた。水戸市街では全体のおよそ七割が介護施設であり、高齢者を対象とした施設が多く存在する。専門性の高い施設は駅から離れた住宅街とのエッジにあり、その他事業の一環としてケアサービスを提供する施設は、病院や水戸駅付近に集中していることが分かる。

一方、2023年には総合病院やクリニックではないものの、気軽に医療相談ができる産業保健事務所が大通りの角地にオープンし、街中で文化的な役割も担う、ひらかれたケア施設の可能性が示唆された。

通りに面した小建築 — シェア・ケア —

⑤ 憩いのランドリー



遠藤 環

屋夜間わず働く医療従事者のために、通勤路となる通りに寄り添う細長い建築の提案である。夜は24時間営業のコインランドリーが街灯の無い通りに灯りを提供する。併設するペカーリーは早朝からオープンし、協同病院で働く人が立ち寄るお店でもあり、洗濯待ちの人や地域住民の居場所ともなる。

⑦ こもれびの下で



加藤 雄大

芸術館通りに面する元々民家が建っていた敷地に、木漏れ日を感じながら仕事ができるコワーキングスペースを設計した。屋敷林を通りトシェアすることで屋外空間と屋内空間の境界に「木の下」という半屋外空間が生まれ、建築内部だけでなく屋外にも多様な空間を生み出す。



*2023年の調査範囲は --- 内

● シェア ▲ ケア

⑥ えんがわ商店街



上原 尚登

大通りと宮下銀座の結節点は大きな駐車場により街並みの連続性に乏しい。途切れてしまった商店街の街並みに連続性を取り戻すため、本提案では、人が滞在可能なえんがわをシェアする店舗と公園を設けることで通りに人の賑わいを溢れさせる。

⑧ 香り漂う街角スペース



中山 晴登

大通り周辺に香りが漂う飲食店が多く立地していることから、借景ならぬ「借香」を取り入れた、五感を刺激する角地の建築の提案。隣接するコーヒー店の側面にテイクアウト用の開口を設けることで周辺の機能とつながりを持つ有機的なオープンスペースとなる。

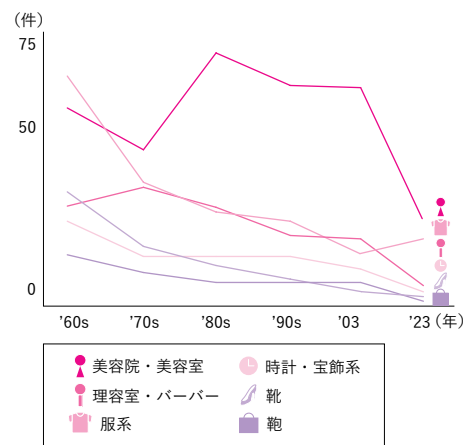
ファッション

江戸時代、他藩に美女を送っていたとされる水戸。美容や流行の先端を走っていたと思われるこの街のファッション系店舗の変遷をたどる。

日本国中がファッション全盛期であった60年代、水戸においてもその傾向がみられる。黄門さん通りを中心に、服系の店舗が集中している。バブル全盛期の80年代では、業種がファッションから美容へと変化し、分布も周辺地域への拡がりが見られた。

2003年は、美容院・美容室には大きな変化は見られないものの、全体の店舗数としては、大幅に減少している。

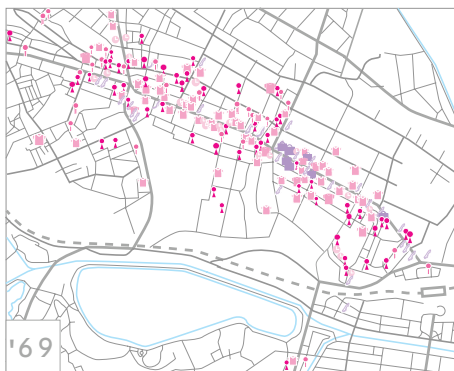
2023年は、大通り以外の店舗が大幅に減少している。特に、美容院美容室の店舗が著しく減少している。また、靴屋、鞆屋の店舗数についても減少していることが分かる。一方で、古着屋については水戸駅周辺と京成百貨店周辺に集まっている。2003年と2023年を比較すると、衣料店の数に大きな変化はないものの、婦人服などの店が減少し、古着屋が増加した。



「水戸無人古着屋 glows」



文化デザイナー学院の地下に位置するこの無人古着屋では、古着に加え、学生がリメイクした家具や服、雑貨などが販売されている。無人販売やキャッシュレス決済による人件費削減、InstagramといったSNSを活用したPR活動を通して、若者に人気となっている。通販サイトが台頭する現在でも、古着屋は若者の間で人気となっているようである。



トラベル

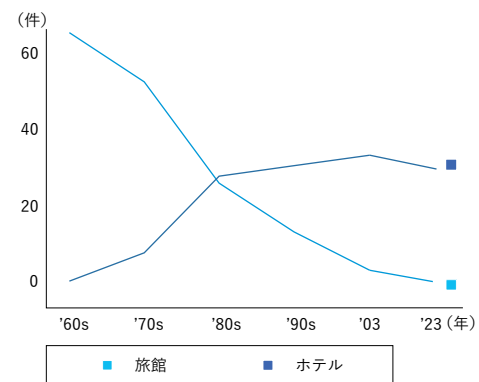
60年代の水戸の宿泊施設は殆どが旅館で、宮下銀座の真通りと大工町や泉町3丁目のナイトスポットの中に存在していた。また千波湖周辺にも多数の旅館があり、千波湖や偕楽園の観光が盛んだったことが想像できる。

80年代には駅周辺にホテルが増加し、その影響を受けた大工町周辺の旅館が激減する。

2003年においても駅南を中心にシティーホテル、ビジネスホテルが増加しており、水戸は観光都市から県庁所在地としてのビジネス都市の傾向が強まっていたと読める。

しかし、常磐道の開通（'85）や特急スーパーひたちの開通（'89）など旅の高速化短時間化によって「水戸に一泊」は少なくなった。さらに県庁の移転が拍車を掛け、市街地内の旅行はビジネスも含め増々衰退していった。

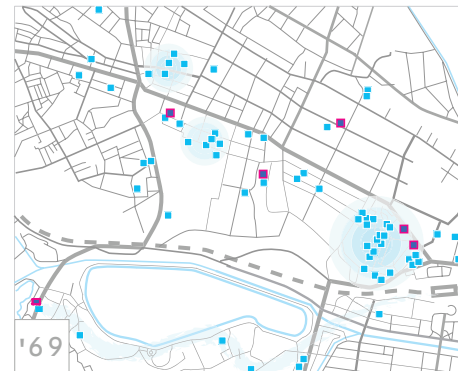
2023年には、旅館が更に減少した。リーマンショックといった経済の落ち込みを経て、客のニーズが減ったものとみられる。



「まちの宿」



新型コロナウイルスの流行を期に、テレワークやワーケーションといった新たな働き方が注目されるようになった。その中で、東照宮前・歴史館前といった観光地付近にオープンしたシェアホテル「まちの宿」は、水戸に観光、ワーケーションなどの多様な宿泊需要に対応し、地域の活性化やまちづくりに貢献している。

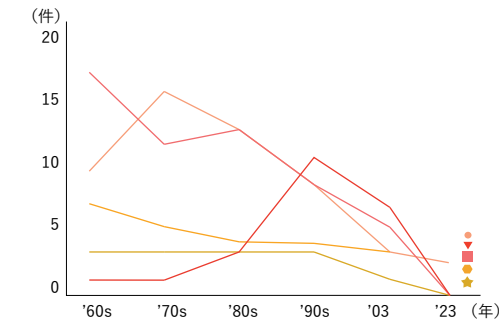


エンターテインメント

60年代のエンターテインメント（エンタメ）は、宮下銀座と大工町の2カ所を中心に栄えていた。どちらもナイトスポットとオーバーラップし、対象は成人男性だったことがうかがえる。また街の中にパチンコ店や映画館、ボウリング場など大きな面積の施設が存在していた。

80年代になるとと黄門さん通りの南北裏通りに雀荘が増え、エンタメの分布は2カ所集中から棒状になる。90年代には棒状分布は表通りにシフトするようになる。それはエンタメの対象が成人男性限定から一般大衆化されてきたとも読み取れる。

現在は大工町のエンタメスポットがなくなり、宮下銀座から駅前に中心が移行している。施設の形態も大規模から小規模なものへ変わってきた。

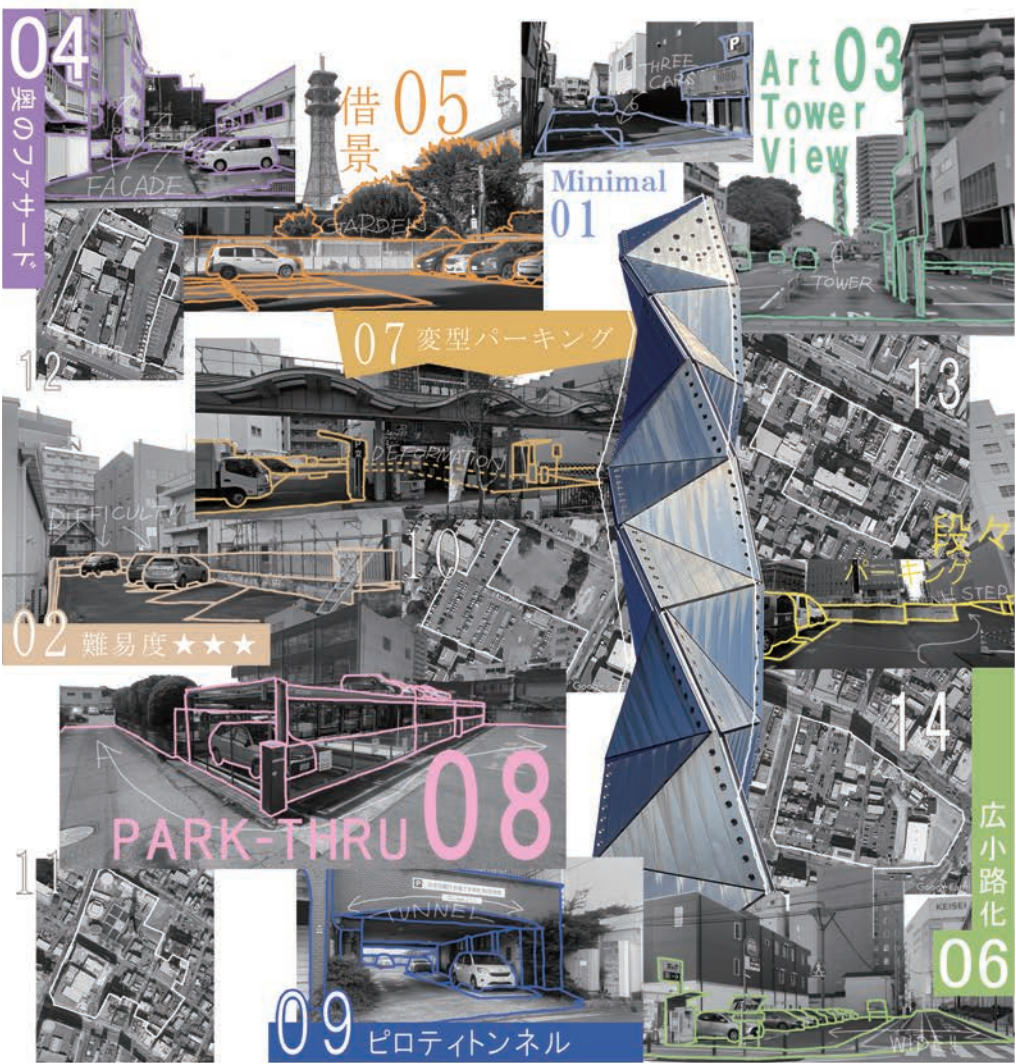


	面積	対象	増減
▼ ゲーム／カラオケ	小	子供	↗
■ パチンコ	大	大人	↘
● 麻雀	小	大人	↘
● 映画	大	大／子	↘
★ ボーリング／ビリヤード	大	大／子	↘

「寄席でまちづくり」



2022年、収容人数45人の小さな常設寄席がオープンした。東京や大阪のような大都市だけではなく、水戸のような地方都市にも寄席で笑いを届けたいという思いから「一般社団法人まちコンテンツ共創協会」のメンバーが運営。小さな会場の利点をいかし、大きなホールでは味わえない距離感でゆっくりと贅沢な時間を過ごせる。



パーキング スタディーズ

2004年の「水戸空間診断」から約20年、東日本大震災や経済情勢の変化を背景に、水戸の中心市街地における駐車場の変容は続いている。そこでは、城下町の通りと町屋の敷地割りがつくる水戸のまちの骨格と相まって、駐車場というヴォイドにより顕在化したユニークな空間を新たに見てとることができる一方、駐車場は依然として「車を停める、車のための場所」という機能のまま、「人が滞在する、人のための場所」とはなりえていない。パーキング スタディーズは水戸の中心市街地における駐車場の調査と提案を通して、「空洞化」や「衰退」といった言葉で語られがちな「駐車場」を都市空間の新たなポテンシャルとして捉えるための試みである。

水戸パーキングカタログ

水戸の中心市街地における平面駐車場104ヶ所、立体駐車場10ヶ所を調査した。各駐車場の形状や接道の形式、周辺環境との関係性などの分析により見出された、敷地単体で表れる平面駐車場の9種類の特徴と複数敷地に駐車場が連なることで表れる5種類の特徴(以下、複合パーキング)の計14種類、および立体駐車場7ヶ所を一覧化した説明書(カタログ)としてまとめた。本カタログで取り上げる駐車場は、各種類の特徴がよく表れている代表例を示している。各駐車場は、ニックネーム、立体図、駐車台数や運営方法、周辺環境などのデータ、独自に算出した偏差値(平面駐車場のみ)、マップ、そして説明文によって表現されている。

カタログの見方

ニックネーム

各種類の特徴を表す名前

地域にひらく偏差値

独自に算出した偏差値

データ

調査から得たデータ
住所／運営方法・舗装／駐車台数／周辺環境

説明文

各駐車場の観察から得られた特徴

01 ミニマル

66.7

〈62点〉〈80点〉
 〈100点〉〈100点〉

立体図

駐車場を斜め上から見た図

マップ

位置を示す地図
スケールは1/5000

住所＝水戸市泉町3丁目6-7
運営方法・舗装＝時間貸・アスファルト
駐車台数＝3台 周辺環境＝住商混在
ウナギの寝床のような町屋割に3台ずつ背中合わせのコインパーキング／精算機は1台なので同じ経営となっている／大通りに面しているがミニマルな駐車場／狭い敷地を活かした都市的な駐車場

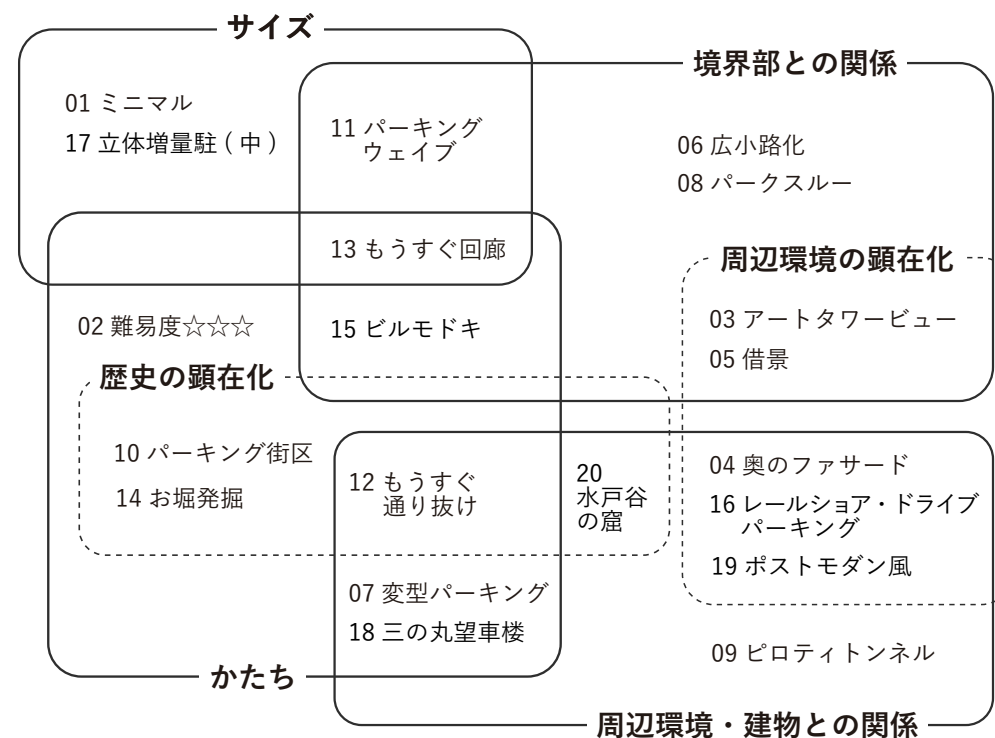
地域にひらく偏差値

偏差値 〈台数点〉〈接道点〉
〈運営点〉〈周辺環境点〉

駐車場が水戸のまちに対してどの程度ひらいているかを以下の4つの項目から独断で得点をつけ、偏差値を算出し、評価した。(対象：カタログ No.01～09 の駐車場)

- ①：駐車可能台数 ②：接道数 ③：運営方法（コインパーキング／専用／月極）
④：周辺環境（商業／オフィス／住宅街）

パーキングカテゴリー



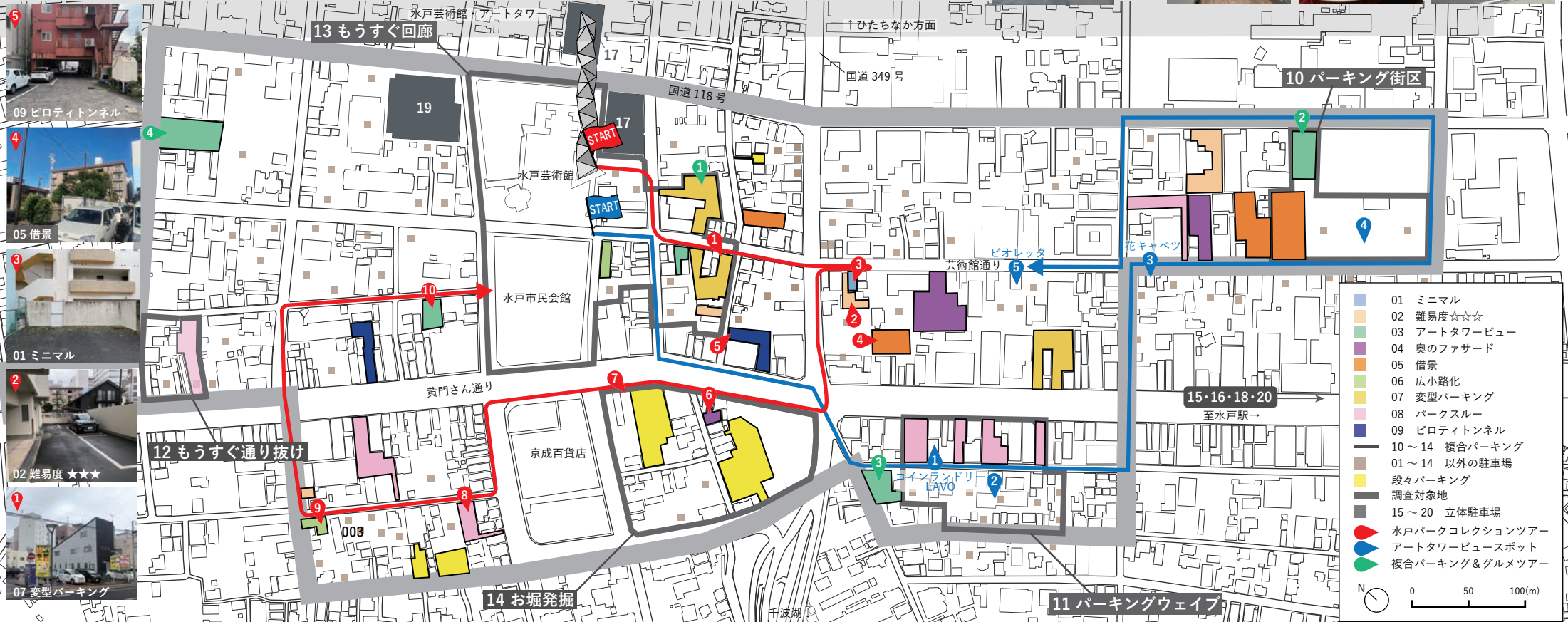
駐車場の空間的な特徴を比較検討することで、「サイズの特徴」、「かたちの特徴」、「境界部との関係」、「周辺環境・建物との関係」といった水戸の駐車場を特徴づけている4つの水準を見出した。さらに「歴史の顕在化」「周辺環境の顕在化」という2つの性格を発見した。

水戸パーキングマップ

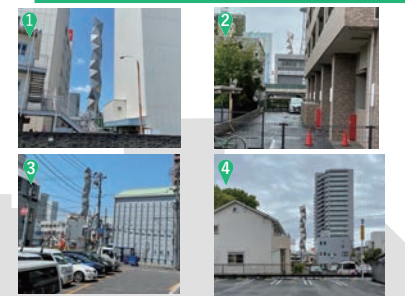
調査を行った駐車場を実際に体験できるマップ。
駐車場に注目したツアーや、1969 年以降の日本と水戸の歴史、駐車場の変遷をマップと合わせて記載。

水戸パークコレクションツアー 1 ~ 10

所要時間
35 分



アートタワービュースポット 1 2 3 4



複合パーキング&グルメツアー 1 ~ 5

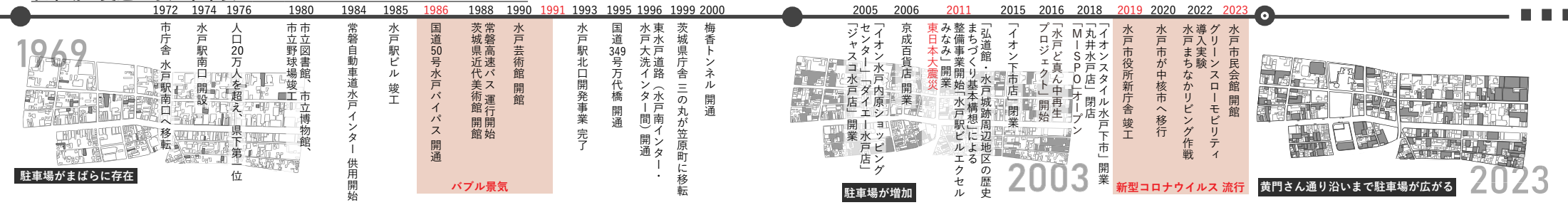
所要時間
35 分

【08 パークスルー】が集まってできた【11 パーキングウェイブ】の周辺エリアはウラミトと呼ばれており、駄菓子屋が奥に隠れるランドリーやメイド喫茶など、多様かつワクワクするお店が点在する。また、もうすぐ街区全体が駐車場になってしまいそうな【10 パーキング街区】では、広場のような空地の形成がみられる。水戸の名物「花きゃべつ」や「ピオレッタ」などのグルメスポットを合わせて紹介する。



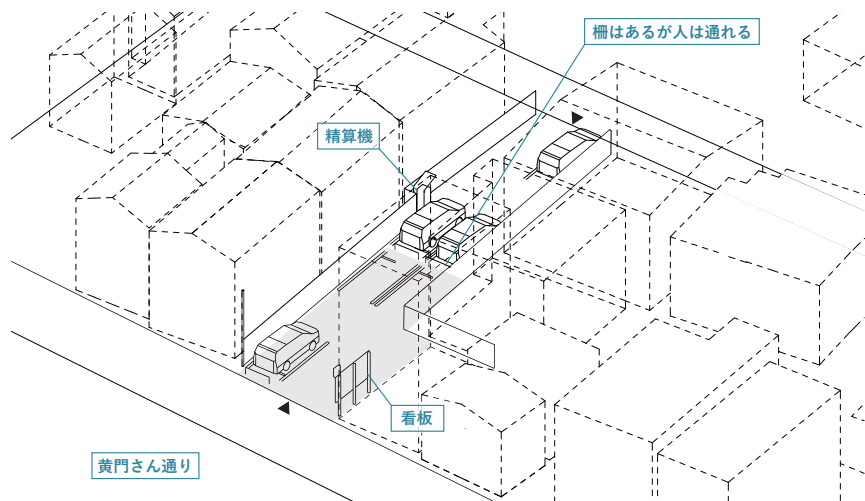
駐車場の変遷と水戸市年表

54 年に渡る駐車場の変遷と水戸市の変化をみる



01 ミニマル

66.7 <62点> <80点>
<100点> <100点>

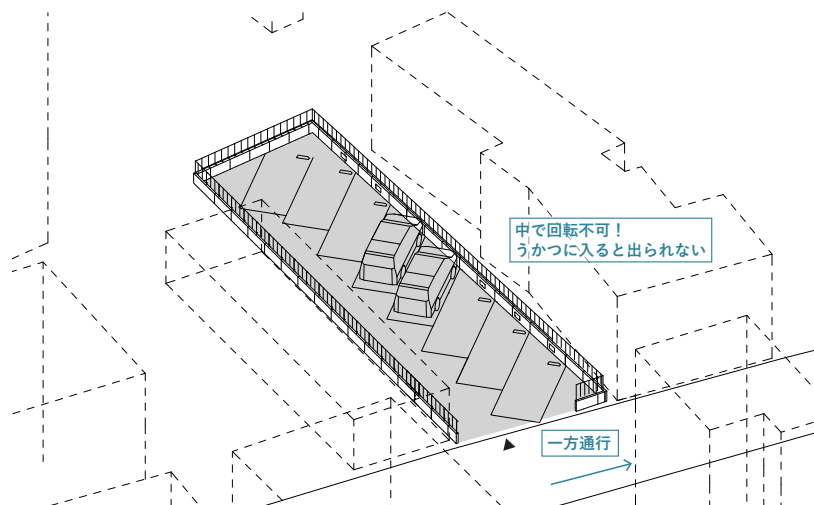


住所=水戸市泉町3丁目
運営方法・舗装=時間貸・アスファルト
駐車台数=3台 周辺環境=商業(繁華街)
ウナギの寝床のような町屋割に3台ずつ背中合わせのコインパーキング/精算機は1台なので同じ経営となっている/大通りに面しているがミニマルな駐車場/狭い敷地を活かした都市的な駐車場



02 難易度☆☆☆

42.5 <63点> <60点>
<60点> <80点>

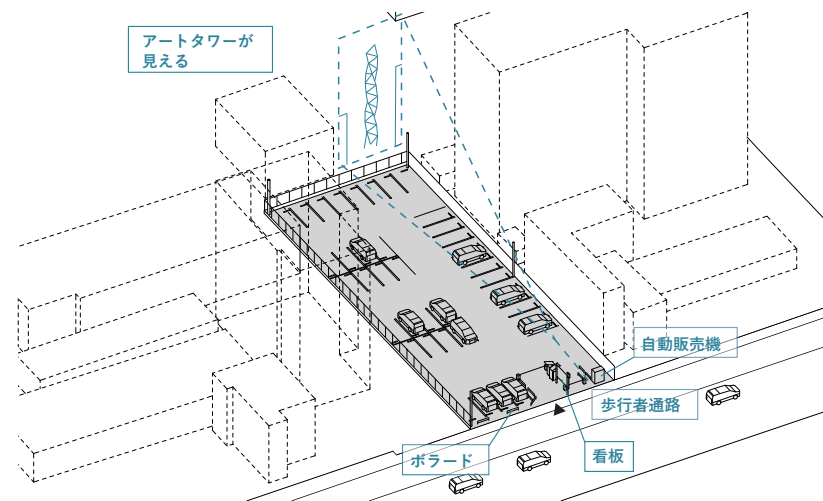


住所=水戸市泉町1丁目
運営方法・舗装=月極・アスファルト
駐車台数=8台 周辺環境=住商混在
限られた開口を最大限利用したプランニング/前進で停めると「行きはよいよい、帰りはこわい〜♪」となる/高難易度なので、ここに日常的に車を停める利用者の運転技術は高まるに違いない



03 アートタワービュー

49.9 <67点> <60点>
<80点> <80点>

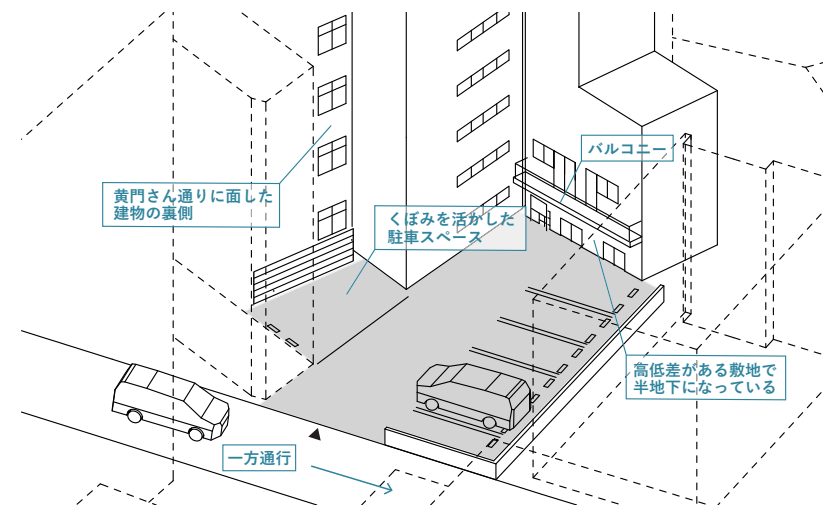


住所=水戸市五軒町2丁目
運営方法・舗装=時間貸(19台)+月極(2台)・アスファルト
駐車台数=21台 周辺環境=住商混在
アートタワーを望める駐車場/他にも複数存在/空地が増えたことにより以前はなかった視界がひらける/各地に沢山あるのでお気に入りのビュースポットを探してみても

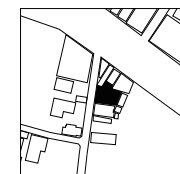


04 奥のファサード

42.4 <62点> <60点>
<60点> <80点>

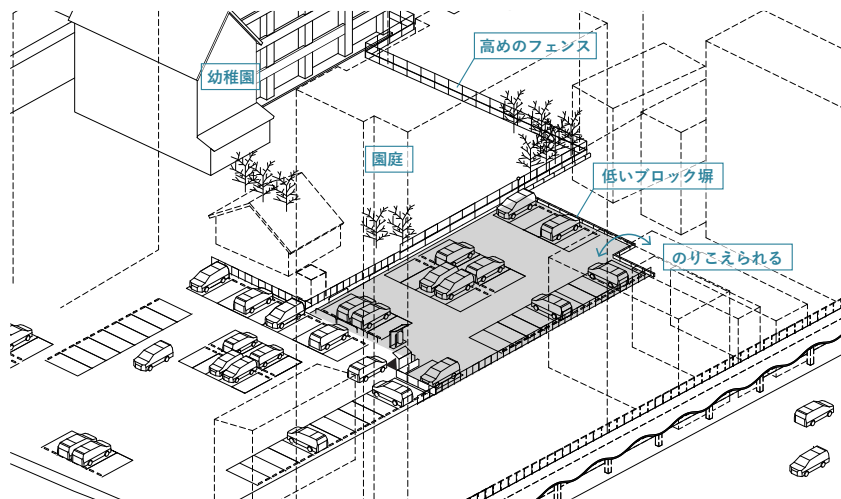


住所=水戸市南町3丁目
運営方法・舗装=月極・アスファルト
駐車台数=7台 周辺環境=住商混在
これまで隠れていた建物の立面が現れている/設備配管やウラ窓の飾らない配置がむしろカッコイイ/路地裏的な浪漫を感じる/奥のファサードでは建物に這うツタがよく見られる



05 借景

68.7
〈68点〉〈80点〉
〈100点〉〈100点〉



住所=水戸市南町3丁目

運営方法・舗装=時間貸(19台)+月極(6台)・アスファルト

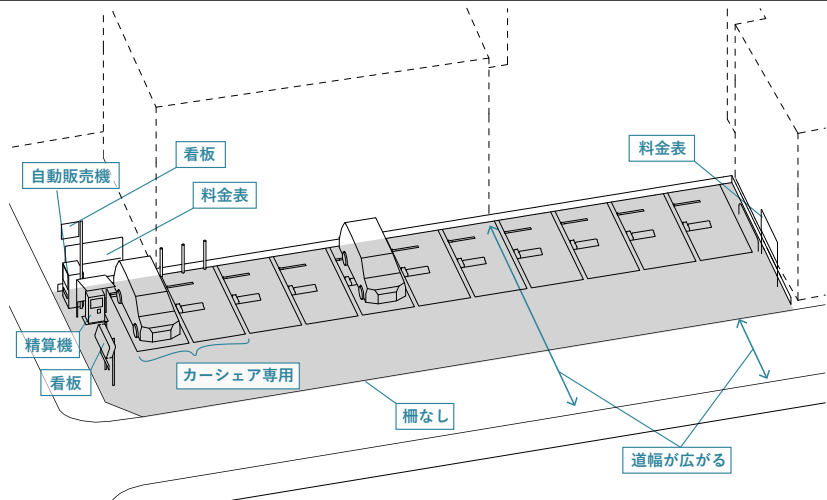
駐車台数=25台 周辺環境=商業(繁華街)

通りから奥へ広がった駐車場が園庭に隣接／庭の木々や子供たちの遊ぶ声に癒される／住宅の庭に接するなど複数例見られる／駐車場空間が都市へと広がり、敷地が拡大しているかのように見える例



06 広小路化

61.1
〈64点〉〈60点〉
〈100点〉〈100点〉

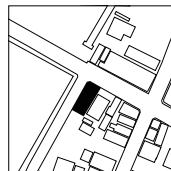


住所=水戸市泉町1丁目

運営方法・舗装=時間貸・アスファルト

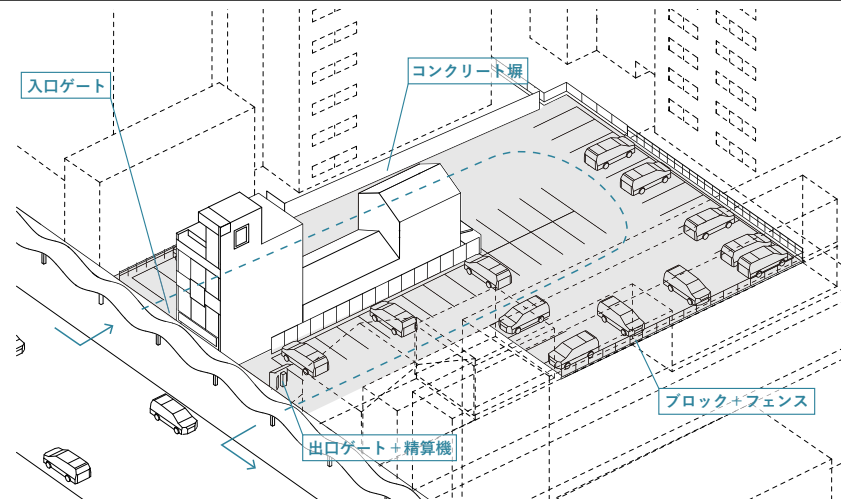
駐車台数=11台(うちカーシェア2台) 周辺環境=文化施設

街路と駐車場の境界に柵はなく、道幅が広がったかのように／広場のな役割も果たせそう／歩道が拡張して見え、広々と歩ける歩行者に優しい駐車場とも言えるのでは



07 変型パーキング

65.3
〈77点〉〈60点〉
〈100点〉〈100点〉



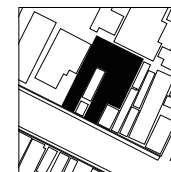
住所=水戸市南町3丁目

運営方法・舗装=時間貸・アスファルト

駐車台数=52台(うちカーシェア5台)

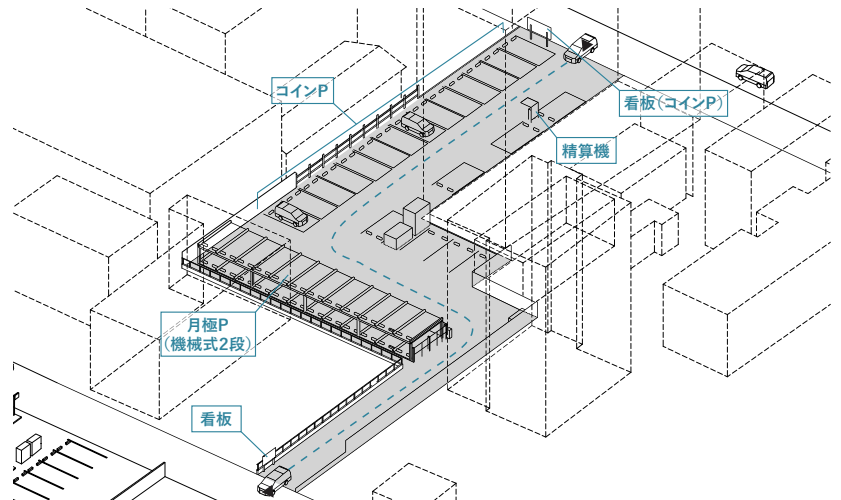
周辺環境=商業(繁華街)

いくつかの短冊状の敷地が連なってU字型に／変遷とともにつくられた歪な形が他にも見られる／何かの跡地が駐車場になった場合に見られる



08 パークスルー

55.9
〈67点〉〈80点〉
〈80点〉〈80点〉



住所=水戸市南町2丁目

運営方法・舗装=時間貸(5台)+月極(15台)・アスファルト

駐車台数=20台 周辺環境=住商混在

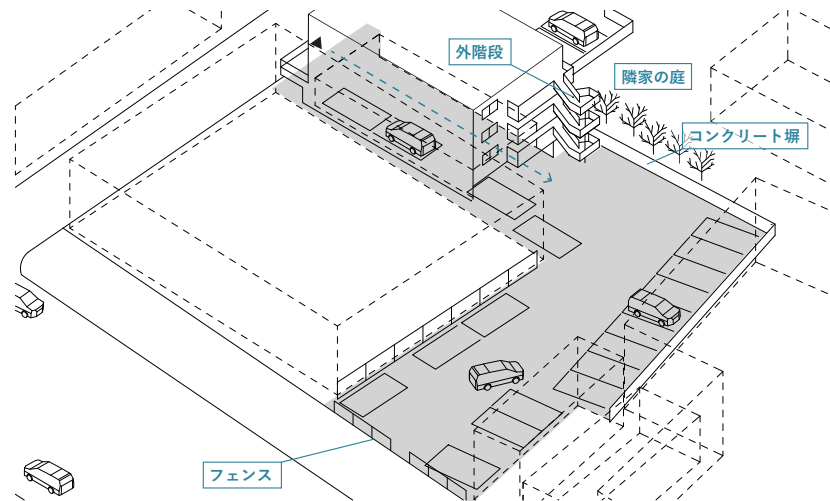
以前からある旗竿状のパーキングと大通りから入るコインパーキングが近年／一体化／通り抜けて歩いていくことができる／このような「通り抜け」は他にも見られ、ウォーカブルシティのポテンシャルとなるのでは



09 ピロティトンネル

55.7

〈66点〉〈80点〉
〈80点〉〈80点〉

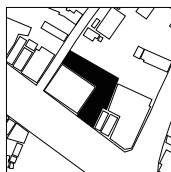


住所=水戸市南町3丁目

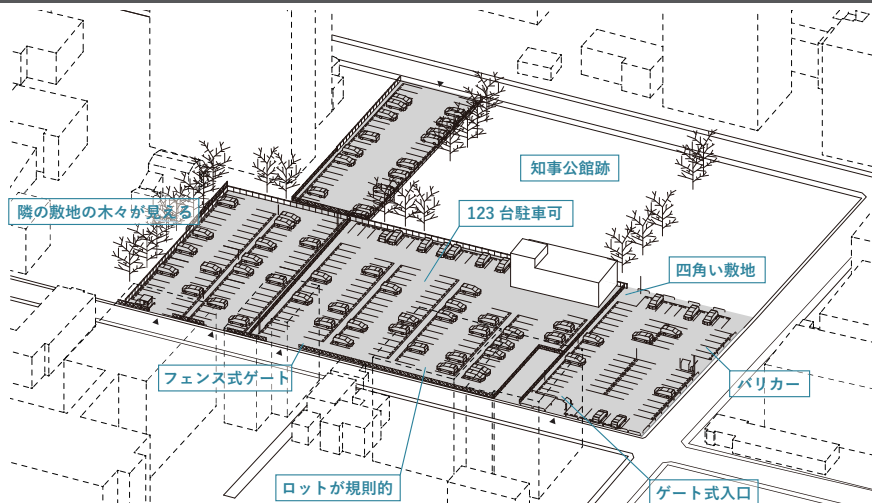
運営方法・舗装=店舗客用・アスファルト

駐車台数=18台 周辺環境=商業(繁華街)

ピロティの建物と奥の駐車場は元は別々の敷地で変遷とともに背後の駐車場へのアプローチとなった／ピロティ建築の新しい可能性を感じさせる／駐車場へ入る前にトンネルをくぐる斬新な空間構成



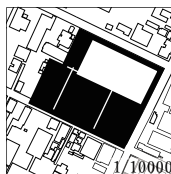
10 パーキング街区



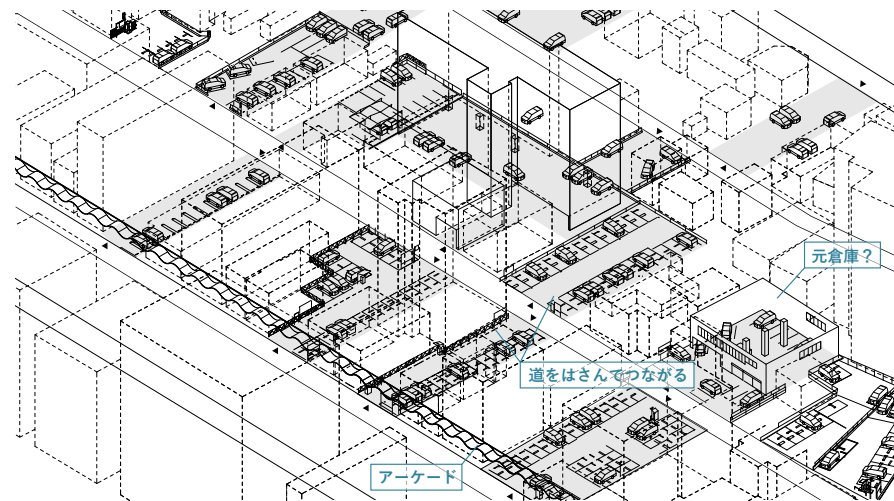
住所=水戸市南町

運営方法・舗装=月極(129台)+時間貸(69台)+専用(123台)・アスファルト

駐車台数=計321(69+123+46+83)台 周辺環境=住商混在
高位家臣の屋敷であったのか、そもそもひとつひとつが大きい敷地が隣接／駐車場化を繰り返し、パーキング街区へと成長した／駐車場のみで構成された街区規模のヴォイドが出現



11 パーキングウェイブ



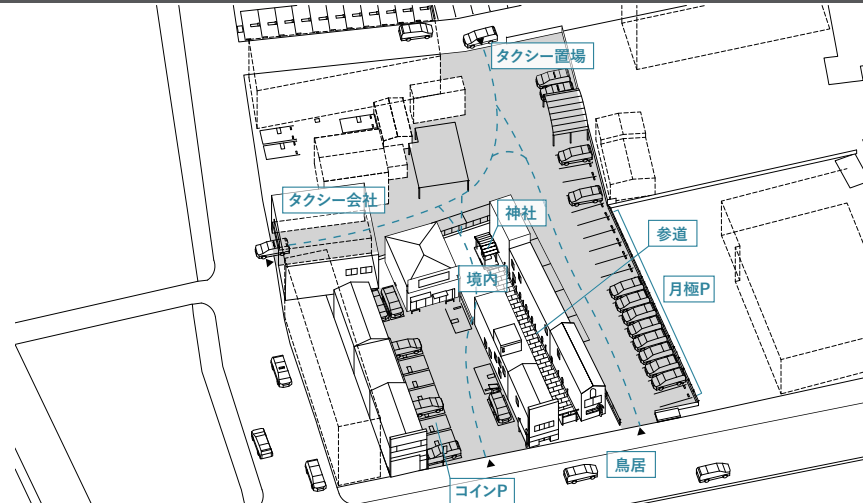
住所=水戸市南町

運営方法・舗装=月極(81台)+時間貸(95台)・アスファルト

駐車台数=計176(35+23+16+27+28+14+16+17)台 周辺環境=住商混在
アーケードの波と同期するように駐車場が繰り返し現れ、通りにリズムをもたらしている／大通りから奥へと駐車場が連なり、しみ込んでいくよう／祭りの時はバックヤードとして大活躍



12 もうすぐ通り抜け



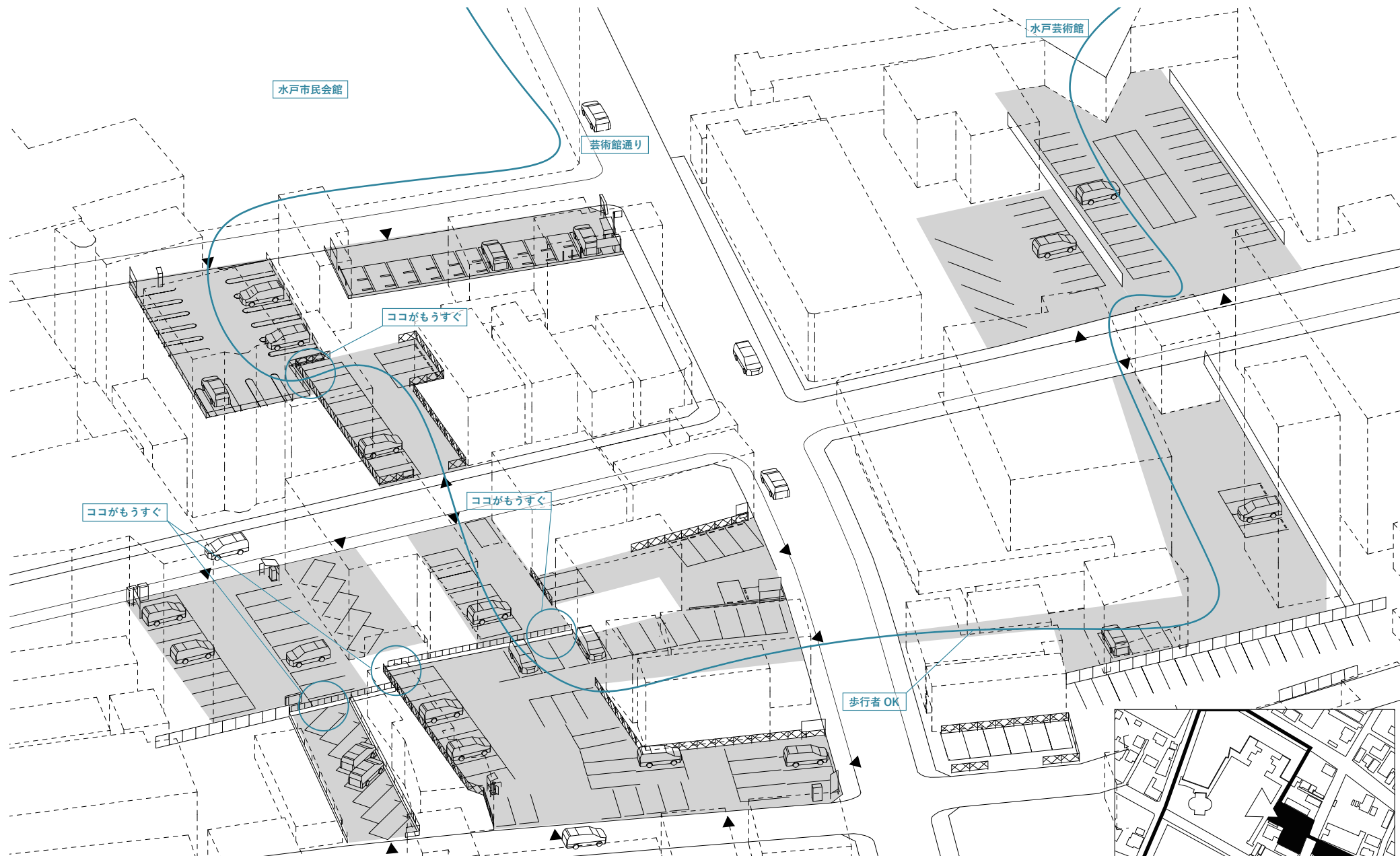
住所=水戸市泉町 運営方法・舗装=時間貸・アスファルト

駐車台数=計29(18+11)台 周辺環境=商業(繁華街)

いくつかの駐車場が連なり一体化している／境内の境界の在り方次第で新たな「通り抜け」となるか／ひっそりと建物に囲まれた路地裏のような空間／「通り抜け」が増えれば、人はネコのように、まちの隙間を自由に歩いていけるのでは／まち歩きにつながる面白い現象



13 もうすぐ回廊



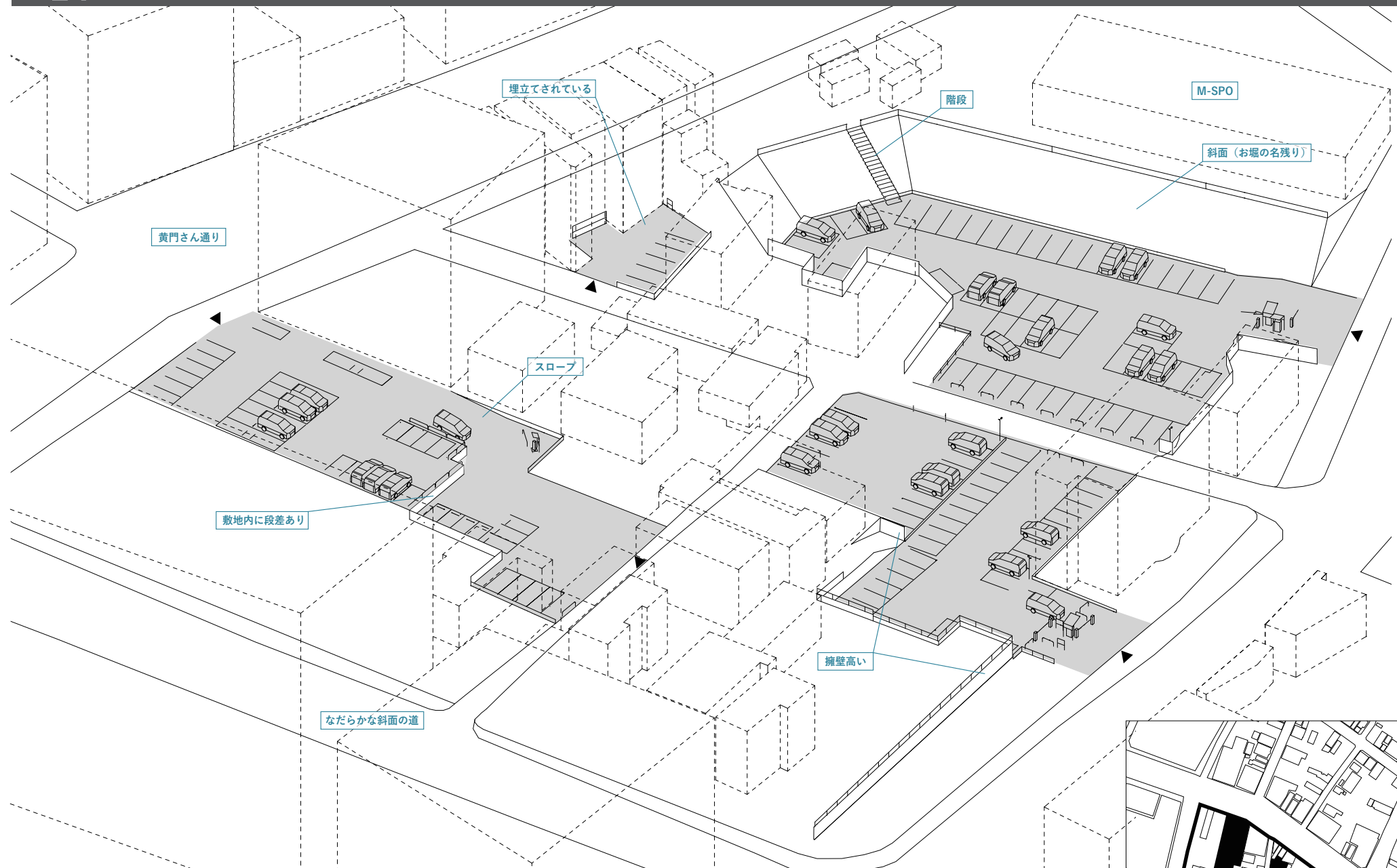
住所=水戸市五軒町

運営方法・舗装=月極(32台)+時間貸(88台)+専用(8台)・アスファルト+砂利

駐車台数=128(7+39+8+8+19+8+11+15+13)台 周辺環境=住商混在

いくつかの駐車場が連なってできる都市スケールの空間例/シンボルタワー展望室、水戸市民会館屋上が鑑賞のベストスポットとなる/フェンスや柵が存在していなかったら回廊のような回遊性生まれる

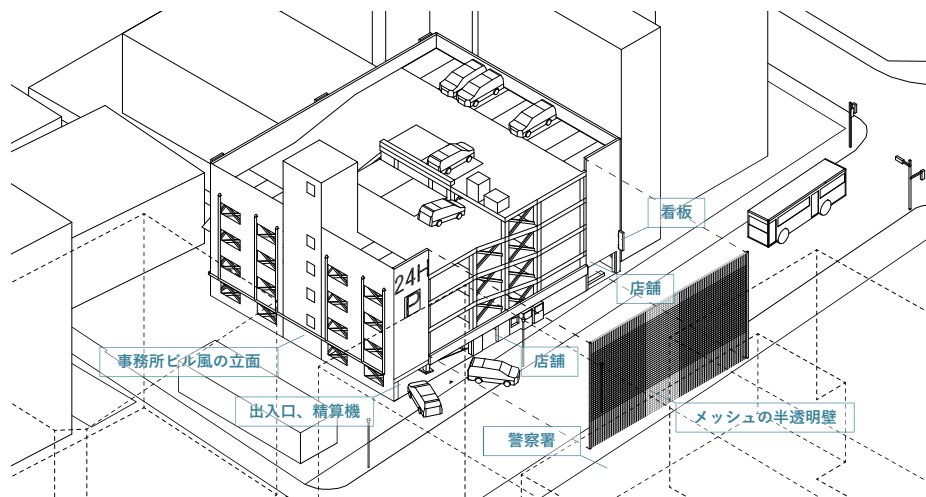
14 お堀発掘



住所＝水戸市南町
 運営方法・舗装＝月極(26台)＋時間貸(129台)・アスファルト
 駐車台数＝計155(42+19+36+51+7)台 周辺環境＝住商混在
 市街地化のために埋め立てられたお堀の形が駐車場の拡大によって現れている／レベル差がお堀の名残りとして見てとれる／地域の歴史が駐車場に現れた事例であり、遺構が現在にも影響を与えている
 ／平坦に整えられがちな都市で地形を活かす良さを教えてくれる



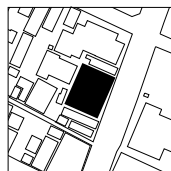
15 ビルモドキ



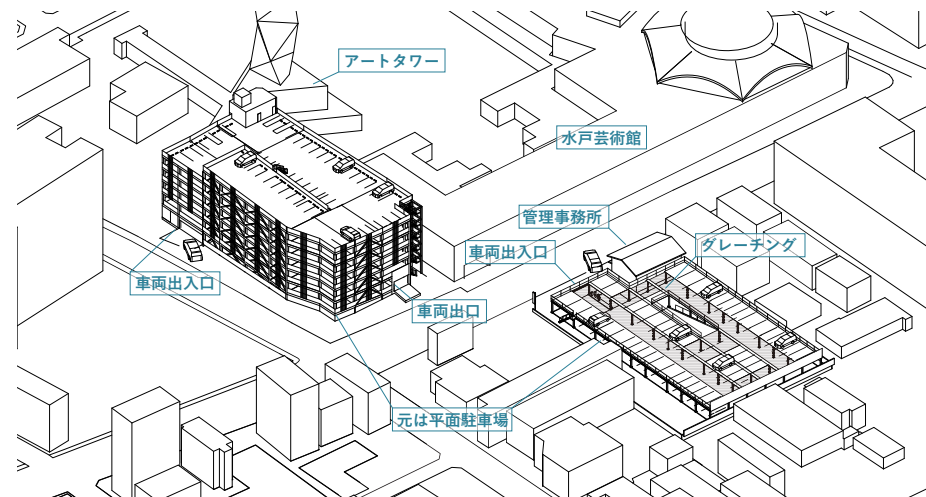
住所=水戸市南町1丁目

運営方法=時間貸 駐車台数=約110台

床タイプ=スキップ式 (5層6段) 周辺環境=オフィス・歴史・文教地区
面によって立面デザインが異なる／道路から駐車車両の存在が見えづらい
／1階に店舗が複合／芸術館通りと国道50号線の間の散策路途中にある／
建替予定



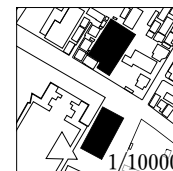
17 立体増量駐(中)



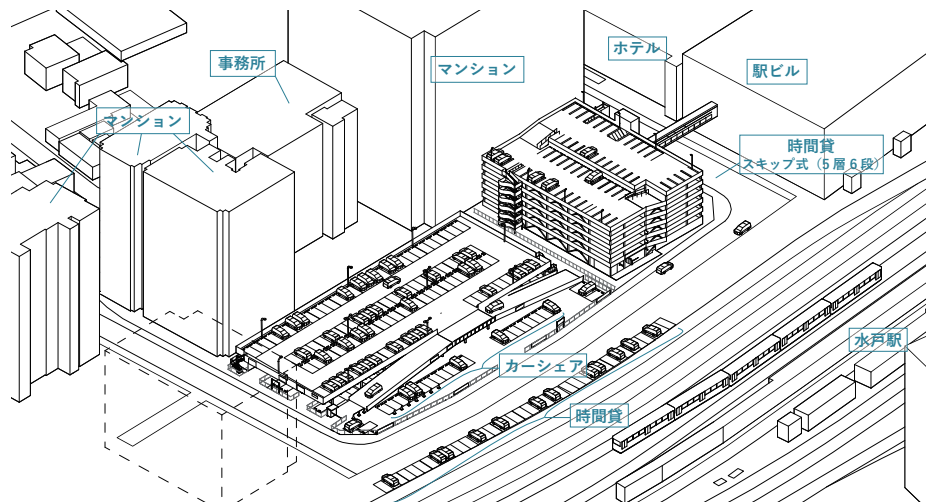
住所=水戸市五軒町

運営方法=時間貸 駐車台数=283台 運営方法=時間貸 駐車台数=134台

床タイプ=連続傾床式 (5層6段) 床タイプ=フラット式 (1層2段)
周辺環境=文化施設、住商混在
元々は平面駐車場、周囲の発展とともに立駐へと成長した／採光に工夫あり／
タワービュー・眺望 ◎／アート感 △



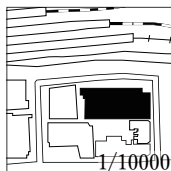
16 レールショア・ドライブパーキング



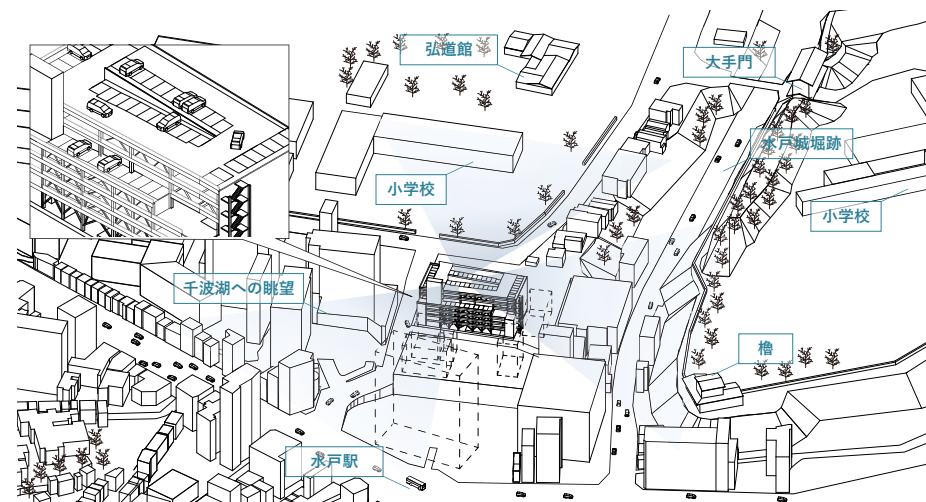
住所=水戸市宮町1丁目

運営方法=カーシェア、時間貸、月極 駐車台数=256台

床タイプ=フラット式 (1層2段) 周辺環境=商業、集合住宅、オフィス駅
と線路沿いに様々なタイプの駐車場がつくられている／近年周囲がマンショ
ン化し、囲われたヴォイドとなっている



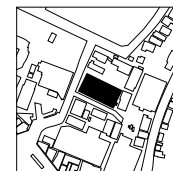
18 三の丸望車楼



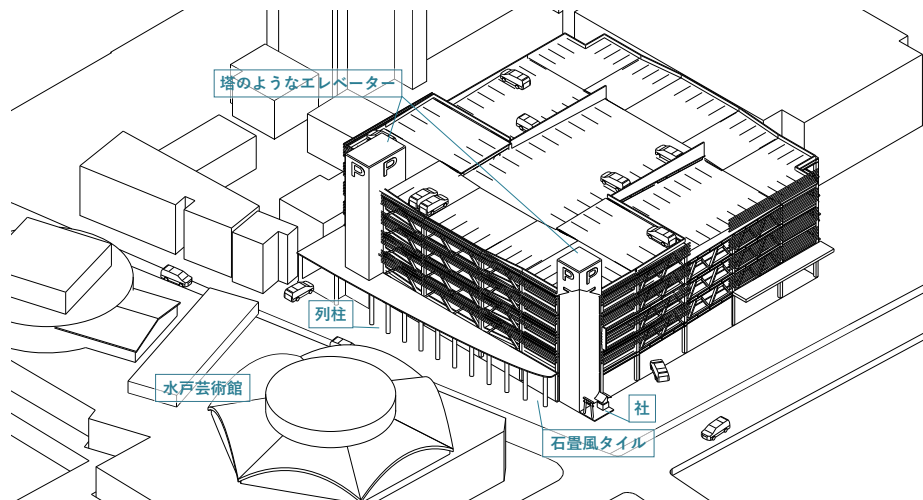
住所=水戸市三の丸1丁目

運営方法=時間貸／月極／カーシェア (17台) 駐車台数=300台

床タイプ=連続傾床式 (7層8段) 周辺環境=歴史・文教地区
弘道館・水戸城跡周辺地区に建ち、歴史遺産や水戸駅など周辺環境が多様
／1階に店舗や事務所が複合／面によって立面デザインが異なる／セット
バックによりテラスのような場所がある／眺望○



19 ポストモダン風

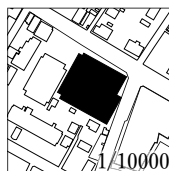


住所=水戸市五軒町2丁目

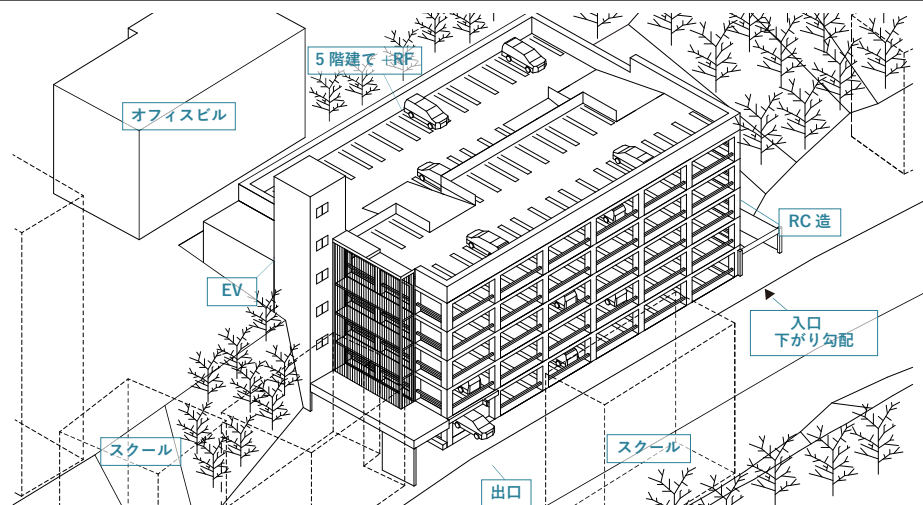
運営方法=時間貸 駐車台数=520台

床タイプ=連続傾床式(4層5段) 周辺環境=水戸芸術館

水戸芸術館に面する1階部分はテナントが入っており、ポストモダン建築のような列柱が並ぶ／ロットや車路が広くつくられており、ゆったり駐車が可能／2面接道により建物の存在感あり



20 水戸谷の窟

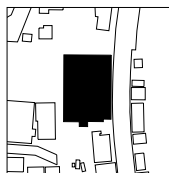


住所=水戸三の丸1丁目

運営方法=時間貸(107台)+月極(93台) 駐車台数=200台

床タイプ=スキップ式(5層6段) 周辺環境=商業施設

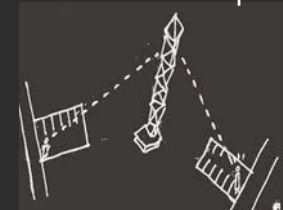
洞窟のような薄暗さが特徴的／樹木に囲われたダンジョンのような雰囲気を持つ／堀割の崖際に建てられており、擁壁を兼ねる／駅に近く、周辺にスクールが多い



パーキングプロジェクト

「車と人のための場所」としての駐車場の供用化をテーマに、リサーチを通して見られた、平面駐車場を特徴づける要素や関係【パーキングロット】【パーク】【境界】【つながり】に着目した4つの提案と、立体駐車場の〈距離〉〈フレキシビリティ〉〈複合〉〈スケール〉〈しつらえ〉といった建築的な特徴に着目した6つの提案を作成した。

Art Tower Script



水戸芸術館タワーへの眺望や、駐車場が隣接し通り抜けとなるといった【つながり】に着目。駐車場を巡る新たな都市空間体験の提案。

Park and flow



隣接する他の敷地や街路との【境界】のあり方を考えた、これからの都市の交通系インフラの一つとしてのモビリティハブの提案。

Park & Camp



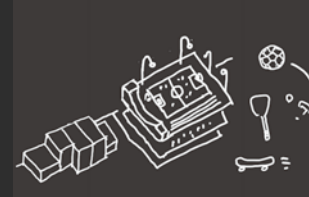
一台一台の車を停める単位となる【パーキングロット】の使い方や配置について検討。人が集い、憩う場所となる駐車場の提案。

Park and Park



周囲を建物で囲まれた中庭【パーク】のような駐車場が形づくられていることに着目。周辺の建物と新たな関係をなす駐車場の提案。

Park on Park



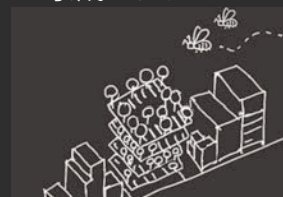
巨大な「スケール」の屋上に着目し、様々なアーバンスポーツにより人々がつながる場所となる、空中の原っぱのような立体駐車場の提案。

multi STOREy



半内部空間・時間貸しという〈フレキシビリティ〉に着目。日常のくつろぎのテラスとともにトランク・マーケットやドライブスルーなど、マーケットイベントの場を提案。

京成スクランブル



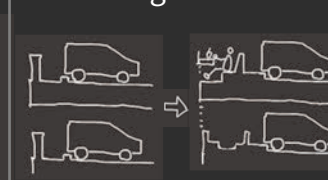
広い床面が積層されるといった〈スケール〉を活かし、森のように人・モノ・動植物の結節点として都市の環境装置となる立体駐車場の提案。

アートを停める



水戸芸術館に隣接する立体駐車場にアートの展示空間を〈複合〉する提案。芸術館の展示フロアから連続した動線を組み込むことで車に乗るまでアートが楽しめる。

Parking Furniture



車止めや防護柵といった本来車のための〈しつらえ〉を人が使える家具として検討。日常の休憩場所やイベントスペースとして使用できる立体駐車場の提案。

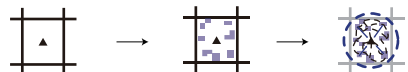
しかけの歩ほえみ



車を停めてから外に出るまでの〈距離〉に着目。長い道のりを立体的な散歩道と捉え、途中に活動やくつろぎの場所を備えた立体駐車場の提案。

Art Tower Script

水戸市の中心市街地の50号を中心とした線状都市に対し、街区に散乱する駐車場（空地）をつなげることで、人々の散策路を形成し、面状に広がる都市を構築することを目指した。その手法として、既存の駐車場のスクリプト（過去の経験に基づいて日常的な行動を規定する認知心理学上の概念）を新たに水戸芸術館のアートタワーと関連付けて書き換え、駐車場同士のつながりを創ることを考えた。

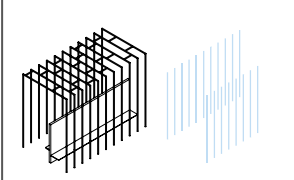


水戸芸中心の線状都市から散策路による面状都市へ

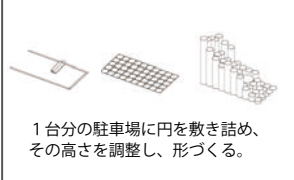
Script1：視線でつなく「タワーを見る⇄タワーから見る」

駐車場が増えたことによる視線の抜けを利用し、アートタワーがみえる駐車場に芸術館と関係するようなフォーリーを設計することで、駐車場に水戸芸術館と視覚的なつながりをもつスクリプトを創出する。

1 エントランスホールの列柱

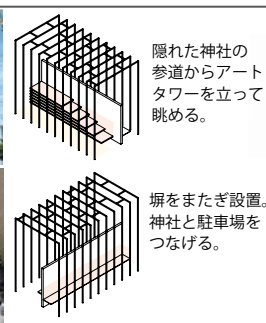


3 円形劇場の要素より円を抽出



1台分の駐車場に円を敷き詰め、その高さを調整し、形つくる。

Script1-1 参道フォーリー



Script1-2 丸太劇場

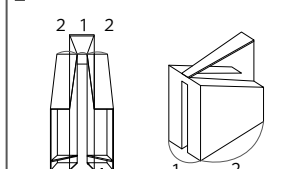


水戸芸四景の発見

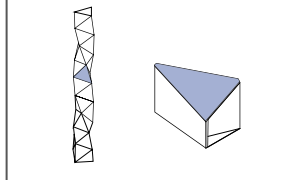


回廊の発見

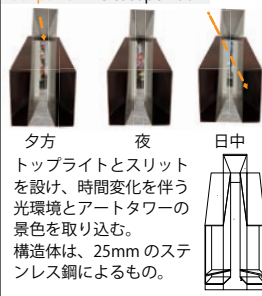
2 1:2の長方形による展示室



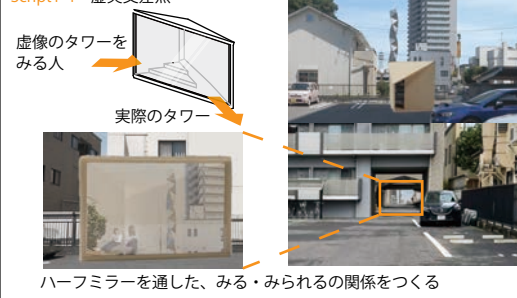
4 三角形を用いたシンボルタワー



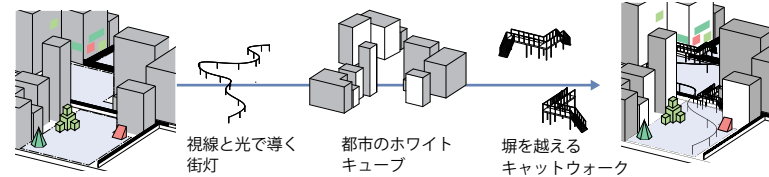
Script1-3 Telescope Room



Script1-4 虚実交差点

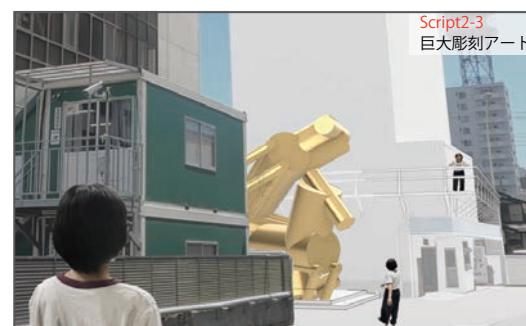
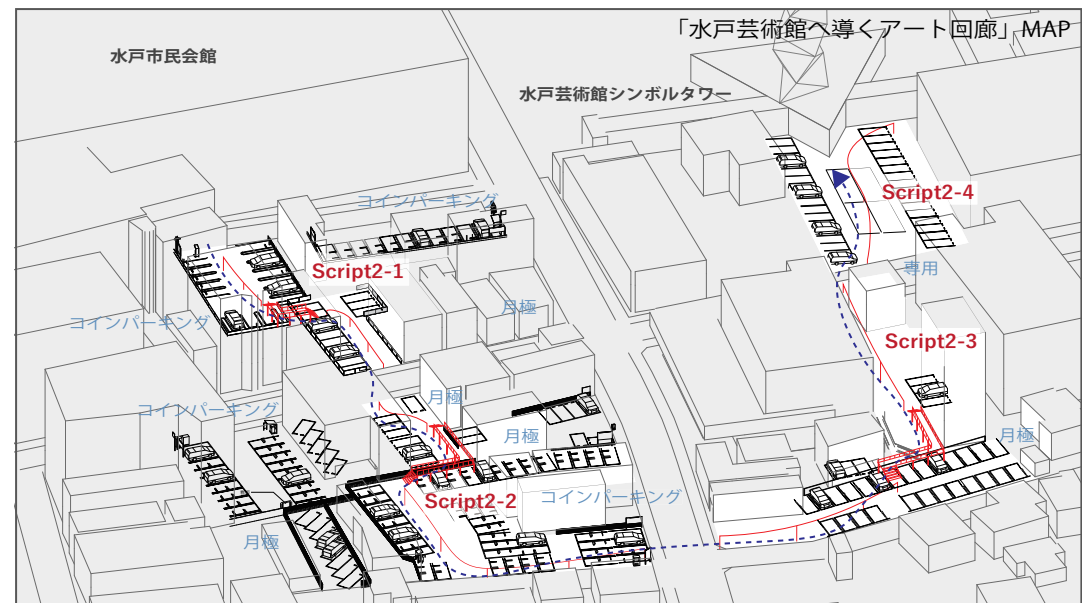


Script2：動線でつなく「水戸芸術館へ導くアート回廊」



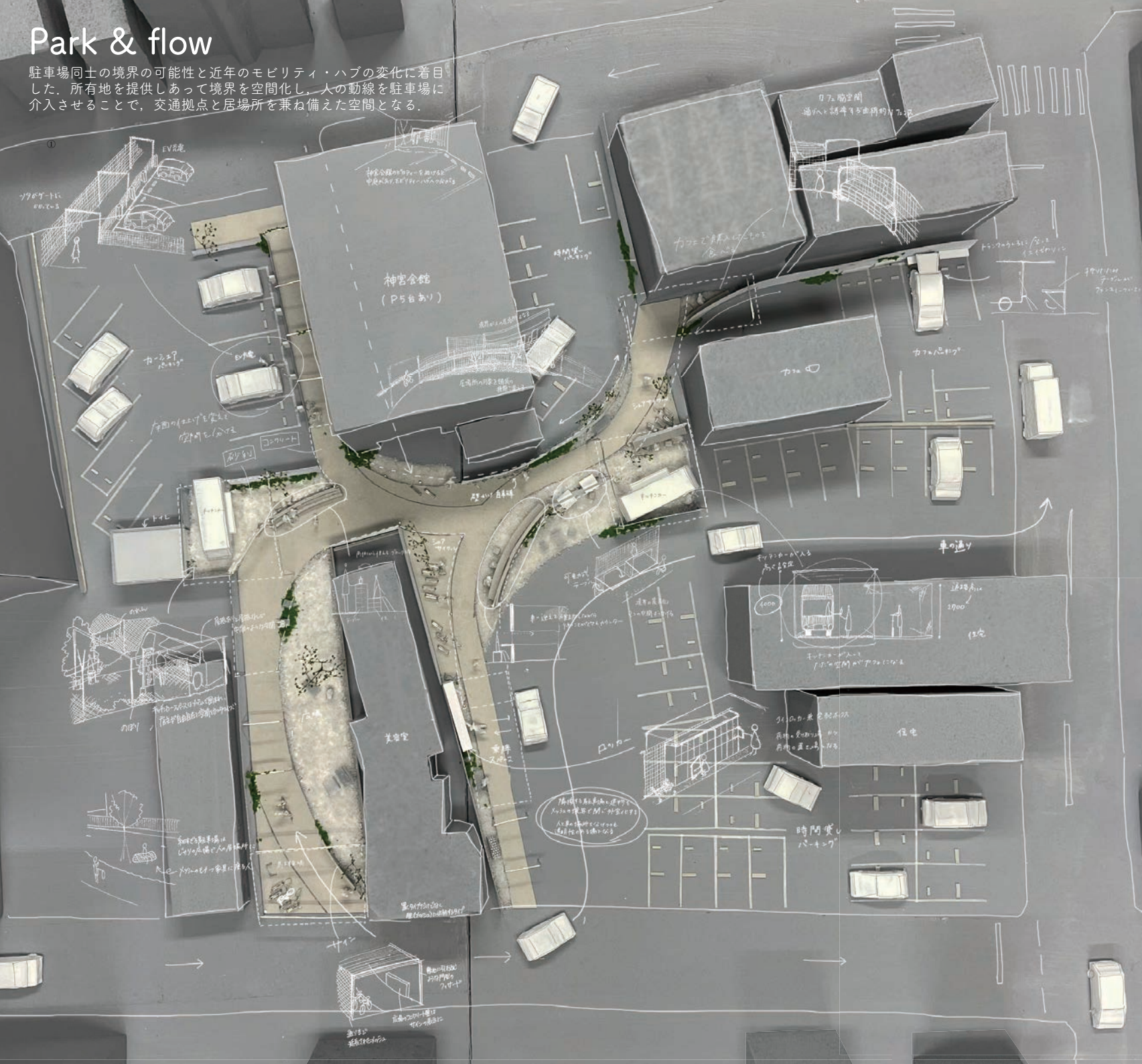
水戸芸術館と水戸市民会館を結ぶ駐車場の連なりを対象に、アートに触れる場をつくることで芸術館へ誘うアート回廊を設計し、水戸芸術館の作品展示に導くスクリプトを創出する。

隣接する駐車場の境界部には、フェンスや段差を克服するようなオブジェクトを配置し、駐車場間に散策路をつくる。



駐車場同士の境界の可能性と近年のモビリティ・ハブの変化に着目した。所有地を提供しあって境界を空間化し、人の動線を駐車場に介入させることで、交通拠点と居場所を兼ね備えた空間となる。

駐車場同士の境界の可能性と近年のモビリティ・ハブの変化に着目した。所有地を提供しあって境界を空間化し、人の動線を駐車場に介入させることで、交通拠点と居場所を兼ね備えた空間となる。



駐車場と駐車場の境界の操作により空間化し、駐車空間に人の居場所とモビリティ・ハブの機能を付加する。



①空間の拡張



②通り抜け



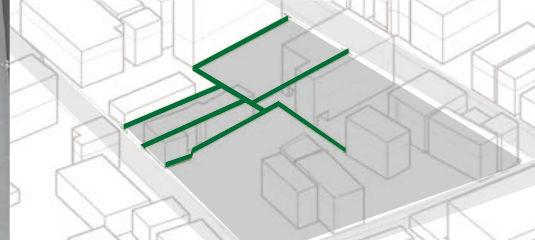
③滞在空間への転用

〈モビリティ・ハブ〉

様々なマイクロモビリティやシェアカーのポート、充電ステーションなどを集約させた交通拠点。

1. 現在：「境界」による駐車場の断絶

敷地所有者が異なり複数の駐車場が分断。駐車機能のみ備わる。



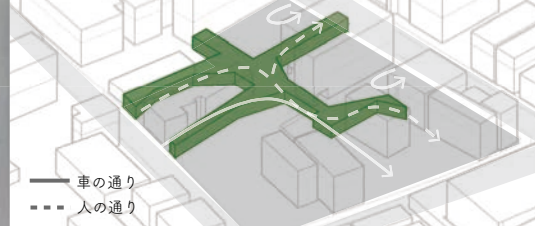
〈駐車台数〉



時間貸 / 月極 / 専用：94

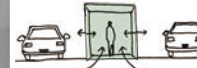
2. 提案：敷地の提供による「境界」の空間化

敷地所有者の敷地の提供により境界が空間化し、パブリックスペースとなる。シェアモビリティの普及・自動運転化により駐車台数 30% 減。



— 車の通り
... 人の通り

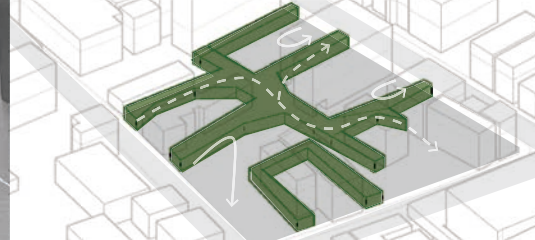
〈駐車台数〉



時間貸 / 専用 : 41 駐輪場 : 6
カーシェア : 10 シェアサイクル : 22

3. 提案：周辺に拡張される「境界」の空間化

更に駐車台数は減少し、パブリックスペースが拡張、交通手段が変化し、様々なモビリティに対応した交通拠点の需要が高まる。



駐車場の境界が

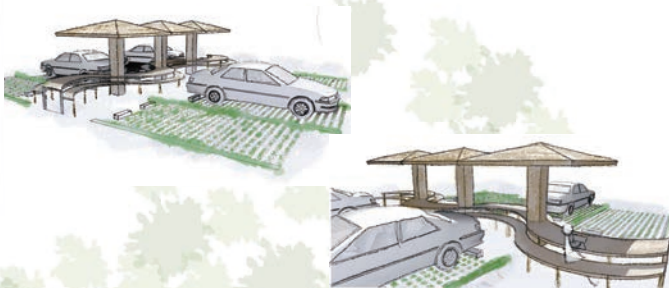
モビリティ・ハブ=交通拠点
パブリックスペース=人の居場所 に変化する

Park & CAMP

水戸の芸術館通りに接する駐車を対象に、様々なアクティビティが「集まる」駐車空間をつくる

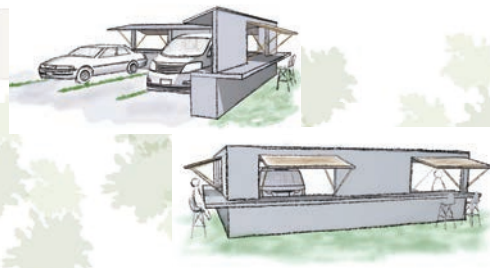
ワーキングロット

ちょっとしたスキマ時間に、自由かつ気軽にデスクワークができる



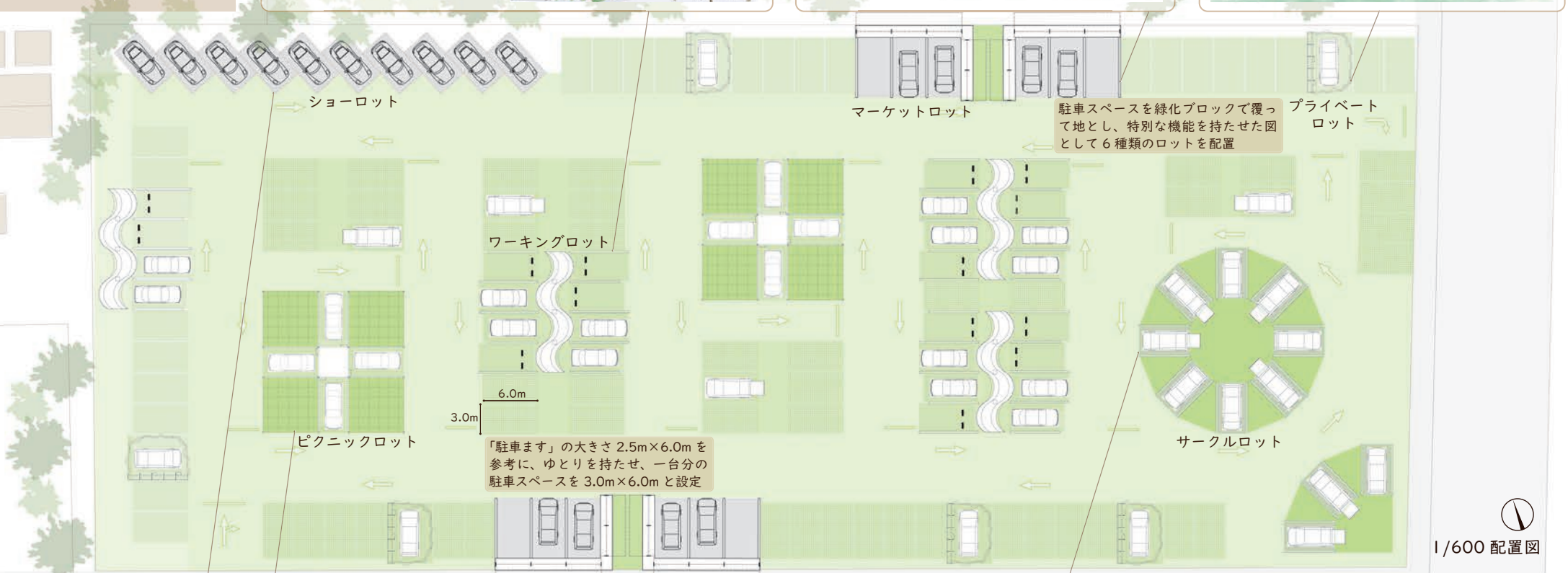
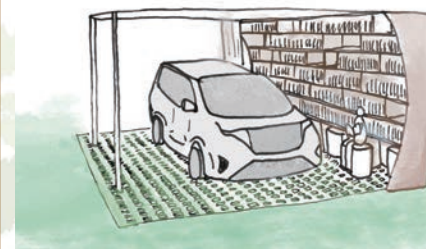
マーケットロット

歩行者が気軽に立ち寄れるマーケット空間となる



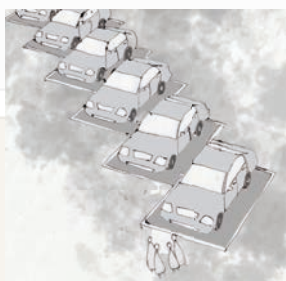
プライベートロット

本棚とカーテンにより緩やかな境界をつくる



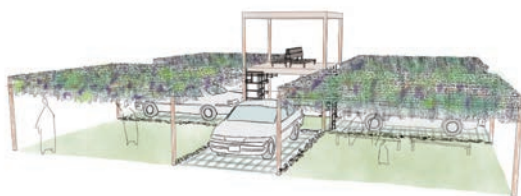
ショーロット

車好きの集まる空間となる



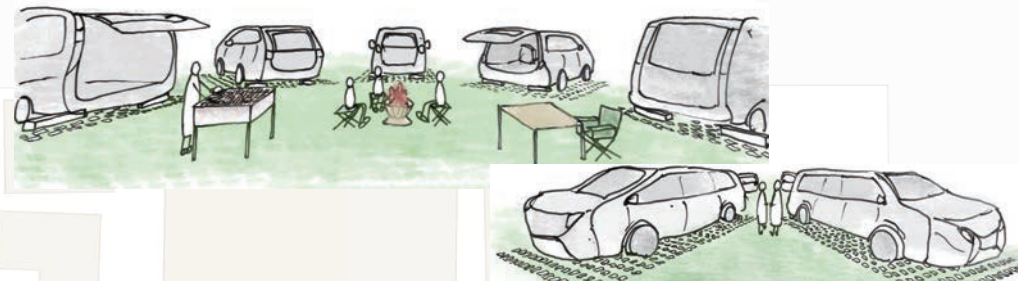
ピクニックロット

ブドウ狩りの体験、木陰でのピクニックをすることができる



サークルロット

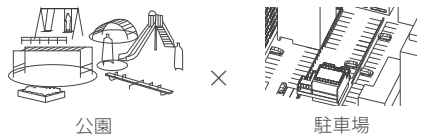
円状に駐車することで、円の中心で交流空間が生まれる



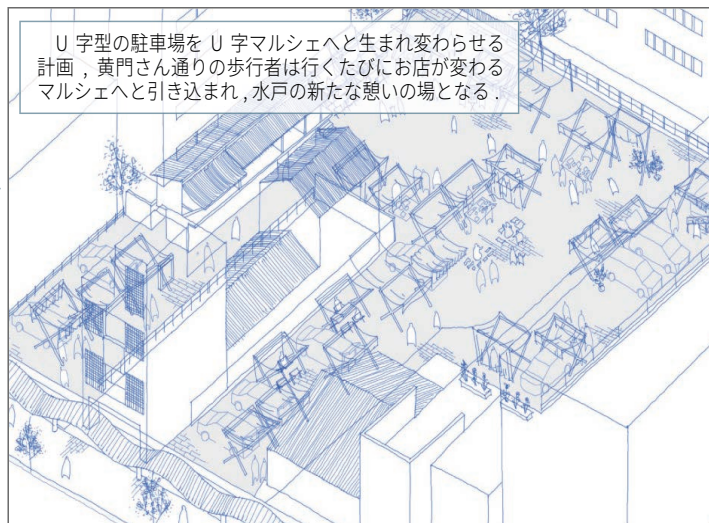
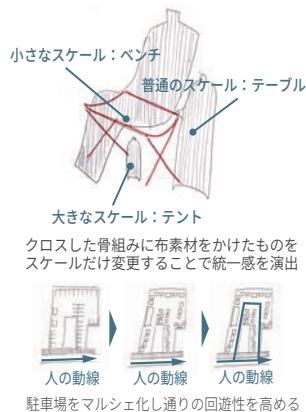
Park and Park

01 駐車場 (Park) × 公園 (Park)

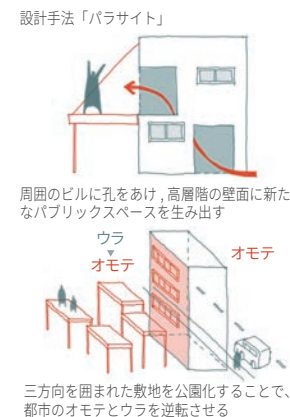
公園という機能を駐車場に付与することで、駐車場が単なる人々の集う広場に生まれ変わる。時間や曜日によって用途が切り替わり、都市に開かれたパークとして新たなシーンを創出することを目指した。



Park and Marche

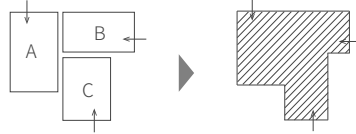


Park and Garden



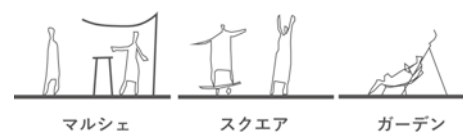
02 駐車場のまとめ

空洞化した市街地には、いくつかの駐車場が繋がっているのを見られる。それらの境界部を取り除き、1つの空地に見立てることで、新たなスケールや平面形状が浮かび上がってくる。

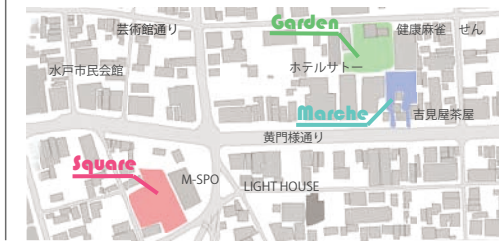


03 都市における3つの公園の機能

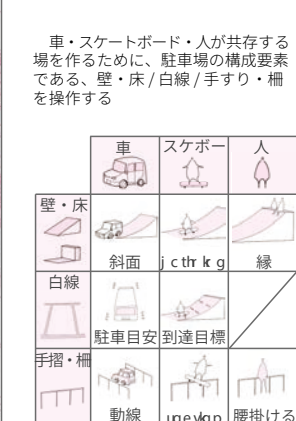
公園の3つの使われ方として市場 / 遊び / くつろぎがあるのではないだろうか。それらを行える場所としてマルシェ / スクエア (スケボー広場) / ガーデン (都市の中庭) を提案する。



04 敷地



Park and Square



“歴史を踏まえたまちづくり”を考える

地域の「歴史」をまちづくりに活かすという視点は重要である。特に城下町由来の都市では城の再現などが積極的に行われているが、こうした事例を見ていると、フォーカスが当たる時代の多くが、人気の高い江戸時代や戦国時代であることに気づく。

水戸の場合はどうだろうか。水戸の歴史といえば「水戸黄門様」こと徳川光圀公と、幕末の徳川斉昭公だろう。近年再現された新たなまちのシンボル、水戸城大手門や二の丸角櫓を見ても、やはり江戸時代が大きなウェイトを占めていることが伺える。

一方で見過ごされがちなのが、近代化時代（明治・大正）の歴史である。水戸の歴史が語られるとき、明治維新の後は水戸空襲や戦後にまで話が飛んでしまうことも多い。しかしその間には、大きな転換期に際し先人が知恵を絞って都市の未来を描いたダイナミックな時代があったのだ。水戸で

は、上市大火（明治 19）をきっかけとした、安田定則知事による市区改正（明治 20）が特徴的な出来事である。この市区改正では、道路を拡幅し、外堀を埋め立て、新道を開通した。このとき設けられた新道は、先日水戸市民会館がオープンした「MitoriO」地区周辺の道である。当時なされた区割りが、今回調査された駐車場の空間的特徴の下地になったとも言えるかもしれない。近代化時代のまちづくりは、現代の都市にも繋がっているのだ。

歴史を踏まえたまちづくりを考えると、私はこうした歴史にも注目したい、と思う。



平戸 正英（ひらとまさひで）

1982年水戸市生まれ。水戸市役所で働きつつ様々なまちづくり活動に関わる。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修了（都市デザイン研究室）

未来のモビリティと駐車場

世界を見渡せば、すでに自動運転ロボットタクシーが街中の公道でサービスを開始している。自動運転の普及は意外と近い未来なのかもしれない。車は1日の中で95%は動いていないと言われるが、自動運転車やシェアリングが普及すると駐車需要は激減する可能性が高い。目的地で降りたら、無人で自宅にマイカーを戻す人も出てくる。一方で、駐車需要は減るが、回送のために走行距離が増えて、道路は混雑し、乗り降りのための路上駐停車がそこから中で発生する懸念もある。また、車に過度に依存した地方都市でも高齢化や価値観の変化で車を持たない、持てない人が増加している。自動運転が新たなモビリティサービスを安価で提供できればよいが、持続可能で魅力的な都市を作り出すためには、車（自動運転を含む）だけに依存しない、様々なモビリティオプションをシームレスにつなぐサービスが不可欠である。そこには徒歩や



平田 輝満（ひらたてるみつ）

茨城大学都市システム工学領域教授。専門は交通工学・都市計画。2005年博士（工学）取得後、運輸政策研究機構を経て、2013年から茨城大学に勤務。

Park on Park

既存の駐車場としての機能に加え、水戸のモビリティハブとなるような交通機能を設け、子どもから若者、高齢者まで、幅広い年代の運動をサポートするような立体駐車場と公園の併用化を目指す

■コンセプト

水戸の新たなランドマークパーキング

駐車場

スポーツパーク

■利用イメージ図



モビリティハブ



屋上公園

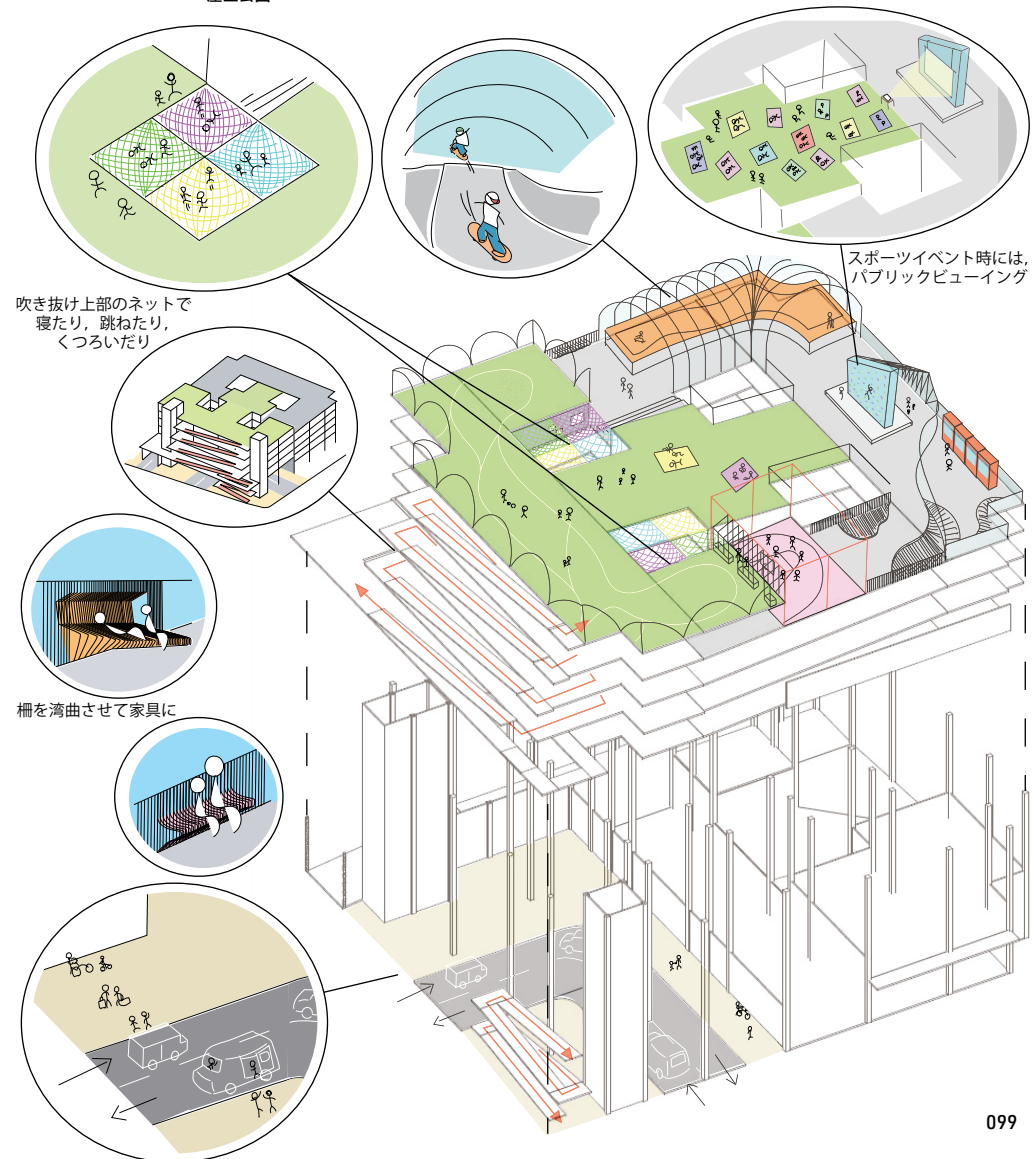
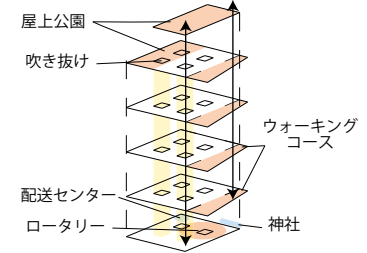


アーバンスポーツパーク



ウォーキングコース

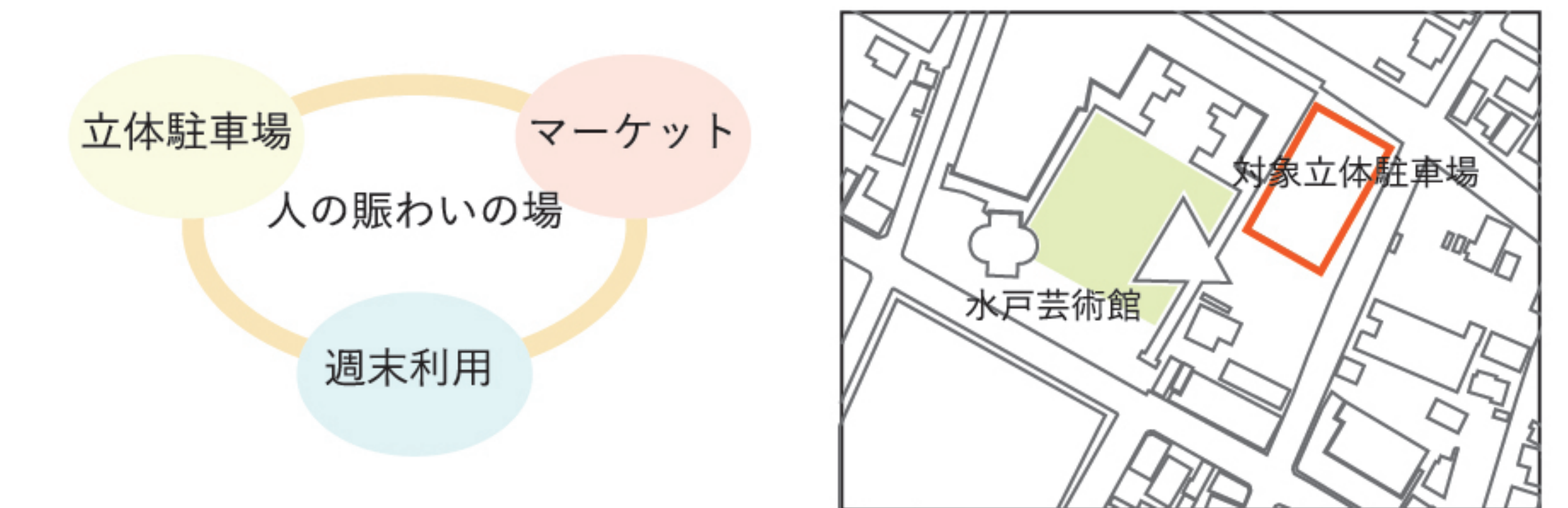
■ダイアグラム



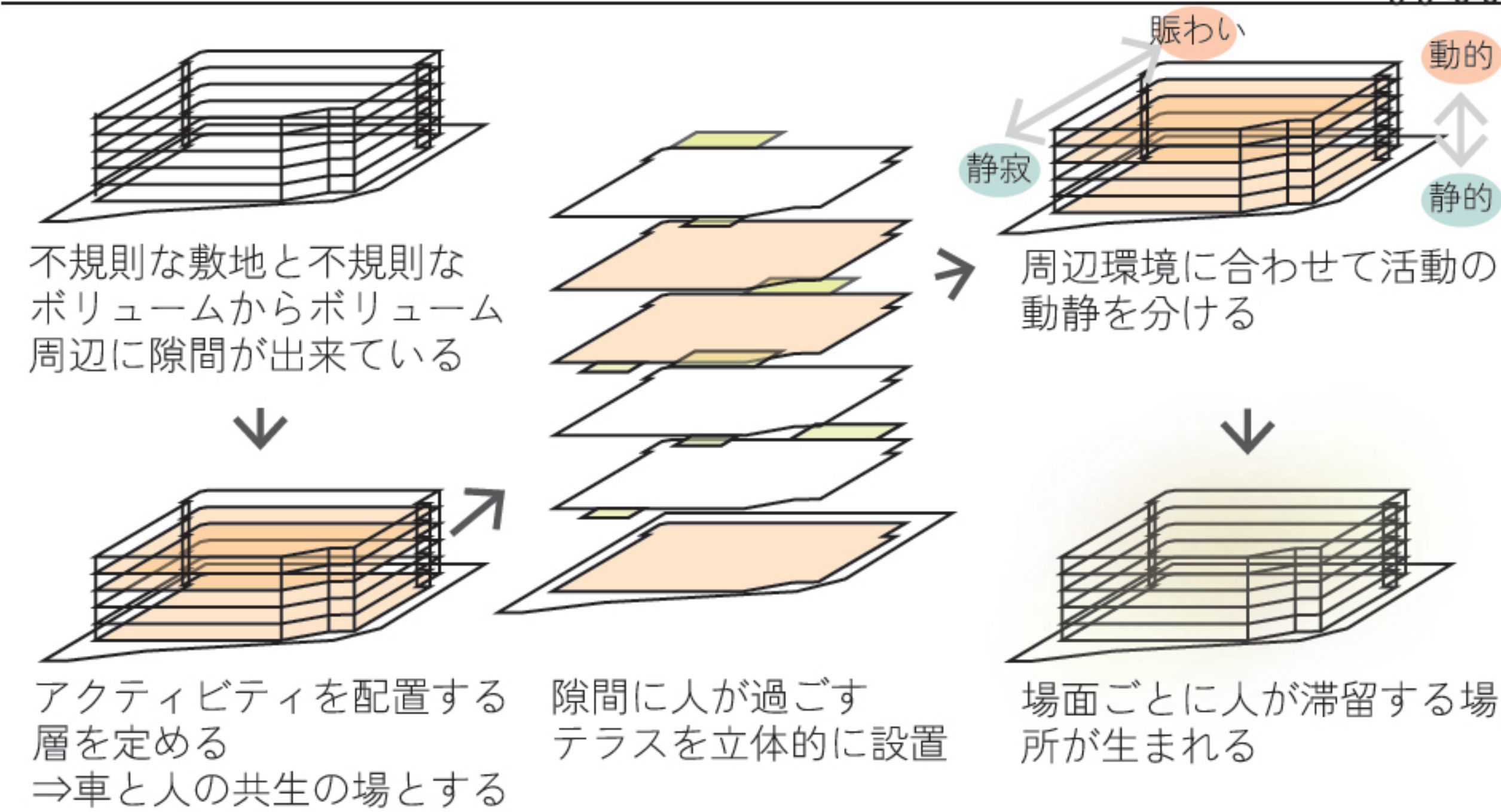
multi STOREy ～パーキングマーケット～

01 現状

五軒町立体駐車場は市営であり、他の駐車場よりも料金も高いことから水戸市民会館でイベントがある時以外は平日はおろか土日もほとんど利用がないという現状がある。水戸芸術館の広場は平日でも学校帰りの小学生や親子など多くの人で賑わっており、その立地を利用し立体駐車場と週末利用のマーケットを掛け合わせた人が滞在可能なスペースを提案する。



02 ダイアグラム



03 マーケットと車

階層によって車の使われ方が変化する。

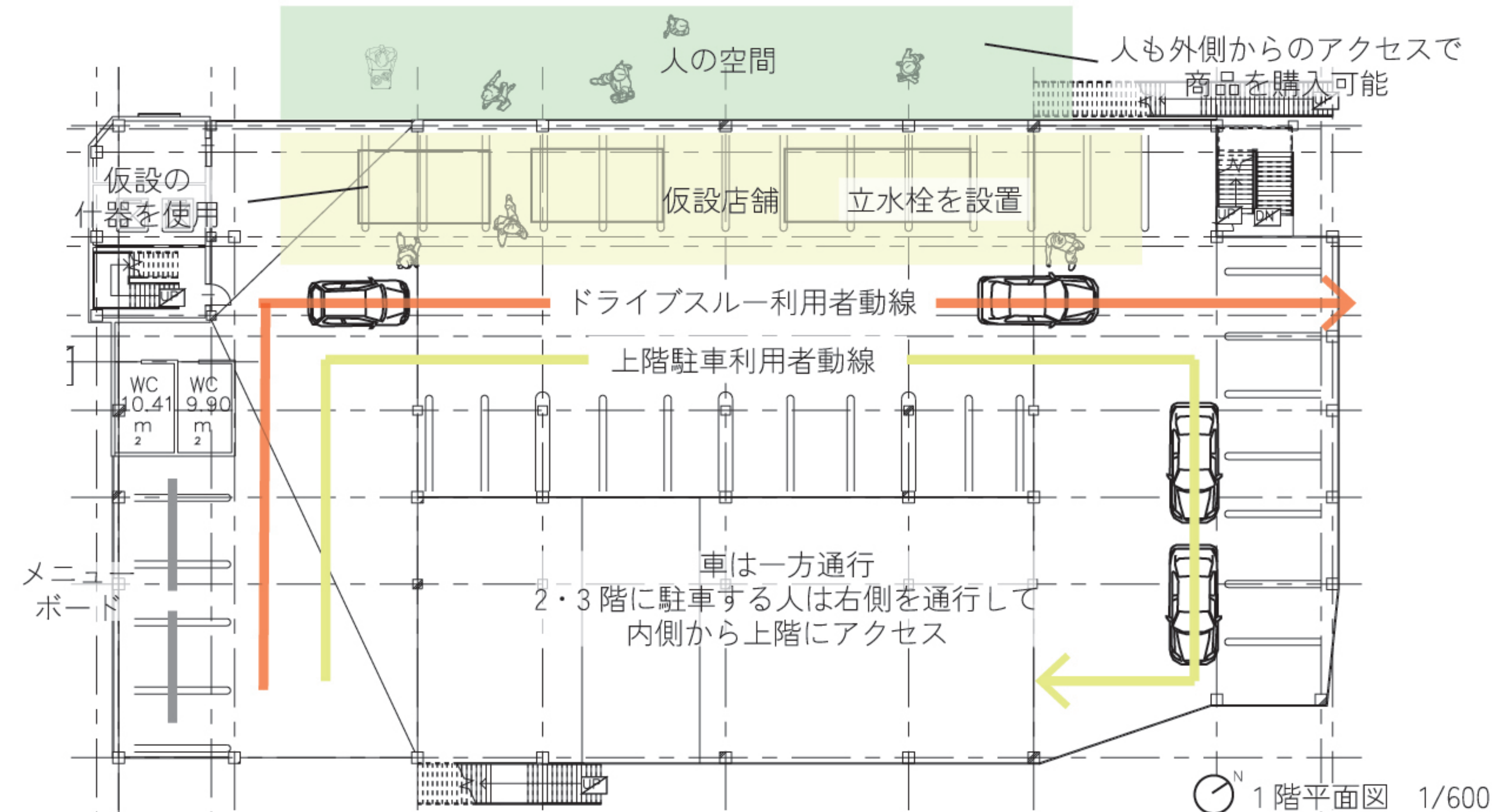
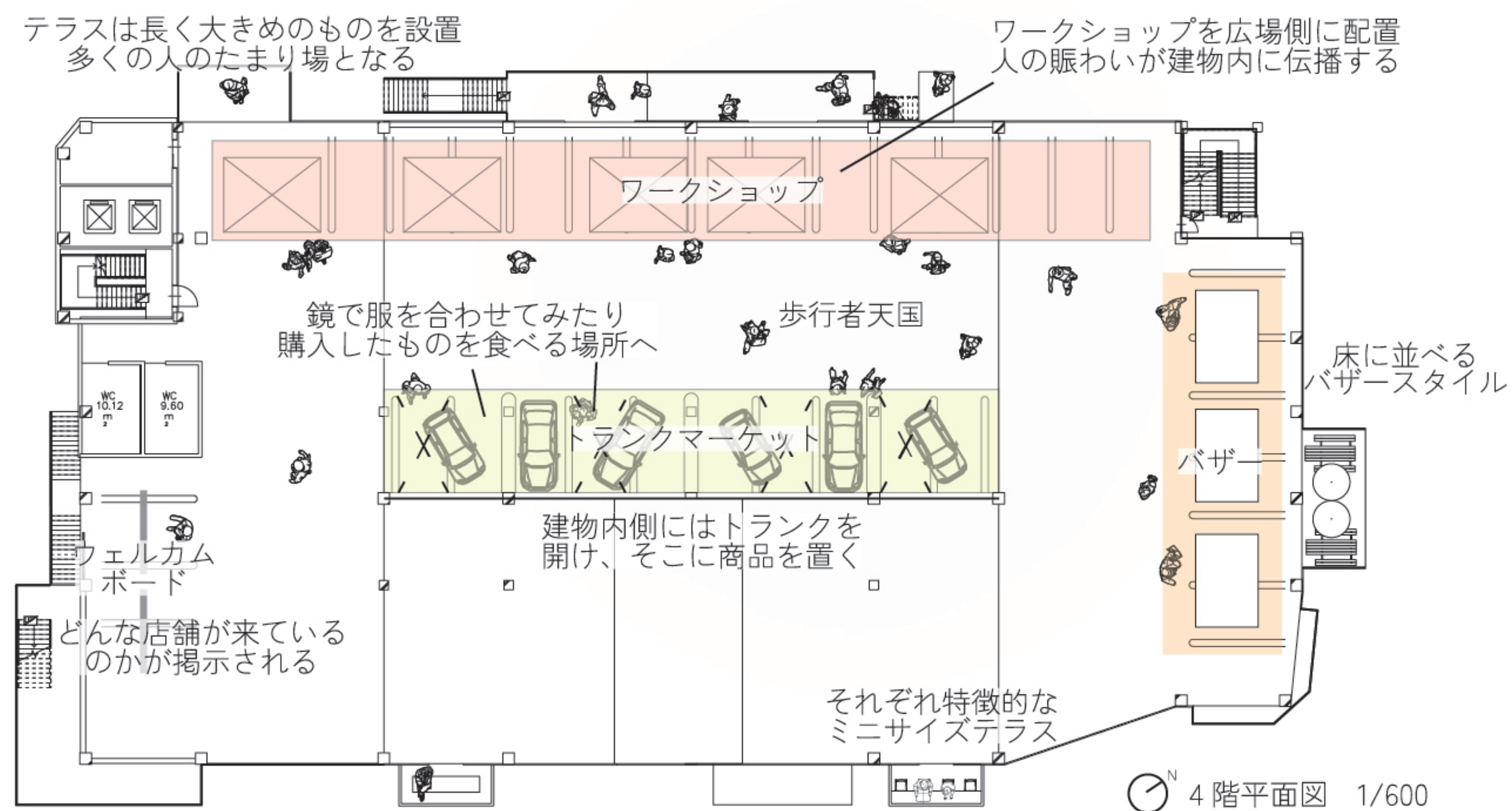
1階では駐車場内に仮設飲食店舗が置かれたドライブスルーマーケット

2・3階は通常通りの駐車場の機能を果たす。

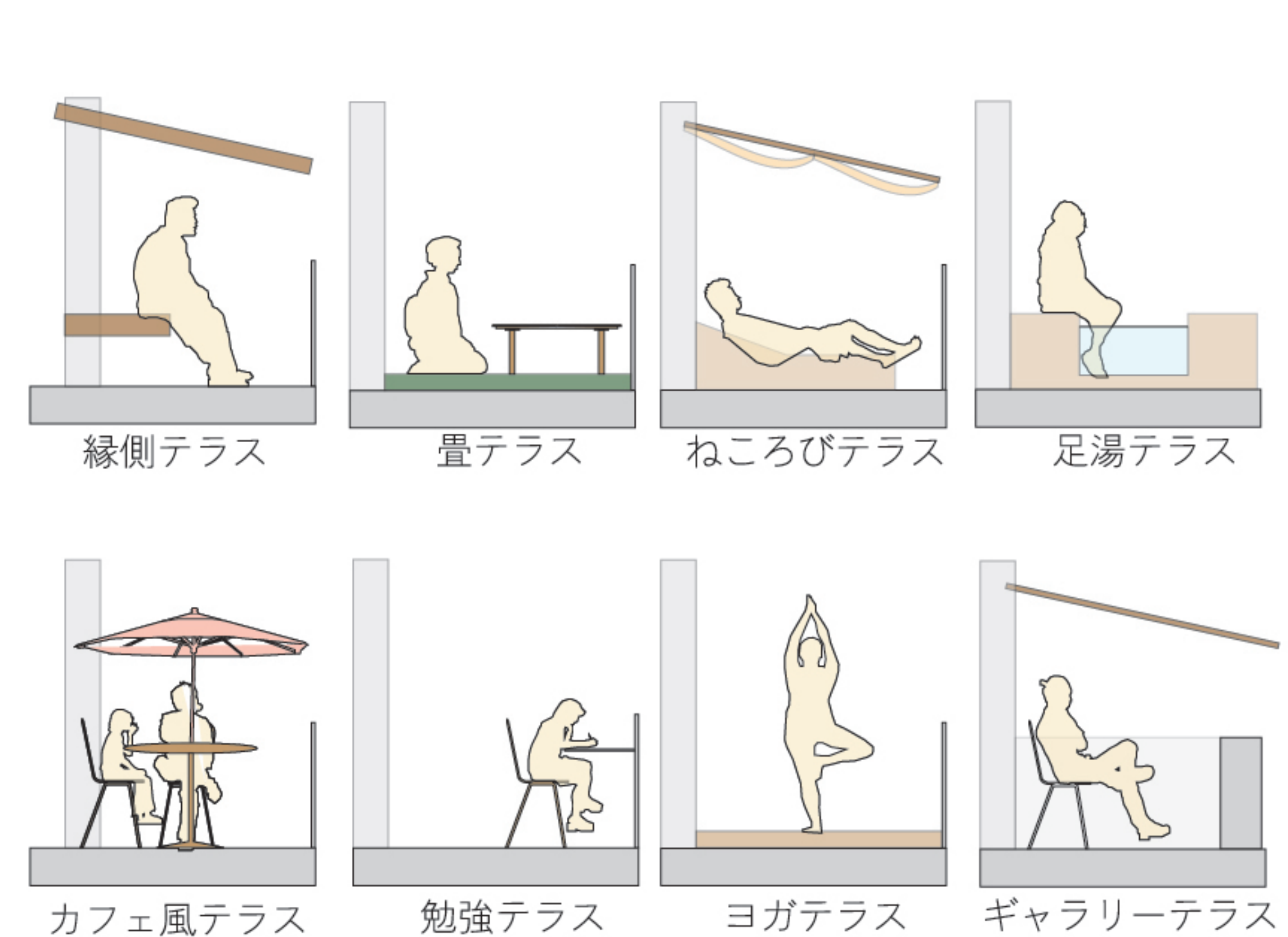
4・5階では売り手側が車のトランクを用いたトランクマーケット



04 平面計画



ミニテラスの使い方

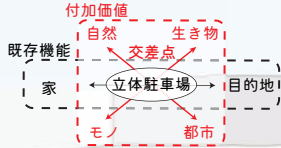


京成スクランブル

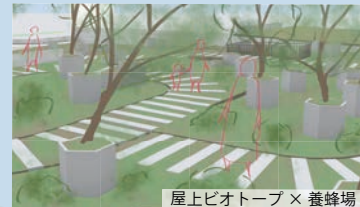
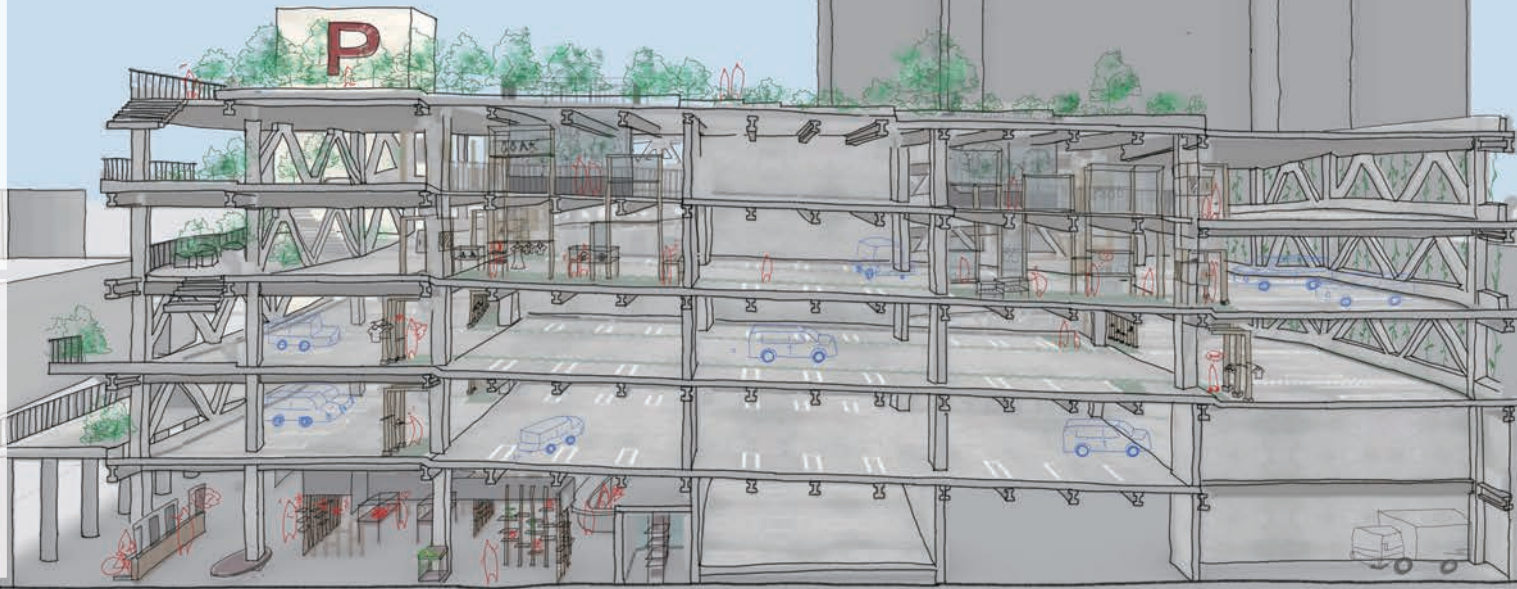
～モノと生き物の交差点～

CONCEPT

立体駐車場は利用者の多くが、駐車することの他に買い物などの主目的を持つ。この「中継地点」としての側面に着目し、生物・人・モノの中継地点として、それぞれが交差することで空間に付加価値を与えることを考える。



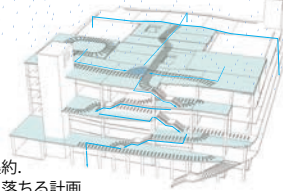
SITE



都市と生き物の交差点

都市の保水性

都市部の洪水の原因：保水性の低下
 →建物に保水性を持たせることで解決。
 →屋上と東面に土壌と植物を取り入れる
 →都市の保水性を回復

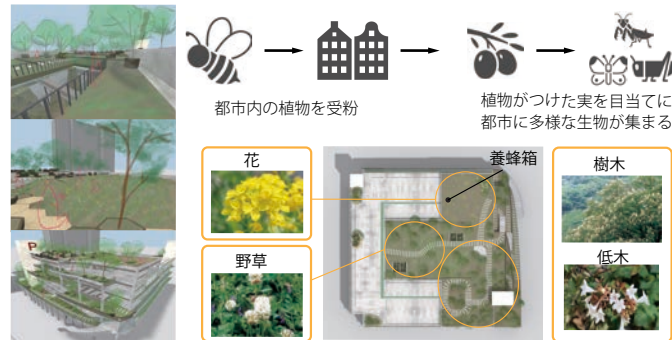


雨水の利用計画

屋上を雨水庭園として整備。雨水は東面に大部分を集約。人の導線に沿って東面の各階に設けた雨水庭園を流れ落ちる計画。

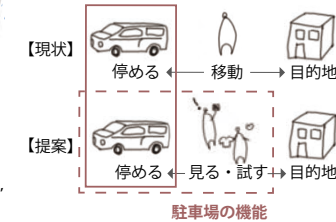
ミツバチを中心とした生物多様性

屋上に養蜂箱を設置し都市にミツバチを呼び込む。ミツバチが生き可能な環境を整えることで、その他の生物もこの場所を中継地として都市に広がる。

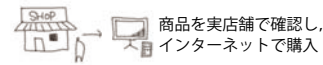


人とモノの交差点

“モノとの出会い”を挿入し、人とモノが交差する

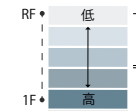


ショールーミング



- ①歩行者ルートの設定（緑の舗装）
- ②ルートの一部にショーケースを設置
- ③駐車ニーズによって階層ごとに変化をつける

【駐車ニーズ】



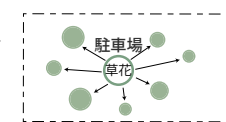
【操作】

- ・ロットの連結
- ・吹抜でショーケースを照らす
- ・柱/ブレース周りを活用し駐車台数を維持

モノと生き物の交差点

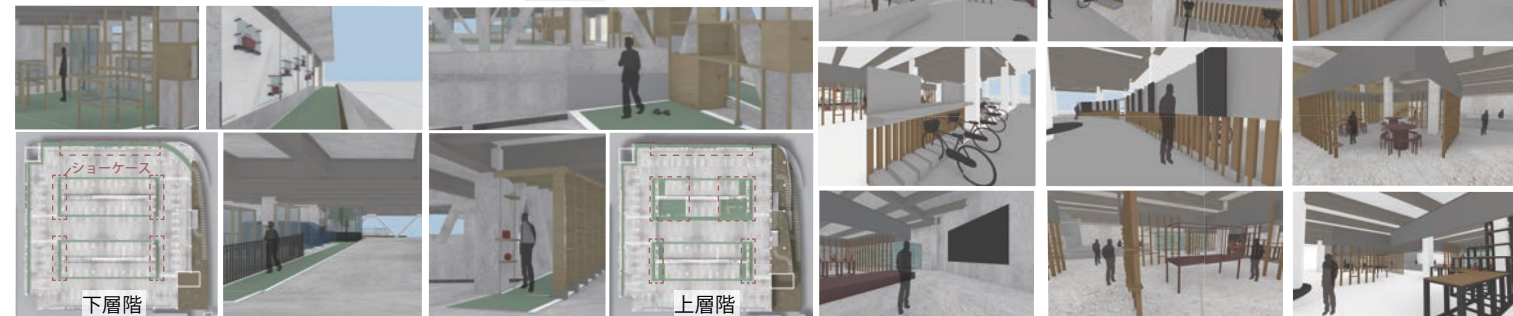
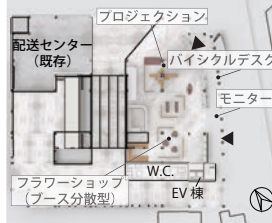
植物の交差点

育てた植物をフラワーショップで販売、立駐から住民と緑が「交差」する

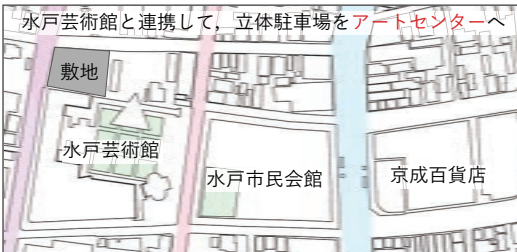


ヒトの交差点

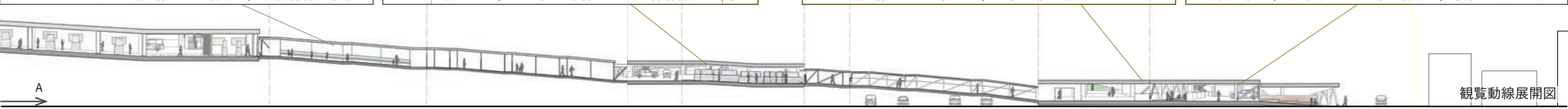
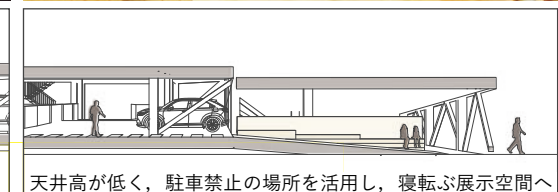
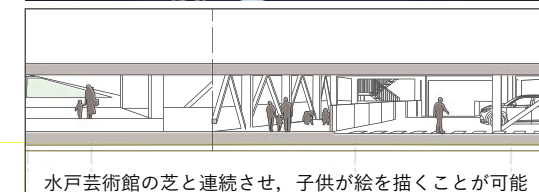
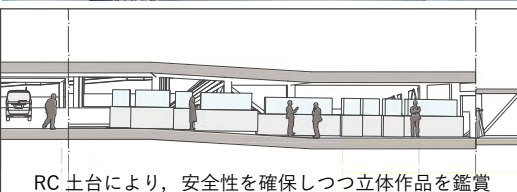
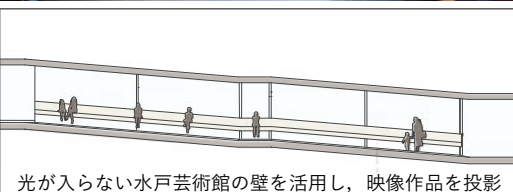
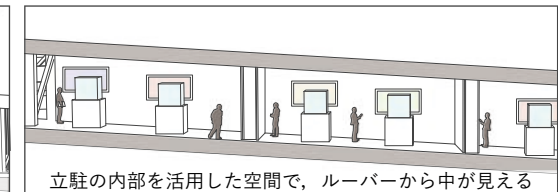
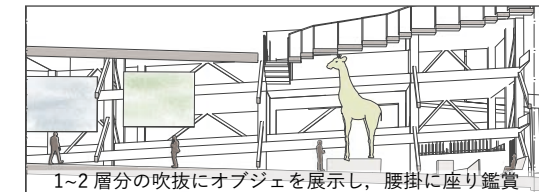
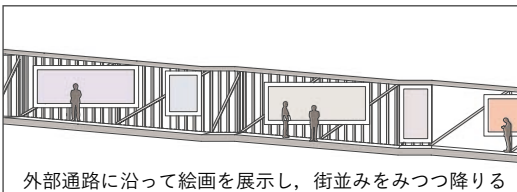
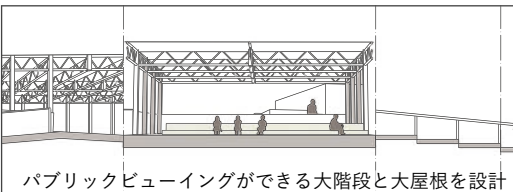
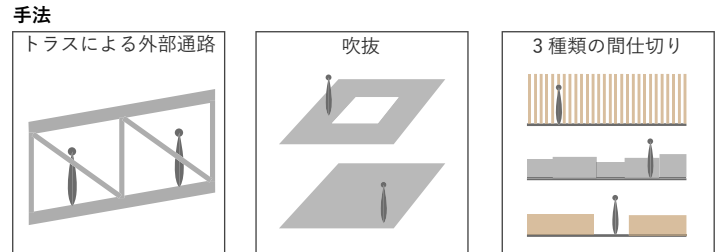
観光情報発信所やシェアサイクルの休憩所になって、人の移動が「交差」する



アートを停める - 駐車場の展示室化計画 -



設計
 人のための**観覧動線**を立体駐車場の内外に生み出し、人の動きをファサードに出させることで、「第4の文化施設」を計画した。
3つの手法を用いて、性質の異なる**8つの展示空間**を提案した。観覧車は、展示空間をめぐるながら立体駐車場を降りていく。



Parking

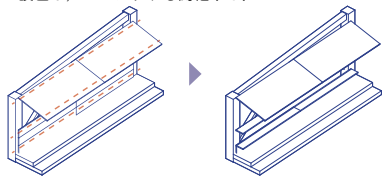


Furniture

水戸芸術館に隣接した立体駐車場を対象に
可動式の家具を設けることで駐車場の機能を
保ちつつ人の居場所をつくる

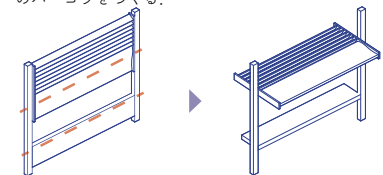
ベンチ × ショップ × 展示

駐車ロットを外部に開くように可動式の底と棚を
設置し、マーケットを開催する。



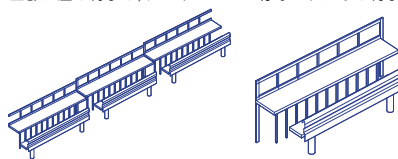
ライトシェルフ × パーゴラ

ライトシェルフとルーバーを組み合わせて、回転式
のパーゴラをつくる。



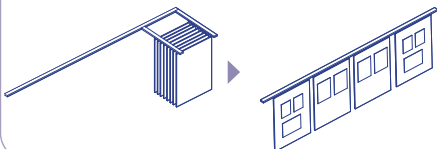
ガードレール × ベンチ

ガードレールを人の座る寸法に適合、ガードレールの
上部に座る椅子と、ガードレールが背もたれになる椅子。



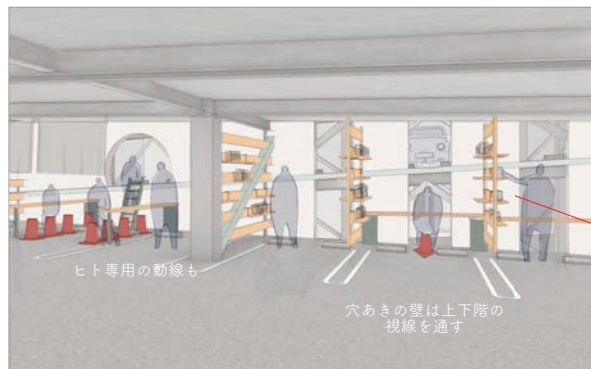
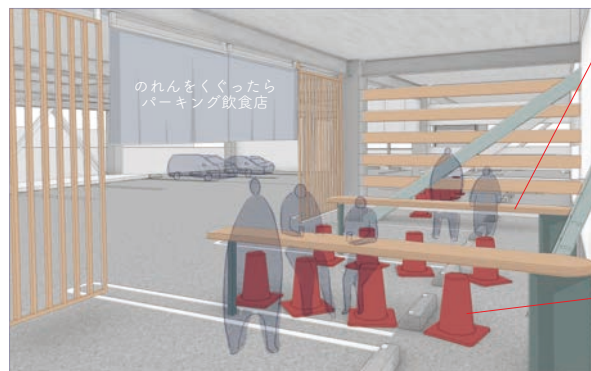
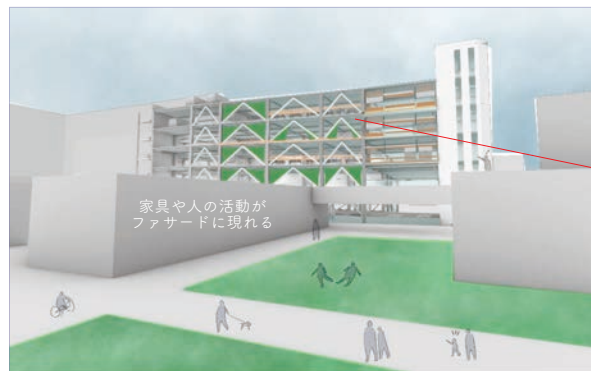
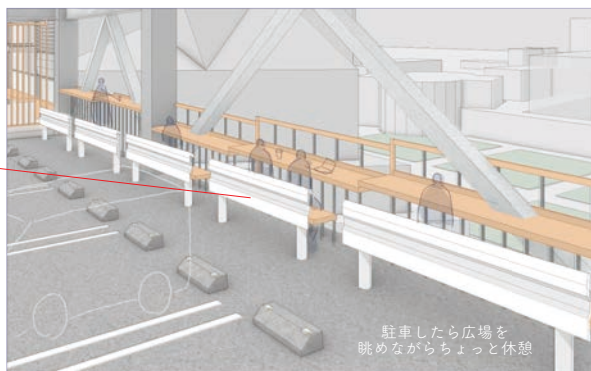
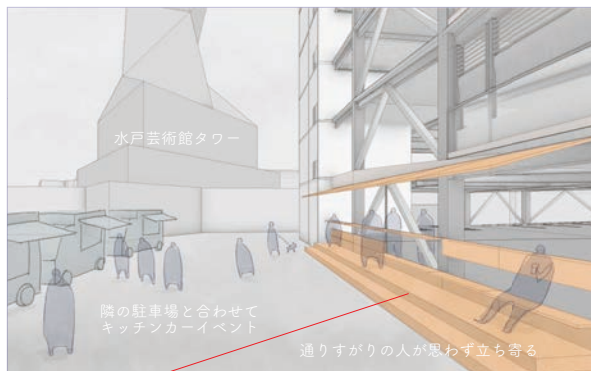
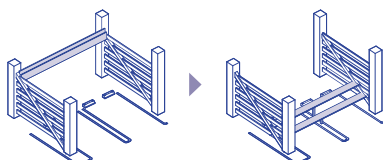
フレキシパーテーション

梁にレールを設けて可動壁を吊るし、ギャラリーや展覧会
を開催する。空間を区切る間仕切りの役割も果たす。



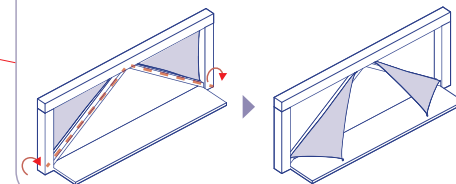
スライドテーブル

既存のブレースが可動式の棚のレールとなる。上部に
収納されている板を下ろし、テーブルとして利用する。



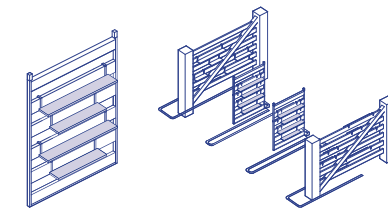
ファサード × パップテント

外周部に取り付けられた布を操作することでテント
のような空間が生まれる。人の活動でファサードが
変化する。



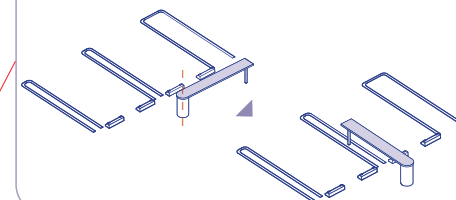
ルーバー × シェルフ

柱間にルーバーを掛け、棚を掛けることで新たな使われ方
を生み出す。駐車に影響しないように棚は取り外し可能。



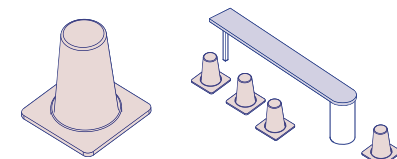
回転テーブル

回転させてテーブルを展開させ店などを開く。展開させない
状態では駐車した個人のテーブルとして使用できる。



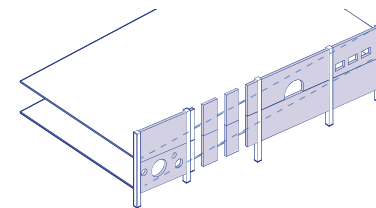
カラーコーン × スツール

カラーコーンを人の座る寸法にスケールダウンさせ、
椅子としても利用できるように。



ビジブルウォール

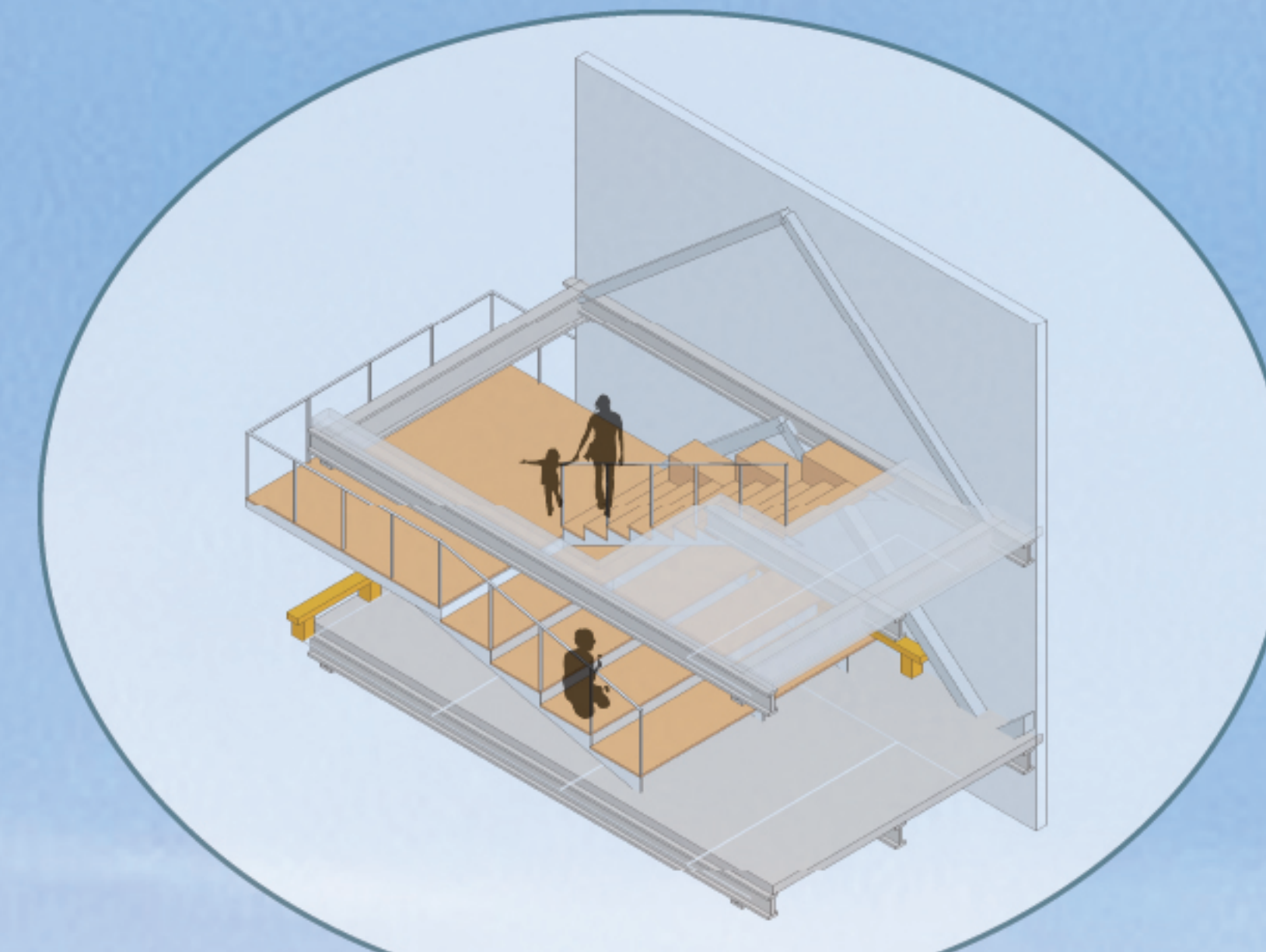
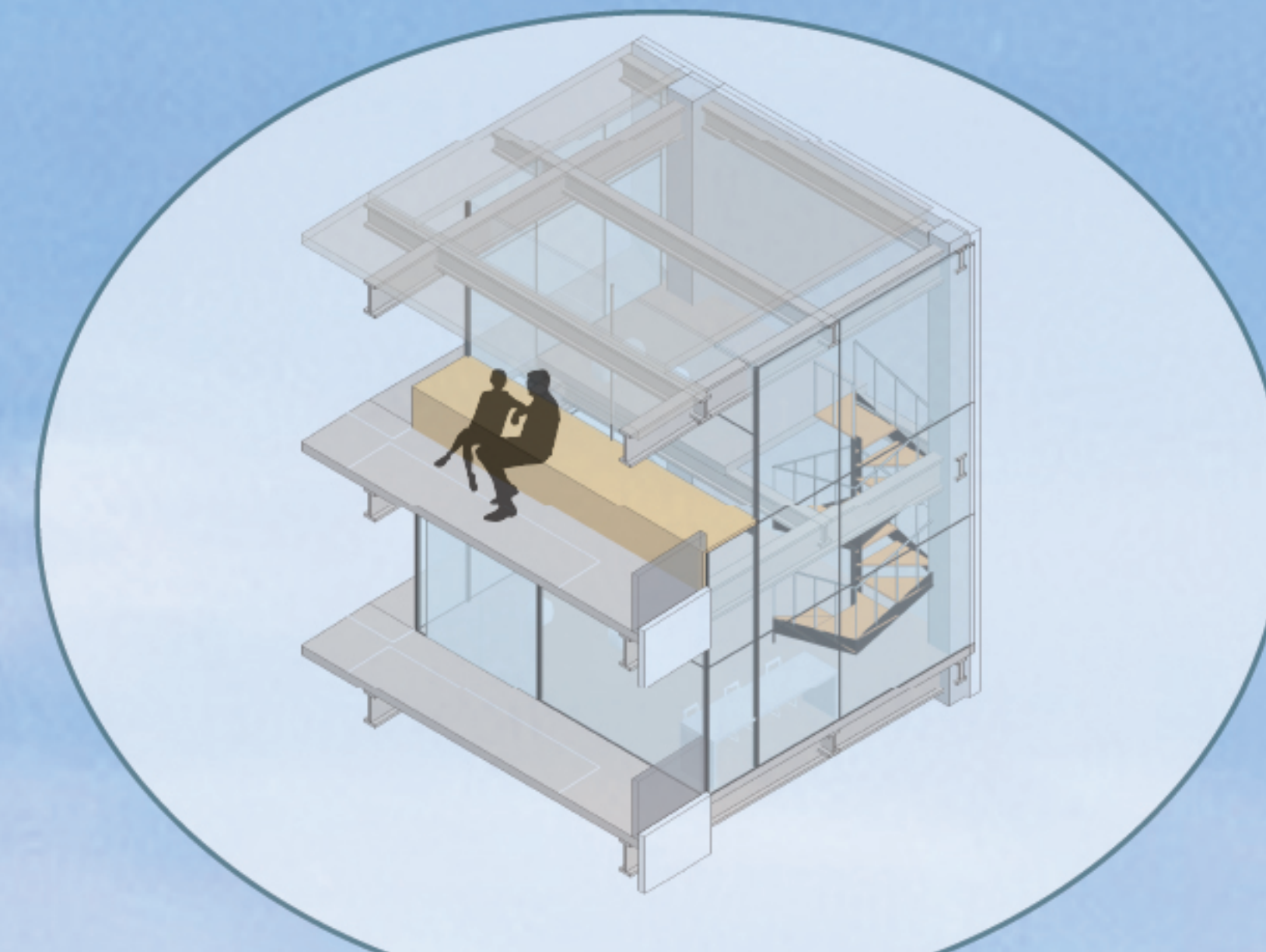
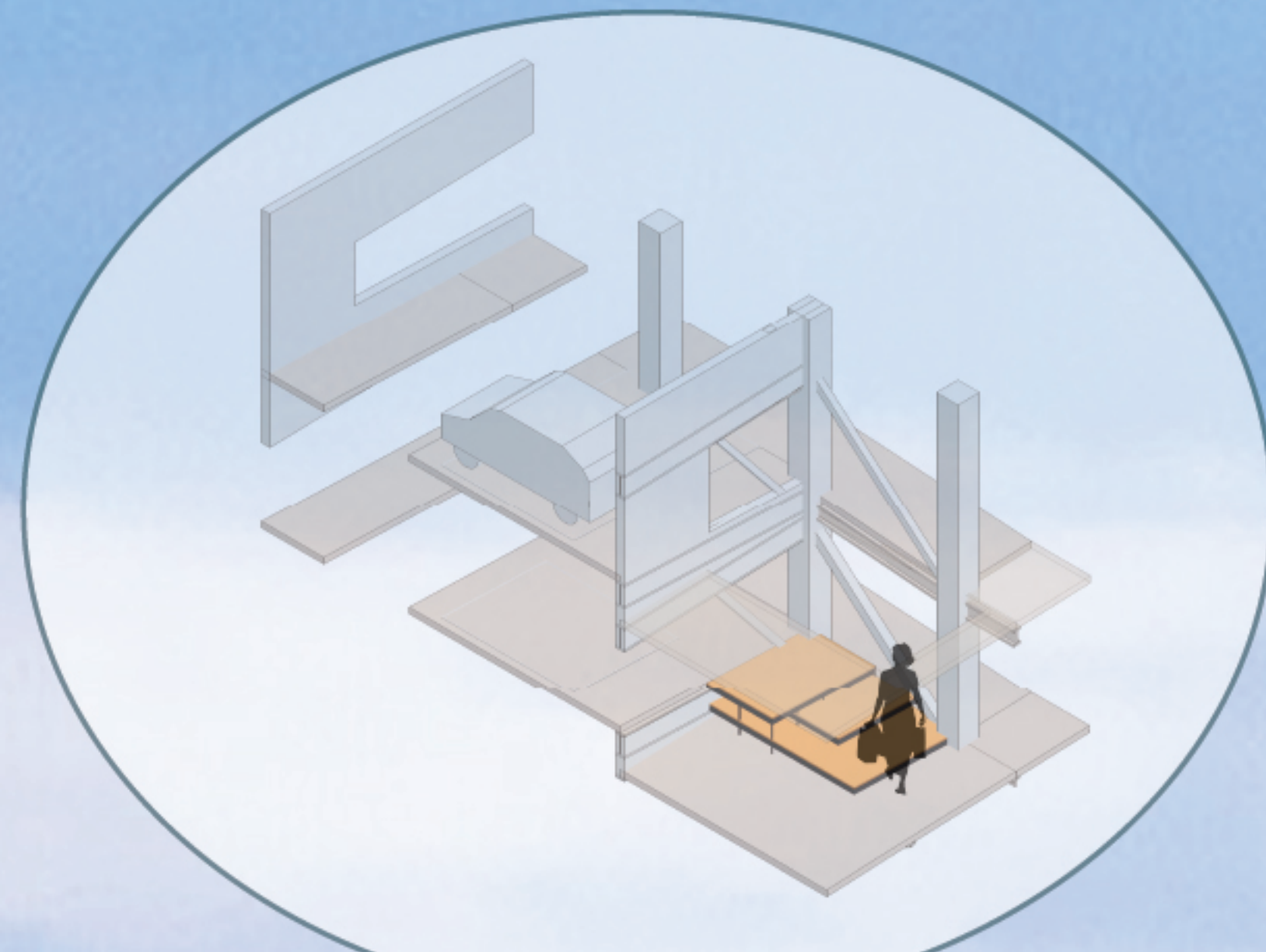
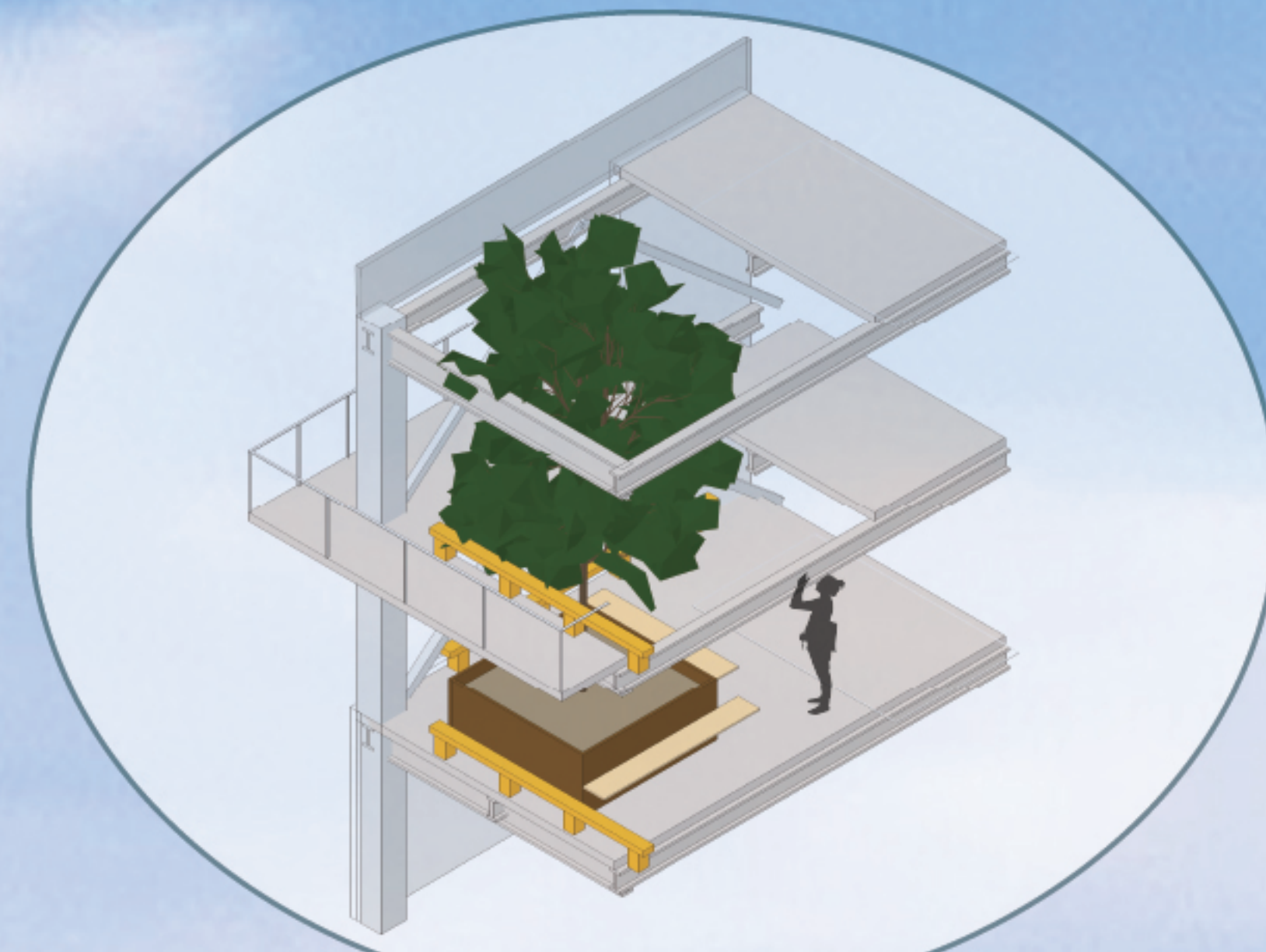
これまで閉じられていた壁面に穴をあけ、新たな視線の
通りや対人関係を生み出す。



しかけの

歩
ほ
え
み

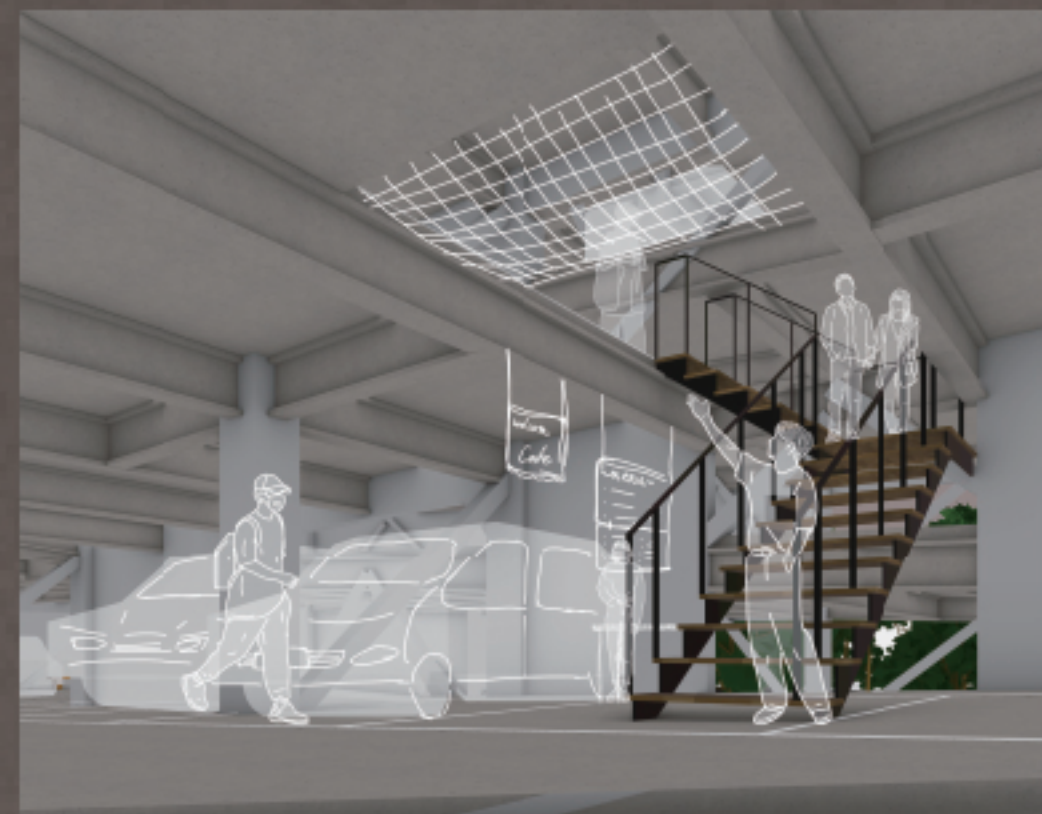
水戸三の丸
パーキング
ウォーク
ابل計画



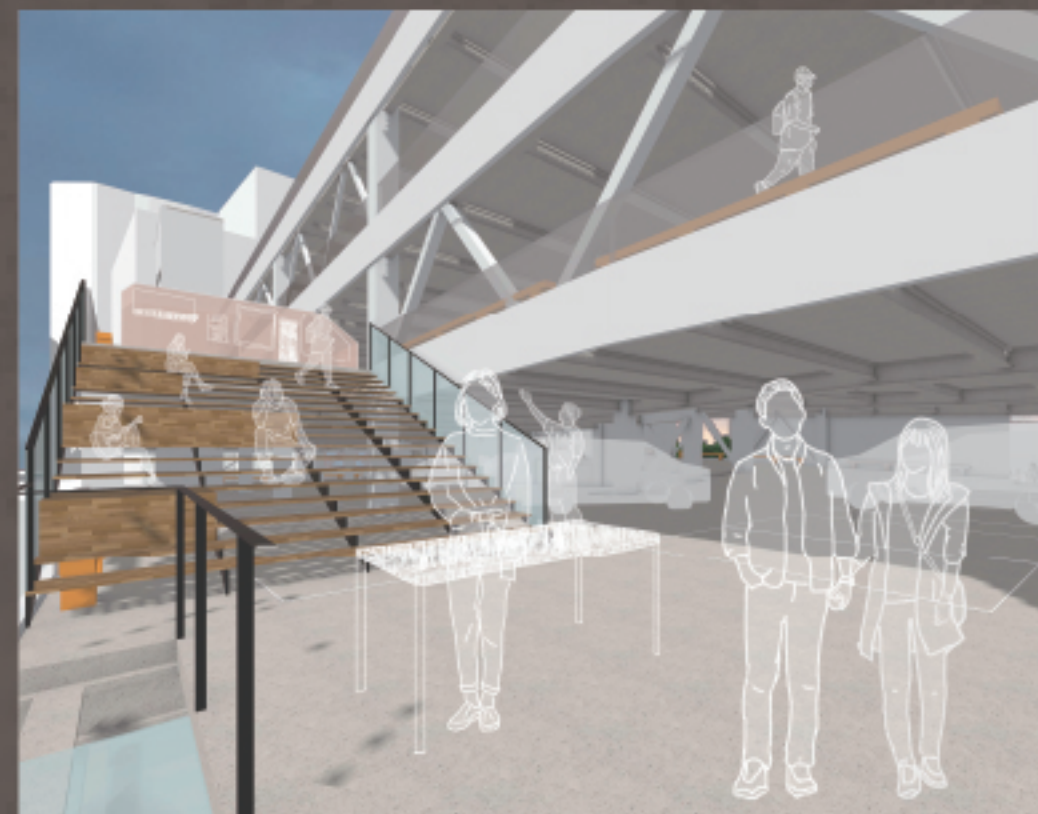
北側の歩道から見る



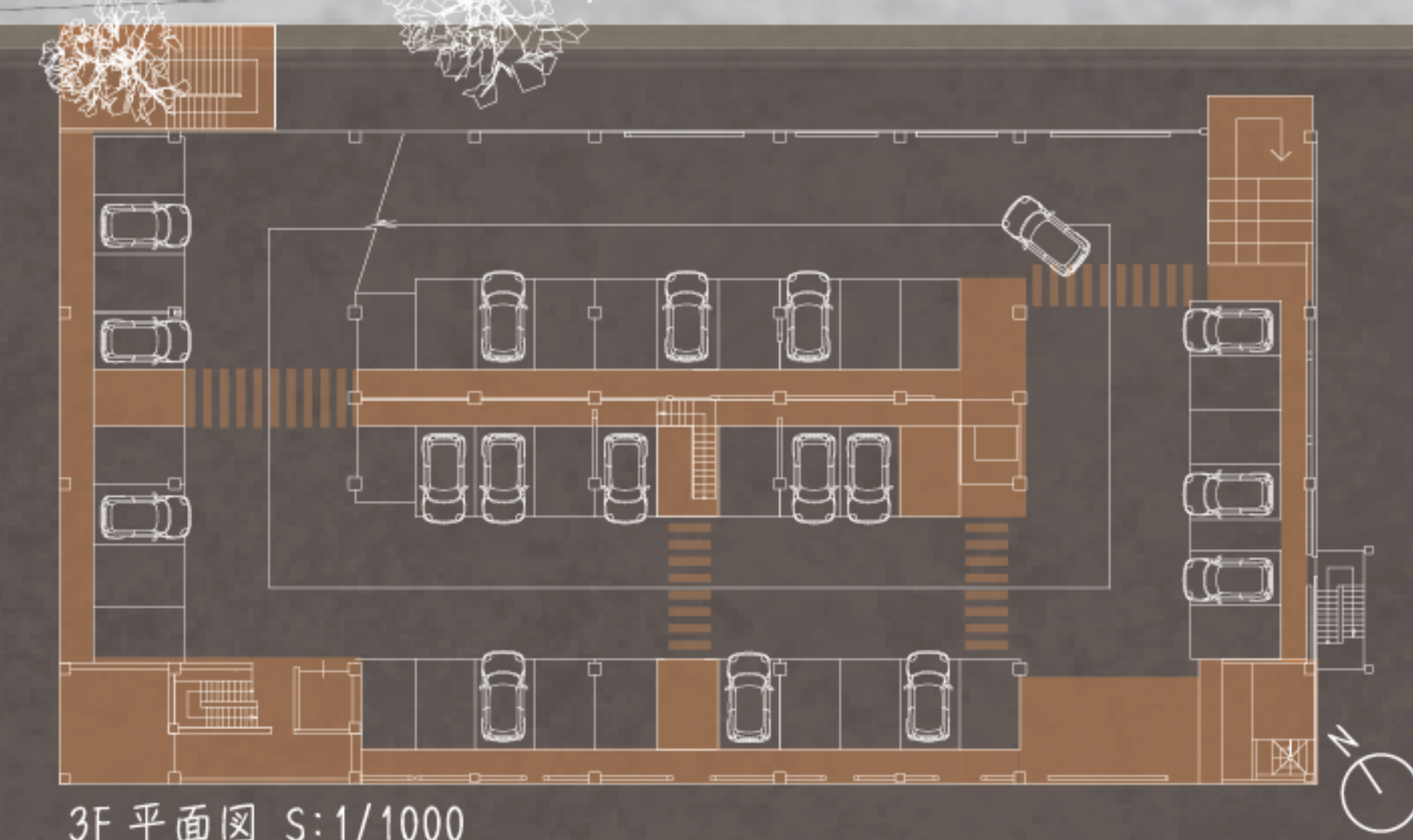
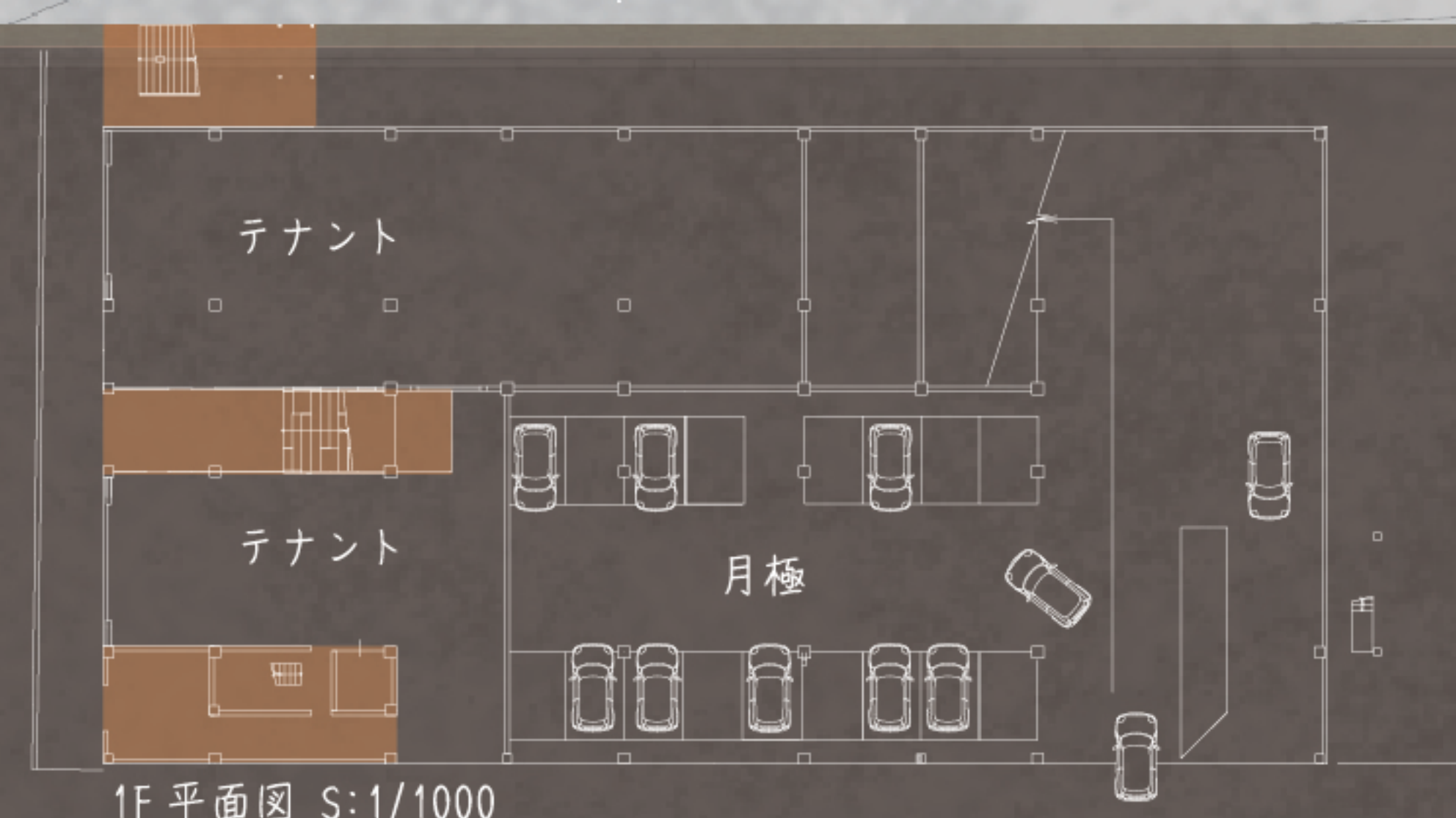
エントランスを見る



2F 階段を見る



3F 南側階段を見る



デジタル水戸プロジェクト

建物や道路から路上のごみ箱まで、町を構成する大小各種の物とその配置は、自然の作用とその場所に関わる多数の人の利用により日々更新される景観を構成している。

デジタル技術の発達、意図的行為や不意の働き、複雑に絡まりあう移ろいやすく捉え難い町の物理的状況を包括的に計測し記録することを可能にしつつある。記録をもとにデジタルに構成された町の3次元モデルは、変化する町のある日の文化的景観とそれを巡る様々な記憶を追体験するメディアとなる。

町の3次元モデルは、実体が機械的に記録され表出されたものではない。物理的状況の正確な記録と3次元モデルをコンピュータ上で経験する人のスムーズな知覚と認識とを同時に実現するバランスの達成を目指して記録方法と表現とが選択された作品である。そこにはさらに町と制作者との関りが反映される。

今回は、高精度の記録を経験可能な1人用の「デジタル泉町3丁目2」と、複数人で共用できモデルの利用可能性を広げる「メタバース水戸芸術館」という水戸市街の2つの3次元モデルを制作した。

モデルの制作は、一般に入手できる機材とソフトウェアでつくることができることを条件とした。制作の手順は以下のとおりである。

1. 町を歩き、建物、街路などの各部をレーザースキャンし3Dの点群データ、メッシュデータを得る。あるいは、写真で撮影し、フォトグラメトリソフトで点群データ、メッシュデータを得る。
2. 1.で得た3Dのデータを統合して街区スケールのモデルを構成する。
3. ゲーム用ソフトウェアを用いて街区の3Dモデルをメタバースで利用可能な形式へ変換する。
4. 変換された3Dモデルをワールドとするメタバースを作成する。



デジタル泉町3丁目2

各種都市施設をつなぐように複雑に発達した駐車場の、都市の新たなコモン空間としての可能性を感じられる街区である。異なる駐車場を横断しながら歩くことで町の新たなつながりが経験される。3次元モデルは異なる考え方で作られた街区の複数の部分のパッチワークからなる。発展途上のデジタル技術において、目的、課題、解決法の違いから生じる表現の差異と広がりを実現する見取り図となることを意図した。



レーザースキャンによる建物部分のデータ取得



建物部分の3次元モデル(メッシュデータ)



統合された泉町3丁目2の街区モデル



上から: 泉町仲通り入口／金刀比羅神社参道／駐車場からの旧川崎銀行水戸支店の眺め／駐車場からの街区内部の眺め

メタバース水戸芸術館

市民生活の中心となる広場とそれを取りまく建築群を3次元モデル化した。実物同様に複雑な通路を回遊できることに加えて、2階からの大ジャンプなどデジタルならではの空間経験ができる。形とテクスチャの精度を抑えた簡易3次元モデルとすることでデータ量を少なくした。VRゴーグル、スマホ、パソコン等各種デジタル機器から下の2次元バーコードを読み込んでアクセスできる。

一般に入手できるそれ程高価ではないスキャン用の機材はレーザーの届く範囲が限定されているため、何をどこまでどのようにスキャンするか、得られた部分モデルをどのように接合し街区モデルへ統合するか、各作業ステップで選択肢があり、ひとつひとつの選択およびそれらの総体によってモデルは異なる姿になる。撮影についても同様である。例えば、モデル内を散策した際に自分がその場所にいる感覚を増すため、地上レベルのメッシュ密度を上げるなどがなされている。将来的に町の一部を誰もが3Dモデル化して追加するようになることを想定し、部分モデルをメッシュデータとし、後にそれをつなぎあわせて街区モデルは作成されている。



水戸芸術館の世界



メタバース水戸芸術館へのリンク

各部およびモデル全体には、作成時の町の空間的特徴、そうした特徴の居住者による使いこなし方、居住者など関係者と制作者との関りが反映されている。駐車場が散在し誰でも入ることのできる開かれた場になっている水戸の特徴から、街区モデルは敷地内部までを含むものとなっている。さらに、居住者、地権者と制作者との関りからある所では建物内部までモデル化され別の所はモデルから欠落している。これらの3次元モデルを用いたメタバースは、同地区を対象とする国際デザインワークショップで筑波大学とグルノーブル・アルプ大学(フランス)の参加者によって共同利用された。両者が遠隔から参集し、内部を探索し、レクチャーと討論をし、デザイン発表をする場として用いられた。レクチャーでは水戸芸術館井関氏に参加いただいた。ワールドは誰にでも解放されており、ワークショップ中には予期せずデジタル世界を散策する外部者の参加もあった。町の3次元モデルを用いたメタバースが、実地の関係者と遠隔地や外出困難の人々にとって町をバーチャルに経験し、交流し継承する媒体となり得る可能性を示している。ワークショップで制作された作品の一部をメタバース内に展示している。



上から:VRゴーグルを用いたメタバース体験/メタバース水戸芸術館でのレクチャー



上から:メタバース内の探索1/メタバース内の探索2/メタバース内での交流

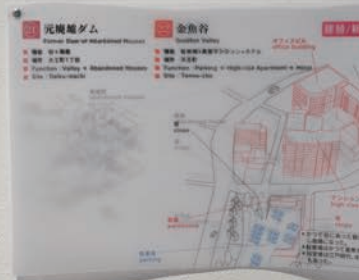
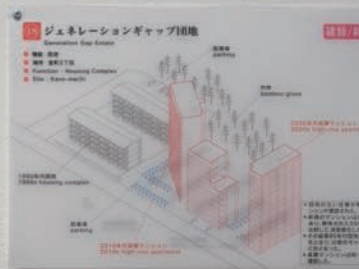
展示風景

水戸市民会館開館記念事業
 アートセンターをひらく 2023－地域をあそぶ
 2023年7月22日(土)～10月9日(月・祝)
 『続・水戸空間診断 re-weave』
 水戸芸術館現代美術ギャラリー

水戸空間ガイド2023

水戸空間ガイド2023

水戸空間ガイド2023



デジタル水戸プロジェクト



デジタル水戸プロジェクト

パーキングスタディーズ





参考文献

『dead or alive 水戸空間診断』筑波大学貝島研究室+アトリエ・ワン、アートによる街の再生のための地域教育支援事業実行委員会、2004年
『概説水戸市史』水戸市史編集委員会、水戸市、1999年
『今昔水戸の地名』堀口友一、暁印書館、1981年
『写真集 明治大正昭和 水戸』武藤正、国書刊行会、1984年
『通勤・通学流動』国務調査報告、総務庁統計局、2004年
『中心市街地等関連調査報告書』水戸市
『都市の中の湖：千波湖と水戸の歴史』大槻功、茨城大学五浦美術文化研究室、文眞堂、2001年
『まっふるマガジン 080 茨城』昭文社
『水戸のいまむかし』武藤正、国書刊行会、1991年
『水戸市近現代年表』水戸市史編集部、水戸市役所、1991年
『みと：現時点でとらえた水戸の過去と将来』金子朱明、水戸ぶろむなど社、1970年
『水戸市第4次総合計画』水戸市、水戸市、1994年
『水戸市統計資料 2000』茨城県統計資料、2004年
『水戸大観：並に商工名鑑』水戸民報社大観編集部、茨城民報社、1954年
『水戸の概要 平成15年版』水戸市市役所、水戸市、2004年
『水戸の近代100年』武井邦夫、茨城新聞社、1990年
『水戸の町名 地理と歴史』茨城歴史地理の会、水戸市役所、1982年
『コンバクト設計資料集成 第2版』日本建築学会、丸善出版、1994年
『水戸の城下町 MAP 幕末版 第5版』小野寺淳、一般社団法人水戸観光コンベンション協会、2023年
大和リース株式会社 HP(<https://www.daiwalease.co.jp/service/automobile/parking/>)
パーク24株式会社 HP(<https://www.park24.co.jp/service/parking.html>)
Google Map (<https://www.google.co.jp/maps>)
まちの宿 (<https://www.machinoyado.com>)

参照地図

ゼンリン住宅地図 水戸市 '69/77/80/87/90/97/00/03/04/07/09/11/12/14/19/22
国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス (<https://www.gsi.go.jp/tizu-kutyu.html>)
「水戸武士小路明細図」徳川初期
「水戸城下町絵図」天保年間(1830-1843)
「水戸地図(水戸の町名付録地図二)」天保元年(1830)
「水戸市街改正略図」明治23年(1890)
「水戸市街改正略図」明治34年(1901)
「水戸市現勢地図」明治42年(1909)
「水戸市現勢地図」大正2年(1913)
「水戸市街明細地図復元図」大正8年(1919)
「水戸全地図」大正11年(1922)
「水戸市全図」昭和3年(1928)
「水戸市改正地図」昭和9年(1934)
「水戸市平面図(水戸の町名付録地図)」昭和9年(1934)
「水戸市地図」昭和36年(1961)[折りたたみ]
「水戸市」昭和57年(1982)[折りたたみ]
「水戸市街図」昭和57年(1982)[折りたたみ]
「地形図」昭和58年(1983)
「地形図」平成10年(1998)

取材協力

水戸市都市計画課、水戸市産業経済部商工課、株式会社水戸京成百貨店、水戸三の丸パーキング、水戸市五軒町立体駐車場

*先行調査期間2022年10月～2023年6月

*調査範囲水戸城下町の〈馬の背台地〉と呼ばれる中心市街地を範囲とし、南北は台地下道路まで、東は鉄道線路、西は県道50号のさらに西側一街区までとした。